

# 令和 6 年度 教育改善報告書

— 効果的かつ効率的な教育活動を目指した点検評価 —

令和 7 年 3 月

長野工業高等専門学校  
教育改善委員会

# 令和6年度 教育改善報告書目次

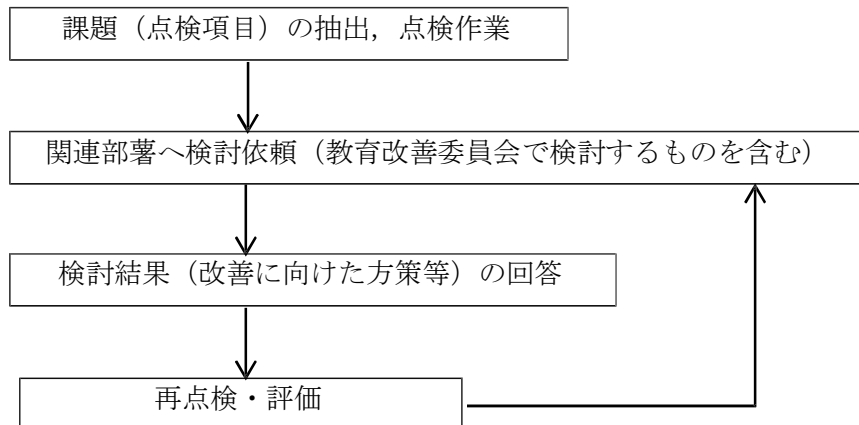
|                                                                            |     |
|----------------------------------------------------------------------------|-----|
| 1. 令和6年度 教育改善委員会の活動内容.....                                                 | 1   |
| 1-1 目 的.....                                                               | 1   |
| 1-2 点検業務の流れ (Check) .....                                                  | 1   |
| 1-3 課題の分類, 改善提案 (Action)→ (Next Plan) .....                                | 1   |
| 1-4 今年度の主な活動内容 .....                                                       | 2   |
| 2024 (令和6) 年度教育改善委員会業務分担 (案) .....                                         | 4   |
| 2024 (令和6) 年度教育改善委員会カレンダー .....                                            | 5   |
| 2. 各委員会の重点項目の点検システム.....                                                   | 6   |
| 1. 情報端末機器の継続に関する検討.....                                                    | 7   |
| 2-1 教務委員会 .....                                                            | 9   |
| 2-2 学生支援委員会.....                                                           | 15  |
| 2-3 寮務委員会.....                                                             | 23  |
| 2-4 専攻科運営委員会 .....                                                         | 27  |
| 2-5 図書館.....                                                               | 30  |
| 2-6 広報企画室.....                                                             | 33  |
| 2-7 技術教育センター.....                                                          | 38  |
| 2-8 情報教育センター.....                                                          | 41  |
| 2-9 国際交流センター.....                                                          | 44  |
| 2-10 グローバルエンジニア育成センター.....                                                 | 47  |
| 2-11 男女共同参画推進室.....                                                        | 50  |
| 2-12 進路支援室.....                                                            | 55  |
| 2-13 入試広報室.....                                                            | 58  |
| 2-14 教育改善委員会.....                                                          | 61  |
| 3. 令和6年度における各種点検報告.....                                                    | 62  |
| 3-1 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検.....                                           | 62  |
| 3-1-1 本科5年のアンケート調査.....                                                    | 62  |
| 3-1-2 専攻科のアンケート調査.....                                                     | 63  |
| 3-2 学生との意見交換会に関する点検.....                                                   | 64  |
| 3-3 令和6年度参与会で出された改善点の整理.....                                               | 66  |
| 3-4 実施済研修会の効果の点検およびその改善.....                                               | 68  |
| 4. 令和6年度 FD 研修会実施報告 .....                                                  | 71  |
| 4-1 第1回 FD 学生のモチベーションを高めるメンタリングとは?～ 演習型科目におけるメンターの役割 ～<br>2025年9月30日 ..... | 71  |
| 4-3 第3回 FD 地域連携について 2025年1月29日 .....                                       | 78  |
| 4-4 第4回 FD 英語リスニングの学習方法 2025年3月26日 .....                                   | 82  |
| 5. 令和6年度の活動に向けた各種委員会等への提言 .....                                            | 86  |
| 付録 .....                                                                   | 89  |
| 付録1 令和6年度学習・教育目標の学生の自己達成度に関する調査報告書 .....                                   | 89  |
| 付録2 令和6年度専攻科学習・教育目標の達成度評価の確認報告 .....                                       | 92  |
| 付録3 令和6年度学生との意見交換会 議事録 .....                                               | 95  |
| 付録4 令和6年度学生の満足度に関するアンケート調査実施結果 .....                                       | 100 |
| 付録5 令和6年度教育改善委員会議事概要 .....                                                 | 116 |
| 付録6 令和6年度教育改善委員会議事概要 .....                                                 | 127 |

## 1. 令和6年度 教育改善委員会の活動内容

### 1-1 目的

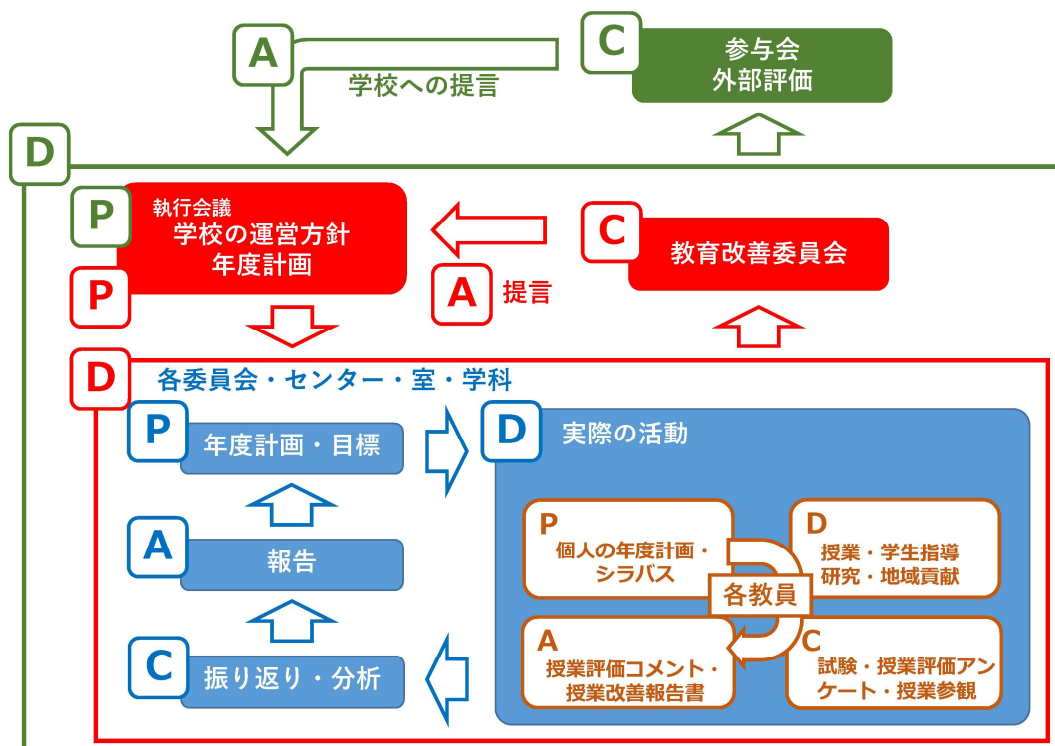
本校の教育システムを点検評価し、教育技術を向上させるための取り組み（FD）を推進し、本校の教育改善に努める。特に PDCA サイクルの A（Action）を重視し、教育改善として次のサイクルにつながる活動を推進する。

### 1-2 点検業務の流れ（Check）



### 1-3 課題の分類，改善提案（Action）→（Next Plan）

- (1) 各種委員会等の活動状況を点検した後に整理された課題
- (2) FD 研修会での結果を分析した後に整理された課題
- (3) 重点項目として教育改善委員会で取り上げた課題
- (4) アンケート調査の分析から得られた課題
- (5) 外部評価で指摘された課題
- (6) 教員，学生，保護者等から指摘された課題



#### 1-4 今年度の主な活動内容

##### (1) 2024（令和6）年度各種委員会の活動状況の点検

【各種委員会は、R6 年度校務分掌の変更により、教務、学生支援、寮務、専攻科運営、図書館、広報企画室、技術教育センター、情報教育センター、国際交流センター、グローバルエンジニア教育センター、男女共同参画推進室、進路支援室、入試広報室、教育改善の14委員会とする。】

- ・2024（令和5）年度教育改善委員会より提言した課題の検討・改善状況を点検する。  
（令和5年度教育改善報告書を参照）
- ・2024年度当初に提示された計画に基づいて行った活動内容を点検する。
- ・2025年度の活動に向けた課題を整理し提言する。

##### (2) 授業改善システムの実施と評価・点検

- ・授業改善用チェック・提言シートに基づいて実施する。
- ・当システムの評価・点検を行う。

##### (3) 学習・教育目標の達成度（本科5年）に関する調査の点検および

自己評価シート（学年別 学習・教育目標の達成度）に関する改善方法の点検

- ・平成26年度本科1年～5年生は新システムを導入したが活用方法が明確でなかったため、平成30年度から教育システムの改善につなげることを目的として、新たな自己評価シートを作成した。

##### (4) 学生との意見交換会に関する点検

- ・2024年度開催の意見交換会について点検および評価を行う。

##### (5) 2024年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理

- ・2024年度の参与会（2月開催）の点検と提言

##### (6) 卒業生・企業向けアンケート調査結果からの改善点を検討・評価し各部署へ改善点を依頼

教育改善に向けた作業計画（申し合わせ事項）【（ ）は前回の年度】

- 1年目（令和2（H27）年度）：改善内容の検討と各部署への依頼
- 2年目（令和3（H28）年度）：改善内容の実施
- 3年目（令和4（H29）年度）：改善内容の実施
- 4年目（令和5（H30）年度）：改善内容を含めた教育システムの評価
- 5年目（令和6（R1）年度）：卒業生・企業向けアンケート調査の実施**
- 6年目（令和7（R2）年度）：改善内容の検討と各部署への依頼

##### (7) 実施済FD研修会の効果の点検およびその改善

- ・アンケートをタイムリーに実施し、FD研修会の効果を確認する。
- ・FDの効果の計り方とし、報告書をメールで全教員に配布し実践を呼びかける。年度末にFD総括アンケートを実施し効果をはかる

（3月上旬）

##### (8) FD研修会の企画・開催および報告書の作成

第1回FD：2024年9月30日 エンジニアリングデザイン入門（2年生）担当者・教育改善委員会

学生のモチベーションを高めるメンタリングとは？ みらいスタジオ 野村 泰暉 氏

第2回FD：2024年11月13日 学校いじめ対策委員会・教育改善委員会

いじめ防止と対策ポリシーといじめ防止等基本計画 スクールソーシャルワーカー青木三枝子 氏

第3回FD：2025年1月29日 教育改善委員会

地域連携について 研究主事 田中 秀登 教授

第4回 FD：年 2025 年 3 月 26 日 教育改善委員会

英語リスニングの学習方法 リベラルアーツ教育院英語科 高桑 潤 教授

(9) エビデンス収集・保管と方法の検討

- ・ 教育改善委員会（チーフ：委員長）が担当する。

(10) 試験問題レベルの保証確認（対象は4年以上の科目） → 結果は学生課で保管

- ・ 年2回実施（前期10月，後期3月）
- ・ 各学科の保証確認作業は各学科の教育改善委員会委員が行う。

(11) 試験問題類似度点検

- ・ 前年度問題と比較して、類似度が70%以上であれば、教科担当に注意を伝える。
- ・ 科目は全対象教科を3年で1回点検できるように選択し、点検結果を教育改善委員会に報告する。
- ・ エビデンスのそろった2～3月に実施し、グループウェアに提出する。

(12) 学生満足度のアンケート

- ・ 2月上旬に課長補佐から学生にメールで依頼し実施、試験後特別編成授業などで回答数が増えるように配慮する

(13) 各部署への検討依頼，回答の集約

(14) メール目安箱への対応

(15) 2025年度版教育改善報告書の編集・発行

教育改善委員会開催

第1回 6/5： 活動方針・業務分担，科各種点検・改善システム，エビデンス収集  
前年度報告書

第2回 7/31： FD研修計画，エビデンス，各委員会の重点項目，授業改善システムの実施

第3回 10/2： 試験レベル保証の確認，授業改善システムの実施，FD研修計画，業生・企業  
アンケート

第4回 11/27： 授業改善システム状況，エビデンス状況，FD研修，生・企業アンケート結果

第5回 1/27： エビデンス・試験問題チェックレベル，教育改善報告書作成依頼，FD研修

第6回 3/18： エビデンス・試験問題チェックレベル，自己点検評価表点検項目チェック  
本年度の活動について，教育改善報告書の作業状況，学生満足度調査

その他 電子メール：FD研修会の実施について

：エビデンス収集作業依頼

：試験問題レベルの保証（作業依頼）＊対象は4年以上の科目

2024（令和6）年度教育改善委員会業務分担（案）

|      | 担当項目                                       | 松下    | 鈴木(宏)        | 原            | 小林裕          | 中島           | 遠藤           | 大西           | 金田           | 事務 | 備 考           |
|------|--------------------------------------------|-------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----|---------------|
| (1)  | 本年度各種委員会の活動状況の点検                           | ◎教育改善 | グローバル・広報     | 男女共同         | 専攻科          | 教務・教育支援      | 図書           | 学生支援<br>進路支援 | 寮            | ○  | 6月上旬          |
| (2)  | 授業改善システムの実施と評価・点検<br>（作業含む）                | ◎     | ○<br>（電気）    | ○<br>（情報）    | ○<br>（機械）    | ○<br>（制御）    | ○<br>（環境）    | ○<br>（一般）    | ○<br>（一般）    |    | 7月依頼<br>9月上旬  |
| (3)  | 学習・教育目標の達成度に関する調査の点検<br>自己評価シートに関する改善方法の点検 | ○     |              | ◎            |              |              | ○            |              |              |    | 9月上旬          |
| (4)  | 学生との意見交換会の点検                               | ○     |              | ○            |              |              |              |              | ◎            |    | 6月上旬          |
| (5)  | 参与会で出された改善点の整理                             | ○     |              |              | ◎            |              |              |              |              |    | 6月上旬          |
| (6)  | 学生の満足度調査結果から改善内容を含めた教育システムの評価              | ○     |              |              |              |              |              | ◎            |              |    | 2月上旬          |
| (7)  | 実施した研修会の効果の点検と改善                           | ○     | ◎            |              |              | ◎            |              |              |              |    | 7月下旬          |
| (8)  | FD研修会の企画・実施                                | ○     | 第1回<br>企画・報告 | 第2回<br>企画・報告 | 第2回<br>企画・報告 | 第3回<br>企画・報告 | 第1回<br>企画・報告 | 第3回<br>企画・報告 | 第3回<br>企画・報告 | ○  | 随時            |
| (9)  | エビデンス収集・保管の改善（実務作業含む）                      | ◎     | ○            | ○            | ○            | ○            | ○            | ○            | ○            |    | 各期末           |
| (10) | 試験問題レベルの保証確認                               | ○     | ○<br>（電気）    | ○<br>（情報）    | ○<br>（機械）    | ○<br>（制御）    | ○<br>（環境）    | ○<br>（一般）    | ○<br>（一般）    | ◎  | 前期11月<br>後期3月 |
| (11) | 各部署への検討依頼，回答の集約                            | ◎     |              |              |              |              |              |              |              | ○  | 随時            |
| (12) | メール目安箱への対応                                 | ◎     |              |              |              |              |              |              |              |    | 随時            |
| (13) | 教育改善報告書の編集・発行（PDF形式）                       | ○     |              |              |              |              | ◎            |              |              | ○  | 3月下旬          |

# 2024（令和6）年度教育改善委員会カレンダー

## 教育改善委員会カレンダー

|                                | 4月 | 5月        | 6月              | 7月        | 8月          | 9月        | 10月     | 11月                     | 12月 | 1月          | 2月          | 3月          | 4月 |
|--------------------------------|----|-----------|-----------------|-----------|-------------|-----------|---------|-------------------------|-----|-------------|-------------|-------------|----|
| (1)各種委員会の活動状況の点検               |    | 計画依頼<br>→ |                 |           |             | フォロー      |         |                         |     |             | 報告依頼<br>→   | チェック提言<br>→ |    |
| (2)授業改善システムの実施と評価・点検           |    |           |                 |           | 前年報告配布<br>→ | 依頼<br>→   | 回収<br>→ |                         |     |             |             |             |    |
| (3)学習・教育目標の達成度（本科5年・専攻科）に関する調査 |    |           |                 |           |             |           |         | 教務委員会・専攻科運営委員会から報告を入手   |     |             | 本科・専攻科<br>→ |             |    |
| (4)学生との意見交換会に関する点検             |    |           | 本科<br>→<br>前年度分 |           |             |           |         | 学生支援委員会・専攻科運営委員会から報告を入手 |     |             | 本科・専攻科<br>→ |             |    |
| (5)参与会で出された意見に基づいた改善点の整理       |    |           |                 |           |             |           |         |                         |     |             | 実施報告<br>→   |             |    |
| (6)学生の満足度に関するアンケート調査           |    |           |                 |           |             |           |         |                         |     | 本科・専攻科<br>→ |             |             |    |
| (7)実施した研修会の効果と点検               |    |           |                 |           |             |           |         | 研修実施報告<br>→<br>配信       |     |             |             | 効果確認<br>→   |    |
| (8)FD 研修会の企画・開催および報告書の作成       |    |           |                 | 実施報告<br>→ |             | 実施報告<br>→ |         | 実施報告<br>→               |     | 実施報告<br>→   |             |             |    |
| (9)エビデンス収集・保管                  |    |           |                 |           |             | 前期<br>→   |         |                         |     |             | 後期<br>→     | 再試<br>→     |    |
| (10)試験問題レベルの保証・問題類似性の確認        |    |           |                 |           |             |           | 前期<br>→ |                         |     |             |             | 後期<br>→     |    |
| (11) 試験問題類似度点検                 |    |           |                 |           |             |           |         |                         |     |             | 実施報告<br>→   |             |    |
| (12)学生満足度のアンケート                |    |           |                 |           |             |           |         |                         |     |             | 実施報告<br>→   |             |    |

## 2. 各委員会の重点項目の点検システム

教育改善委員会

### 1. 概要

各委員会は、重点項目を定め、それに対する活動等計画を立てて、委員会活動を行っている。その活動が実際に適切に行われているか教育改善委員会が点検し、改善点等を提言している。そのPDCAサイクルを示す。

### 2. 各委員会の重点項目の点検システム

#### 2-1 各委員会の重点項目と活動等計画の策定 (Plan)

各委員会は、年度当初にその年度に行う重点項目とその活動等計画を定める。

#### 2-2 各委員会の活動 (Do)

各委員会は、活動等計画に基づき実際の活動を実施し、活動状況の整理を行う。

#### 2-3 教育改善委員会の評価・分析 (Check), 提言 (Act)

教育改善委員会は、活動計画に基づく実際の活動状況を点検し、次年度への提言を行う。

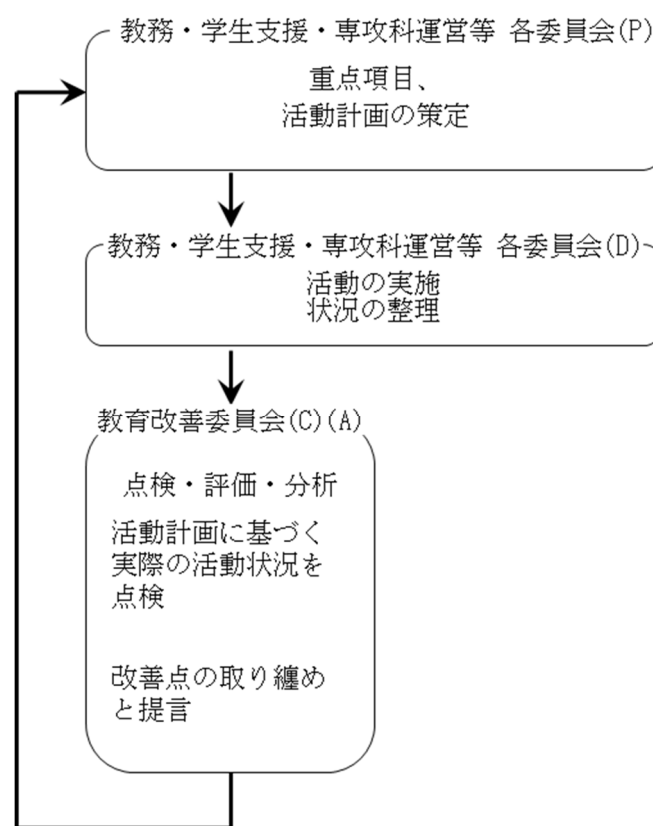


図1 各委員会の点検システム



## 令和6年度 各委員会の重点項目

| 委員会                  | 担当    | 重点項目                                                                                                            | 機関別認証<br>評価項目と<br>の対応 | 備考 |
|----------------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|----|
| 教務委員会                | 教務主事  | 1. 授業改善と学力向上<br>2. 工学科カリキュラムの整備<br>3. 教員間の連携と協働教育の推進                                                            |                       |    |
| 学生支援委員会              | 学生主事  | 1. 問題行動の未然防止<br>2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼<br>関係の構築                                                                   |                       |    |
| 寮務委員会                | 寮務主事  | 1. 寮運営に学生の意見を反映させるシス<br>テムづくり<br>2. 自立性・協調性をもったコミュニティ<br>作り<br>3. 日常運用システムの構築・見直し、お<br>よび寮施設面の充実                |                       |    |
| 専攻科運営委員会             | 専攻科長  | 1. 入学者選抜方法の見直し<br>2. 学士の取得支援<br>3. 学修総まとめ科目担当教員の増加                                                              |                       |    |
| 図書館                  | 図書館長  | 1. 国際交流図書の実施                                                                                                    |                       |    |
| 広報企画室                | 総務主事  | 1. 小中学生へのPR<br>2. 地域、地域企業へのPR<br>3. 学生、保護者、卒業生への<br>情報発信                                                        |                       |    |
| 技術教育センター             | センター長 | 1. 安全性の向上<br>2. 授業支援<br>3. 課外活動支援<br>4. 研究支援                                                                    |                       |    |
| 情報教育センター             | センター長 | 1. 情報端末機器の継続に関する検討<br>2. ネットワークの高速化                                                                             |                       |    |
| 国際交流センター             | センター長 | 1. 持続可能な国際交流にむけた活動の拡<br>充<br>2. 協定校との海外研修プログラムを学生<br>に提供<br>3. 海外派遣のための英語力向上へのとり<br>くみ（グローバルエンジニア育成センター<br>と協働） |                       |    |
| グローバルエンジニア<br>育成センター | センター長 | 学生の学習意識向上と自主的学習の<br>サポート                                                                                        |                       |    |
| 男女共同<br>参画推進室        | 室長    | 1. 教育活動全般を通じた男女共同参画の<br>推進<br>2. 男女共同参画の意識啓発<br>3. 女性教職員に対する労働環境支援                                              |                       |    |
| 進路支援室                | 室長    | 1. 各種講演会の実施<br>2. 進路担当教員とキャリアコーディネー<br>ターとが連携した進路支援<br>3. 進路決定情報の収集および分析                                        |                       |    |
| 入試広報室*1              | 室長    | 1. オープンキャンパス・各種行事<br>2. 学校説明会<br>3. 入試広報手段の改善検討                                                                 |                       |    |

|         |     |                                                                                 |  |  |
|---------|-----|---------------------------------------------------------------------------------|--|--|
| 教育改善委員会 | 委員長 | 1. 各種委員会の活動状況の点検<br>2. 授業改善システムの実施と評価・点検<br>3. FD 研修会の企画・開催と評価<br>4. エビデンス収集・保管 |  |  |
|---------|-----|---------------------------------------------------------------------------------|--|--|

\* 1 : R6 年度校務分掌の変更により、「入試広報室」を追加した。

## 2-1 教務委員会

## 令和 6 年度 各委員会の重点項目への活動計画

| 委 員 会 | 担当   | 重 点 項 目                                              |
|-------|------|------------------------------------------------------|
| 教務委員会 | 教務主事 | 1. 授業改善と学力向上<br>2. 工学科カリキュラムの整備<br>3. 教員間の連携と協働教育の推進 |

## 1. 授業改善と学力向上

- ・校内学習塾等を活用した学力向上への取り組み
- ・授業公開やアンケート，FD 研修会等の活性化
- ・ポートフォリオ教育の推進と分野横断的能力の育成

## 2. 工学科カリキュラムの整備

- ・工学科新設科目の詳細計画と実施
- ・工学科カリキュラムの確認
- ・Web シラバスの整備

## 3. 教員間の連携と協働教育の推進

- ・学科・科目間連携，専攻科との連携の強化
- ・他高専，他大学との連携推進
- ・アントレプレナーシップ教育の検討

## 令和6年度 教務委員会の重点項目への取組結果報告

| 委 員 会 | 担当   | 重 点 項 目                                              |
|-------|------|------------------------------------------------------|
| 教務委員会 | 教務主事 | 1. 授業改善と学力向上<br>2. 工学科カリキュラムの整備<br>3. 教員間の連携と協働教育の推進 |

## 1. 授業改善と学力向上

- ・校内学習塾等を活用した学力向上への取り組み  
校内学習塾について、Teamsを用いた情報共有を合わせて実施した。  
多くのTAが参加し、講座数は3タームそれぞれ46, 51, 49で開講した。
- ・授業公開やアンケート、FD研修等の活性化  
教育改善を目的とする授業公開および授業評価アンケートを実施した。  
授業公開で参観推奨授業を設定し、これらのほぼ全て科目に参観者を確認した。  
授業評価アンケートは、全科目で実施し、授業外学習時間等の設問を追加した。
- ・ポートフォリオ教育の推進と分野横断的能力の育成  
4年生で年度当初からOne Noteを用いたポートフォリオの運用を開始した。  
4・5年がポートフォリオを活用する体制となったが、学生が自らの単位修得状況を把握できる仕組みについては検討を継続する。  
分野横断的能力のセルフチェックを年度末に全学年で実施し各学年の傾向など、結果を共有した。

## 2. 工学科カリキュラムの整備

- ・工学科新設科目の詳細計画と実施  
令和7年度からはじまる「エンジニアリングデザイン実践」について、授業担当者を中心に具体的な運用を検討した。  
副専攻科目の対象学生と配置を決定し、前期に科目を多くする方針で調整した。
- ・工学科カリキュラムの確認  
授業配置の検討を行い、学生の科目選択の幅が増える方向への修正を行なった。  
MCCとの対応確認表を作成した。
- ・Webシラバスの整備  
4年新設科目を含めて担当者の変更等を確認し、Webシラバスを整備した。

## 3. 教員間の連携と協働教育の推進

- ・学科・科目間連携、専攻科との連携の強化  
物理、数学と専門科目による科目間連携会議を実施し、情報の共有を行った。  
本科専攻科研究発表会について、実行委員会を専攻科長、系長、専攻長、5学年担任で組織し、教務委員がその取りまとめを担う形式で実施した。
- ・他高専、他大学との連携推進  
高専間提供科目および他大学からのオンライン科目受講者募集について学生に周知し、受講科目について確認を行った。  
本校で開講する高専間提供科目について、受講および成績評価の確認を行った。
- ・アントレプレナーシップ教育の検討  
次年度から始まる「エンジニアリングデザイン実践」に向けて、技術振興会や校内各部署からのテーマ募集を進めている。  
「学外コンテスト出場者報告会」など、ソーシャルイノベーションサポートセンターとの連携について検討を継続する。

## 令和 6 年度 教務委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の 4 段階で行う。

## (1) 取組結果報告に基づく評価

| 重 点 項 目         | 活 動 等 計 画               | 評価 | 根拠・確認 事項                                                                                                                                                                                                                         |
|-----------------|-------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 授業改善と学力向上    | 校内学習塾等を活用した学力向上への取り組み   | ◎  | 第 5 回教務委員会-協議<br>題 2「校内学習塾について」<br>第 8 回教務委員会-協議<br>題 5「校内学習塾について」<br>第 10 回教務委員会-協議<br>題 5「校内学習塾について」                                                                                                                           |
|                 | 授業公開やアンケート，FD 研修会等の活性化  | ◎  | 第 2 回教務委員会-協議<br>題 3「前期授業公開について」<br>第 5 回教務委員会-協議<br>題 3「前期授業アンケートについて」<br>第 6 回教務委員会-協議<br>題 2「前期授業アンケートについて」<br>第 8 回教務委員会-協議<br>題 6「後期授業公開について」<br>第 9 回教務委員会-協議<br>題 8「後期授業アンケートについて」<br>第 12 回教務委員会-協議<br>題 10「令和 7 年度授業公開」 |
|                 | ポートフォリオ教育の推進と分野横断的能力の育成 | ○  | 第 1 回教務委員会-協議<br>題 5「4 年生ポートフォリオについて」<br>第 10 回教務委員会-協議<br>題 9「分野横断的能力の育成について」<br>第 12 回教務委員会-協議<br>題 13「分野横断的能力セルフチェックの結果について」                                                                                                  |
| 2. 工学科カリキュラムの整備 | 工学科新設科目の詳細計画と実施         | ◎  | 第 2 回教務委員会-協議<br>題 8「エンジニアリングデザイン実践の実施計画について」<br>第 3 回教務委員会-協議<br>題 6「エンジニアリングデザイン実践の実施計画                                                                                                                                        |

|                           |                         |   |                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------|-------------------------|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                           |                         |   | について」<br>第 7 回教務委員会-協議<br>題 8「エンジニアリング<br>デザイン実践について」<br>第 4 回教務委員会-協議<br>題 6「副専攻科目につい<br>て」                                                                                                                                                            |
|                           | 工学科カリキュラムの確認            | ○ | 第 2 回教務委員会-協議<br>題 1「工学科カリキュラ<br>ムの確認について」<br>第 3 回教務委員会-協議<br>題 1「工学科カリキュラ<br>ムの確認について」                                                                                                                                                                |
|                           | Web シラバスの整備             | ○ | 第 9 回教務委員会-協議<br>題 4「令和 7 年度 Web シ<br>ラバスの作成について」<br>第 11 回教務委員会-協議<br>題 4「令和 7 年度 Web シ<br>ラバスの作成について」                                                                                                                                                 |
| 3. 教員間の連携<br>と協働教育の<br>推進 | 学科・科目間連携，専攻科との連携の<br>強化 | ◎ | 第 6 回教務委員会-協議<br>題 4「卒業研究発表会・<br>特別研究Ⅱ発表会につい<br>て」<br>第 7 回教務委員会-協議<br>題 7「卒業研究発表会・<br>特別研究Ⅱ発表会につい<br>て」<br>第 8 回教務委員会-協議<br>題 4「本科・専攻科研究<br>発表会について」<br>第 9 回教務委員会-協議<br>題 7「令和 6 年度本科・<br>専攻科研究発表会につい<br>て」<br>第 9 回教務委員会-協議<br>題 10「科目間連携会議<br>について」 |
|                           | 他高専，他大学との連携推進           | ◎ | 第 1 回教務委員会-協議<br>題 8「e ラーニング高等<br>教育連携に係る遠隔教育<br>による単位互換制度（長<br>岡技術科学大学）につ<br>いて」<br>第 4 回教務委員会-協議<br>題 8「高専間単位互換科<br>目について」<br>第 4 回教務委員会-協議<br>題 9「他大学 e ラーニン<br>グ科目の単位認定につい<br>て」<br>第 6 回教務委員会-協議<br>題 8「他大学 e ラーニン<br>グ科目の単位認定につい                  |

|  |                  |   |                                                                                                                                                                                                               |
|--|------------------|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  |                  |   | て」<br>第 6 回教務委員会-協議<br>題 9「高専間提供科目<br>「論理トレーニング」の<br>履修希望状況について」<br>第 7 回教務委員会-協議<br>題 12「他高専 e ラーニン<br>グ科目の単位認定につい<br>て」<br>第 11 回教務委員会-協議<br>題 5「高専間提供科目に<br>ついて」<br>第 12 回教務委員会-協議<br>題 7「高専間提供科目に<br>ついて」 |
|  | アントレプレナーシップ教育の検討 | ◎ | 第 3 回教務委員会-協議<br>題 6「エンジニアリング<br>デザイン実践の実施計画<br>について」<br>第 7 回教務委員会-協議<br>題 8「エンジニアリング<br>デザイン実践について」<br>「学外コンテスト出場者<br>報告会」（主催：長野高<br>専ソーシャルイノベーシ<br>ョンサポートセンター）<br>が開催された。                                  |

(2) 次年度への提言

- 授業公開やアンケート，FD 研修会等の活性化  
授業評価アンケートの結果に関して、授業時間外の学習時間の確保について対応策を検討してください。
- ポートフォリオ教育の推進と分野横断的能力の育成  
ポートフォリオの実施方法、活用状況の確認について検討をお願いします。
- アン트レプレナーシップ教育の検討  
具体的な教育方法の検討および実施をお願いいたします。
- 学科・科目間連携，専攻科との連携の強化  
学科・科目間連携について、数学・物理との連携会議が実施されていますが、この他の科目についても実施してください。



## 2-2 学生支援委員会

### 令和6年度 各委員会の重点項目への活動計画

| 委 員 会   | 担当   | 重 点 項 目                                       |
|---------|------|-----------------------------------------------|
| 学生支援委員会 | 学生主事 | 1. 問題行動の未然防止<br>2. 学生会活動の支援、<br>地域住民との信頼関係の構築 |

#### 1. 問題行動の未然防止

- ・交通事故防止に向けた取り組み
- ・寮務委員会と連携した学生対応
- ・各種講習会を通じた問題行動防止への意識付け
- ・学生会と連携した問題行動防止への意識付け
- ・教員の連携による的確な学生の捉え、学生指導の徹底

#### 2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築

- ・課外活動の支援（活動のあり方や指導体制の見直しを含む）
- ・工嶺祭の支援
- ・ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築
- ・交通マナー向上や地域貢献による地域住民との信頼関係の構築

## 令和 6 年度 学生支援委員会の重点項目に関する取組結果報告

| 委 員 会   | 担当   | 重 点 項 目                                       |
|---------|------|-----------------------------------------------|
| 学生支援委員会 | 学生主事 | 1. 問題行動の未然防止<br>2. 学生会活動の支援、<br>地域住民との信頼関係の構築 |

### 1. 問題行動の未然防止

(1) 各種講習会を表 1 に示すとおり実施した。コロナ禍以降、すべての講習会を動画教材の視聴により実施してきたが、今年度は 3～5 年生向けの「交通安全講習会」および 3 年生向けの「生と性の安全講習会」は、外部から講師として警察官および医師の方をそれぞれお招きし実施した。いずれも実務に携わる専門家ならではの視点から講話をしていただき充実した内容であった。また、これらはライブ配信あるいは対面形式により実施したため、適度な緊張感が持続し、情報の伝達効率が向上したと考えられる。また、今年度は高等専門学校機関別認証評価における重要項目である SNS 利用に関する講習会を全学年に対して実施することができた。一方で、講習会の企画にあたり対象となる全クラスの日程を調整することは難しい場合が多く（補講や留学生向け科目の日程なども含む）、動画教材の視聴によるクラス単位で（場合によっては学生個別でも）実施可能な形式も活用する必要がある。

表 1 令和 6 年度 各種講習会実施概要

| 講習会の内容       | 対象学年・実施日                                      | 備考                                                         |
|--------------|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| SNS 講習会      | 1 年：4 月 18 日<br>2 年：4 月 18 日<br>3～5 年：6 月 5 日 | 特別研修のプログラム（動画視聴）として実施<br>合同特活（動画視聴）として実施<br>学生主事の講話をライブ配信  |
| 交通安全講習会      | 1 年：4 月 18 日<br>2 年：4 月 18 日<br>3～5 年：6 月 5 日 | 特別研修のプログラム（動画視聴）として実施<br>合同特活（動画視聴）として実施<br>警察官の方の講話をライブ配信 |
| 消費者被害未然防止講習会 | 2 年：4 月 18 日                                  | 合同特活（動画視聴）として実施                                            |
| 生と性の安全講習会    | 3 年：11 月 11 日                                 | 合同特活として実施                                                  |

- (2) 定例の交通安全指導を 7 回（4,5,6,7,10,11 および 12 月に 1 回ずつ）、春と秋の交通安全週間に合わせて一斉通学指導を 2 回実施した。特に、第一体育館西側丁字路における一時停止と安全確認の励行と、デイリーヤマザキ長野徳間店から高専間の歩道での他の交通に配慮した安全通行について重点的に指導を行った。前者については、近年も高専生の自転車が自動車と衝突する事故が発生している危険箇所である。今年度、4 月に指導停止線が上塗りされて見やすくなった。後者の歩道については、自転車の通行は不可で降車して通行しなければならないが、乗車のまま通行する学生も多い。本校学生の通学時の交通マナー（特に自転車の運転）について、例年、近隣住民から多くの苦情が寄せられる中、このような現状を課題として認識している。一方で、学生会が主体となり、通学時間に学校周辺の危険箇所に立ち交通マナー向上の呼びかけを行う取組みが、今年度は 2 回実施された。学校側からの指導強化もさることながら、上記の例のように学生自身が問題意識を持ち主体的に課題を解決するための取組みを支援することがより効果的であると考えられる。
- (3) (2) の定例の交通安全指導に合わせて喫煙および車両指導巡視を行なった。喫煙に関する指導事案は無かったが、令和 7 年 2 月に近隣住民の方から学生のような人が喫煙しているとの情報が寄せられた。車両指導巡視においては、未登録の自転車の構内への乗入れや、寮生の車両の通学生用駐輪場への駐輪など、違反事案が月平均で 8 件程度あった。中には、4 回連続で違反車両として指導を受けた者もいた。また、11 月の指導の際、違反車両を固定するワイヤーロックが不正に解錠され、ワイヤーロックの紛失や他者の車両に巻きつけるといった事案が発生した。このことについて、ワイヤーロックの解錠番号が学生間で共有されていることを疑い、ロック解錠番号の再設定を行った。しかしながら、12 月の指導の際にも同様の事案が発生した。その後、これ関与した学生数名が判明し、指導を行なった。現在使用しているダイヤル式のワイヤーロックの解錠は比較的容易であり、今後も同様の問題が懸念されるため、鍵で解錠する形式のロックの導入を検討する必要がある。
- (4) 昨年度より体育館北側駐輪場が廃止されたことや、近年の通学生の増加により、駐輪スペースのより効率的な利用が求められている。長期放置自転車の持ち帰りの呼びかけと、長期放置自転車の寮の駐輪場への一時的な移動を行い、利用可能な駐輪スペースを拡充した。

- (5) 学生の関わる交通事故が 11 件（4 月：2 件、5 月：2 件、7 月：1 件、8 月：2 件、10 月：1 件、11 月：2 件、12 月：1 件）発生した。このうち 9 件が自転車運転中の事故であり、令和 5 年度の 6 件に対して大幅に増加した。一方で学生のヘルメット着用率は低く、特に高学年でその傾向が顕著である。来年度以降、本校では全ての自転車利用者についてヘルメット着用を義務化する予定である。
- (6) 近隣の住民から学生生活に関わる多くの苦情が寄せられた。本章(2)に記述した交通マナーに関することのほかにも、今年度は、駒沢池（原池）での釣り行為、アパートでの騒音、構外道路を夜間大声で会話しながらの通行などの事案が発生した。共通性の高い事案については、全校へのメールによる注意喚起のほか、各クラスの特活の時間などでの情報共有の呼びかけを実施した。
- (7) 今年度の学生の問題行動にかかる処分の状況は表 2 のとおりであった。達成度試験におけるカンニングと受験上の注意事項に従わなかったことに対する処分を実施した。このほかにも、教室での卓上遊戯の実施や、本章(3)で述べたワイヤーロック不正操作による迷惑行為に対する指導を行った。
- (8) 本章(1)では、交通マナーの向上には学生自身の積極的な関与が必要であると述べたが、それだけに留まらず、駐輪マナーや学生生活全般の問題についても同様に、学生自身の主体的な取組みを当委員会として支援する体制を構築することが重要と考える。当委員会として学生を指導し、違反を取り締りそしてペナルティを与えることは、学生の行動を操作する効率の良い手段ではあるが、それらがなければ同じ行動を繰り返す可能性が高い。根本的な解決を目指すためには、学生自身が何故そのことが問題になるのかを理解し、それを解決するためには何が必要なのか考え、学生が自ら行動に移すことができるような環境が必要である。高等教育機関の生活指導としては、学生を単に管理対象として扱うのではなく、共に問題を解決する対等な立場で協力し学生の自立を支援することが、そのあるべき姿のように思える。具体的には、学生会ならびに風紀委員会と定期的に課題を共有する場を設け、それらに対する取組み案を議論し実行するなどが考えられる。

表 2 学生の問題行動にかかる処分の概要

| 処分   | 件数（かつこ内は R5 の件数） | 内容                 |
|------|------------------|--------------------|
| 停学   | 1 (1)            | 達成度試験における不正行為      |
| 訓告   | 1 (0)            | 達成度試験における受験上の注意不遵守 |
| 主事説諭 | 1 (2)            | 他人の姿が写った画像を無断使用、公開 |

## 2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築

### I 学生会の支援

- (1) 学友誌「翠嶺」は予定通り終業式前に配布することができた。なお、配布対象は学生会の予算の都合で 1・5 年のみになった。
- (2) クラスマッチはバレーボール、卓球、ドッジボール、硬式テニス、T ボール、バドミントン、シャッフルボード、借り人競争、尻尾とり、大縄 8 の字跳び、玉入れ、50m 片足リレーを実施した。昨年度に引き続き、多くの競技を実施し、教職員チームや学生たちも競技や応援に一生懸命取り組んでくれたので、非常に盛り上がった。
- (3) 学生総会は 昨年度と同様に Teams によるオンライン配信で行った。議案に対する意見を募集している際に時間が空いた。
- (4) 学生会選挙は昨年度と同様に google フォームによるオンライン投票となった。オンラインではあるが、選挙に関する原則を崩さないように行うことができた。有権者 981 人に対して、有効投票 619 票であった。投票率は 63.1% となり、昨年度の 67.0% から少々下がった（一昨年度 60.2%）。集計が容易であるので、可能な限りオンラインでの実施を継続していきたい。
- (5) 市立長野高校生徒会と連携して、挨拶運動および交通安全の呼びかけを 4 月 15 日(月)～19 日(金)と、10 月 28 日(月)～11 月 1 日(金)の日程で実施した。朝 8 時 00 分～8 時 35 分まで通学量の多い場所に立ち、挨拶をしながらイヤホン着用や自転車マナーに関する声掛けを行った。また、交通安全啓発だけでなく、お互いの文化祭に参加するなど交流を深めた。また、来年度より交流のさらなる活発化のため、部活動等を通じた共同活動を行っていく予定である。
- (6) 一昨年度学生会で導入した電子決済「Shachihata Cloud」を活用し、企画書等の文書の確認、承認および印鑑の捺印をオンライン上で行った。大きなトラブルもなく快適に使用できているので、継続していきたい。
- (7) 昨年度より再開した後援会との意見交換会を 3 月 29 日(土)の午前中に実施する計画である。学生会と部長会からそれぞれ 2 名が参加、後援会側は会長ほか計 5 名が参加して、学校の状況や寮

での生活についていろいろと話をする予定である。

- (8) 部長会が中心となり、リーダーズ研修会を 1 月 25 日(土)に実施した。第 2 体育館と「まなぼらば」において、リーダーシップについてワークショップや体験活動を通して学び合う研修会とした。外部指導者として、経営コンサルティング会社の方と、アウトドア指導者の計 2 名を招いた。研修会では、アウトドア同好会に協力してもらい、餅つき交流会も行った。参加者は 52 名であった。4 月からの組織づくりのモチベーションが上がったという参加者が多かった。
- (9) 12 月 5 日(木)～19 日(木)の期間で、イルミネーション企画を前庭で実施した。今年度は昨年度に引き続き、榎山工業㈱様にご支援いただき、昨年度同様大きな規模で行った。また、今年度はコンセプトを設定し、1 つの作品として創りあげることができた。また、多くの学生が足を運ぶ機会となるようにホットドリンクコーナーを設けた。
- (10) 今年度新たに学生立案企画を行った。全校に呼びかけ、多くの意見を頂いた中から「部活動対抗リレー！」を選定し実施した。生憎の天候で体育館での開催となったが、たくさんの参加者と観戦者の協力により、十分に盛り上がりのある企画を行うことができた。その他、11 月にはハロウィン企画（仮装して教員室訪問）、2 月には節分とバレンタインを融合した冬企画も企画係主導で開催し、テスト前ではあったが多くの参加者があった。
- (11) 4 月 30 日(火)に長野市の学童保育事業「長野市放課後子ども総合プラン」アドバイザー講習会を開催した。講習会には 21 名が参加して、13 名が登録した（4 年生以上が対象）。「長野高専学生会」でも団体登録したが、例年より登録者が少ないこともあり、活動が広がらなかった。
- (12) 2 月 20 日(木)に本科生と学校との意見交換会を行った。意見交換会には学生会役員と校長、各副校長、キャンパスマネジメント委員長、学生会担当職員が出席した。事前に学生から集めた要望意見を集約し、各主事等から回答をもらった。学生側の考えを聴く貴重な機会となった。
- (13) 5 年生を送る会を 2 月 21 日(金)大掃除終了後に 100 番教室で行った。参加者は学生会役員と 5 年生のみであった。内容はメッセージ動画と豪華景品大抽選であったが、大いに盛り上がった。

## Ⅱ 課外活動（部・同好会活動）の支援

- (1) 本年度は 2 年に一度行う部・同好会の継続審査の年である。「部同好会活動の継続許可基準」に基づき、現在審査を実施中である。活動が良好でない団体については次年度継続審査を行う予定である。
- (2) 課外活動に関しては、多くの大会やコンテストが開催され、参加することができた。
- (3) 長野市総合型地域スポーツクラブ北部連合との連携協定に基づき、NPO 法人長野スポーツコミュニティクラブ東北に依頼し、課外活動指導員の勤務表を作成していただいた。平日 17 時～19 時の対応、休日午前活動の構内見回りや必要に応じて大会の引率をしていただいた。
- (4) 2023 年度末に課外活動の指導教員の見直しを行った（5 年に 1 度）。学生より紙での「2024 年度部・同好会指導教員の依頼について」と、学生主事からの google フォーム「部・同好会の希望調査について」で希望調査を同時に実施した。それに加えて退職等異動のあった教員（団体）に対する補充等も行った。昨年度から継続して 1 教員あたりの指導団体数の上限を 3 団体、主顧問を 1 団体にするよう年度末に調整した。
- (5) 今年度も後援会より課外活動に多大な支援をいただいた。後援会予算の見直しにより、来年度から高専大会への援助が減額される予定である。

## Ⅲ 工嶺祭の支援

第 59 回工嶺祭『Infinite』が 10 月 18 日(金)～20 日(日)に開催された。昨年度の課題をすべてではないが、改善することができた 3 日間であったと考える。体育祭、一般公開を通じて大きなトラブルなく実施することができた。

### (1) 体育祭

工嶺祭のスタートを飾る体育祭は 10 月 18 日(金)に開催した。競技種目の選定においては、クラスマッチと同じことの繰り返しにならないように工夫を凝らし、昨年度のように、けが人が多数発生することがないように競技を選定した。しかしながら、数名のけが人が出た。中には重症の学生もあり、競技の選定については、今後も検討が必要である。

### (2) キックオフイベント

今年度あらたに設けたイベントであり、体育祭終了後 30 分程度を使用して、ロータリーステージにてクラス企画・屋台企画の紹介等をおこない、工嶺祭の始まりを盛り上げることができた。内容については一部再考が必要ではないかと思う部分もあったが、初めての取り組みという点では評価できるものと考ええる。

### (3) 展示企画・屋台企画

10月19日(土)・20日(日)の一般公開では、各クラス、部同好会による展示企画、屋台企画を実施した。展示企画については、各クラスに企業紹介のブースを設ける(企業協賛)ことで、各企画の品質向上につながったのではないかと考える。

(4) 昼ステージ

昨年に続き、本校の学生団体だけではなく、外部団体とのコラボも実現できた。外部団体とのコラボを参観することを目的とした来場者も多かった。大きな問題は生じなかったが、学外の方が一緒に楽しめるステージなどがあるとよいと感じた。

(5) 夜祭

2日間を通じて大きなトラブルなく実施することができた。昨年度の問題点が十分に改善できていたと思われる。

(6) メディア等による発信

本年度はNHKによるテレビ取材、信濃毎日新聞による取材の2件であった。昨年同様、学生たちは取材件数が少ないと感じているようであった。次年度については、周知の方法やメディア等への依頼時期を早めるなどの対応をとるように改善していきたい。

(7) ランタンイベント

19日(土)の夜祭終了後に、地域の方を招いて「空飛ぶランタンイベント」を開催した。あいにくの天候ではあったが、多数の方にご来場いただいた。開催場所の選定で直前まで話し合いを行い、体育館を使用することとなった。実施方法等をしっかりと話し合い、満足のいく内容で実施できたのではないかと考える。

### 3. 総括

(1) 学生が活動することを支援するのが当委員会の使命であるが、学生会や部・同好会活動とかかわりが無い学生も一定数おり、どのように学生の活動を活発にするかが課題である。学生自身がface-to-faceを大切にして、人と協働して社会に貢献するために必要な知識を身に付けられるような各種講習会の実施と課外活動等を支援していきたい。

(2) 近隣から学生に対する苦情が多く寄せられている。できるだけ学生が問題点を認識し、改善できるよう促していきたい。

(3) 来年度も教務委員会ははじめ他の委員会とも連携して、学生が「高専で学んで良かった」と言ってくれるような学生支援をしていきたい。

## 令和6年度 学生支援委員会の重点項目への取組結果の点検

学生支援委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

### (1) 取組結果報告に基づく評価

| 重点項目                      | 活動等計画                             | 評価 | 根拠・確認事項                                                                   |
|---------------------------|-----------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------|
| 1. 問題行動の未然防止              | 交通事故防止に向けた取り組み                    | ◎  | 第1回-議題2「新年度委員会活動方針」<br>第4回運営会議-学生主事報告「交通安全・SNS講習会および補講報告」<br>第8回-議題1「まとめ」 |
|                           | 寮務委員会と連携した学生対応                    | ○  | 学生生活ガイド 2024p.1「無断入寮禁止」等記載                                                |
|                           | 各種講習会を通じた問題行動防止への意識付け             | ◎  | 第1回-議題2「新年度委員会活動方針」<br>第4回運営会議-学生主事報告「交通安全・SNS講習会および補講報告」<br>第8回-議題1「まとめ」 |
|                           | 学生会と連携した問題行動防止への意識付け              | ○  | 第8回-議題1「活動のまとめ」<br>学生会新聞「秀嶺」6月号にいじめ防止月間について掲載                             |
|                           | 教員の連携による的確な学生の捉え、学生指導の徹底          | ○  | 第8回教員会議-学生主事報告「無断欠席者への連絡フロー（案）に基づく欠席者確認の実施」<br>第9回運営会議-学生主事報告「欠席者把握訓練の結果」 |
| 2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築 | 課外活動の支援                           | ◎  | 第4回-議題2「厚生補導設備充実費配分（案）」<br>第4回-議題3「今後の課外活動のあり方について（案）」<br>第8回-議題1「まとめ」    |
|                           | 工嶺祭の支援                            | ○  | 第5回-議題1「第59回工嶺祭実施要項（案）」<br>第8回-議題1「まとめ」                                   |
|                           | ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築 | ○  | 第8回-議題1「まとめ（長野市放課後子ども総合プランアドバイザー説明会、清掃デー）」                                |
|                           | 交通マナー向上による地域住民との信頼関係の構築           | ○  | 第1回-議題2「新年度委員会活動方針」<br>第11回運営-学生主事報告「ヘルメット着用」<br>第8回-議題1「まとめ」             |

(2) 次年度への提言

- ・各講習会の取り組み

専門家による実体験に基づく話は、学生に有効と思われる。「交通安全講習会」および3年生向けの「生と性の安全講習会」は、外部から講師として警察官および医師で実施し、こくかてきであったとのことで、講習会は、ビデオの視聴などでなく、実体験に基づく専門家の話を増やすのが効果的だろう。

- ・交通事故防止に向けた取り組み

デイリーヤマザキ長野徳間店から高専間の歩道など、「近隣住民から苦情が寄せられる」場所では、近隣住人と良好な関係構築を模索するとともに、学生会などと協力して周りの住民からも、交通事故防止の取り組みを理解してもらえるようにしてほしい。

- ・ヘルメット着用に向けた取り組み

自転車による交通事故が毎年発生しているが、未だに、自転車の運転中のヘルメット着用率は低い。次年度より自転車利用者は、ヘルメット着用を義務化することとすることで、この義務化の徹底のための取り組みを行なってほしい。

- ・寮務委員会と連携した学生対応

今年度から、課外活動を理由とする残寮が認められなくなりました。令和4年度までのやり方に戻せるよう寮務委員会（寮務主事）に働きかける、もしくは別の方法により、寮生も長期休業中に課外活動ができるよう検討すべきと思われる。

- ・ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築

市立長野高校と連携して挨拶運動や交通安全指導が行われています。素晴らしい取り組みだと思います。活動計画に書かれている「構外美化活動」に関しても、両校で連携して実施してはどうでしょうか。

- ・学生会企画として、ここ数年行われているイルミネーション企画は、近隣住民も多く見学に来ています。このような活動をより開かれた高専の活動にするために積極的に支援するのはどうでしょうか。



## 2-3 寮務委員会

### 令和6年度 寮務委員会の重点項目への活動計画

| 委 員 会 | 担当   | 重 点 項 目                                                                              |
|-------|------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 寮務委員会 | 寮務主事 | 1. 寮運営に学生の意見を反映させるシステムづくり<br>2. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り<br>3. 日常運用システムの構築・見直し、および寮施設面の充実 |

1. 寮運営に学生の意見を反映させるシステムづくり
  - ・寮生会役員の担当・実施内容の見直し
  - ・寮生の寮運営への意見反映手法の検討
  - ・アンケートによる環境調査
2. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り
  - ・寮生会役員と寮務委員による寮生協議会の実施
  - ・寮生会による寮生の寮生活支援のための施策検討
  - ・日常の学習習慣の涵養と学習支援体制の整備
3. システムの構築・見直し、および施設面の充実
  - ・現況の日常運用システムの構築・見直し
  - ・施設面の充実のための検討

## 令和6年度 寮務委員会の重点項目への活動報告

| 委 員 会 | 担当   | 重 点 項 目                                                                              |
|-------|------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 寮務委員会 | 寮務主事 | 1. 寮運営に学生の意見を反映させるシステムづくり<br>2. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り<br>3. 日常運用システムの構築・見直し、および寮施設面の充実 |

### 1. 寮運営に学生の意見を反映させるシステムづくり

#### ・寮生会役員の担当・実施内容の見直し

寮生会役員の team をつくり、寮生への案内などを担当主事補を通じ迅速に行えるようにした

#### ・寮生の寮運営への意見反映手法の検討

寮生協議会を 9 回開催し、寮生から寮運営への意見を伝えてもらう場とするとともに、寮生会の活動と協議会の議論の内容を議事録としてまとめる体制を整えた

#### ・アンケートによる環境調査

寮食堂および寮生活に関するアンケートを実施した

### 2. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り

#### ・寮生会役員と寮務委員による寮生協議会の実施

寮生協議会は 9 回実施した。また寮生会食堂委員長の参加する食堂会議を毎月開催した

#### ・寮生会による寮生の寮生活支援のための施策検討

#### ・日常の学習習慣の涵養と学習支援体制の整備

コロナ禍に中断していた寮食堂を使った勉強会が後期中間の試験 2 週間前から復活し実施された。

従来の当番について、郵便当番を廃止し、問題となっていたゴミ分別に対応するためゴミステーション当番が寮生会総務委員長の管轄の元導入された

### 3. システムの構築・見直し、および施設面の充実

#### ・現況の日常運用システムの構築・見直し

学生への各種案内の周知の迅速化のため、寮生全体の team を作成した

#### ・施設面の充実のための検討

男子寮に冷蔵庫室を設置したが、使用状況が悪く前期のみで閉鎖となった。運用を検討する必要がある。

1 から 6 号館の各談話室に学習用の個別ブースデスクを設置した。

1, 2, 3, 5, 6, 7 号館のエアコンが新規リース契約により更新された。

## 令和6年度 寮務委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

### (1) 取組結果報告に基づく評価

| 重 点 項 目                   | 活 動 等 計 画               | 評価 | 根拠・確認 事項                                                                                                   |
|---------------------------|-------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 寮運営に学生の意見を反映させるシステムづくり | ・寮生会役員の担当・実施内容の見直し      | ○  | ・第1回報告2および3にて役員共有<br>・実施内容関する見直しの記載は無し                                                                     |
|                           | ・寮生の寮運営への意見反映手法の検討      | ○  | ・寮生協議会議事録（第2回報告3、第3回報告1ほか）を通じて寮生の意見共有                                                                      |
|                           | ・アンケートによる環境調査           | ◎  | ・第7回議題4にて「寮生活に関するアンケート調査について」にて、12/9～20まで寮生に向けて環境調査を実施、第10回報告7にて結果報告                                       |
| 2. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り    | ・寮生会役員と寮務委員による寮生協議会の実施  | ◎  | ・第2回報告1「寮生協議会」にて、寮生生活を快適にするための取り組みやイベントについて、寮生会役員と教員の意見交換会が実施されたことを報告（以降、定期的に開催）、議事録は各回作成                  |
|                           | ・寮生会による寮生の寮生活支援のための施策検討 | ○  | ・第10回議題8「当番について」、当番義務について制度の変更について共有                                                                       |
|                           | ・日常の学習習慣の涵養と学習支援体制の整備   | ◎  | ・第8回議題4にて、「テスト前の勉強会」について共有                                                                                 |
| 3. システムの構築・見直し、および施設面の充実  | ・現況の日常運用システムの構築・見直し     | ◎  | ・第8回議題「寮生 team」の作成について、運用説明<br>・第2回議題3「違反指導方針について」にて、保護者への連絡体制や郵送通知のルールを再確認                                |
|                           | ・施設面の充実のための検討           | ◎  | ・第4回議題4「寮のネットワークセキュリティに関する契約について」にて、継続して「Forti Gate」を導入する方向への承認<br>・第4回報告「エアコンリースの契約について」にて、契約先が承認されることの報告 |

## (2) 次年度への提言

### 令和6年

- ・食事については学生が安心して3食の摂食ができるよう、引き続き調査や呼びかけを行っていただきたい。
- ・郵便当番廃止他、時代に沿った当番や役回りを検討・運用するのは寮生活を送る上で大変有意義であると思われる。一方、制度の変更は学生にとって負担になりにくい時期から運用されたい。
- ・システムの構築・見直しの準備について、昨年度から検討されていた teams の活用が今年度より運用が始まった。寮に関わる情報を一元的に管理でき、かつリアルタイムに必要な情報を入手できるため、非常に有効な手法であると考えられる。一方、部屋割や当番表には氏名などの個人情報もあるため、適切に管理することに留意されたい。

## 2-4 専攻科運営委員会

### 令和6年度 専攻科委員会の重点項目への活動計画

| 委 員 会    | 担当   | 重 点 項 目                                            |
|----------|------|----------------------------------------------------|
| 専攻科運営委員会 | 専攻科長 | 1. 入学者選抜方法の見直し<br>2. 学士の取得支援<br>3. 学修総まとめ科目担当教員の増加 |

1. 入学者選抜方法の見直し
  - ・推薦選抜実施方法の見直し
  - ・合否判定基準の見直し
2. 学士の取得支援
  - ・学士申請説明会の開催
  - ・学修総まとめ科目計画書および成果の要旨の作成支援
3. 特別研究担当教員の増加
  - ・教員への研究業績積上げ依頼
  - ・個表増加を目的とした教員への働きかけ
  - ・連携教育プログラムにおける研究マッチング数の増加

令和6年度 専攻科運営委員会の重点項目に関する取組結果報告

| 委 員 会    | 担当   | 重 点 項 目                                            |
|----------|------|----------------------------------------------------|
| 専攻科運営委員会 | 専攻科長 | 1. 入学者選抜方法の見直し<br>2. 学士の取得支援<br>3. 学修総まとめ科目担当教員の増加 |

1. 入学者選抜方法の見直し

- ・過去の推薦選抜の受験者の席次と GPA の関係の分析行い，推薦選抜方法を提案  
→ 進路支援室長経由で系長へ打診したが，工学科生が専攻科を受験するタイミングで変更するほうが望ましいとの意見もあり，令和8年度に向け見直しを継続することとなった。

2. 学士の取得支援

- ・学士申請説明会の開催  
→ 令和6年3月27日（水） 「履修計画書」 作成の説明会を実施  
→ 令和6年12月4日（水） 「成果の要旨」 作成の説明会を実施
- ・学修総まとめ科目計画書および成果の要旨の作成支援  
→ 上記説明会の後，提出された「履修計画書」および「成果の要旨」を委員にて手分けしてあらかじめ用意した点検項目にそって点検を行った。

3. 特別研究担当教員の増加

- ・教員への研究業績積上げ依頼
- ・個表増加を目的とした教員への働きかけ  
→ 個表または，個表の課題を増やすため，令和6年9月に6名，7課題を新たに学位授与機構へ申請し，5名6課題が新しく認められた。

## 令和6年度 専攻科運営委員会の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

### (1) 取組結果報告に基づく評価

| 重点項目           | 活動等計画                       | 評価 | 根拠・確認事項                                                                                       |
|----------------|-----------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 入学者選抜方法の見直し | ・推薦選抜実施方法の見直し               | ○  | ・第7回専攻科運営委員会 議事概要                                                                             |
|                | ・合否判定基準の見直し                 | ○  | ・第7回専攻科運営委員会 議事概要                                                                             |
| 2. 学士の取得支援     | ・学士申請説明会の開催                 | ◎  | ・学士申請説明会の開催<br>令和6年3月27日「履修計画書」作成の説明会を実施<br>令和6年12月4日（水）「成果の要旨」作成の説明会を実施<br>・第1回専攻科運営委員会 議事概要 |
|                | ・学修総まとめ科目履修計画書および成果の要旨の作成支援 | ◎  | ・第1回専攻科運営委員会 議事概要<br>・第19回専攻科運営委員会 議事概要                                                       |
| 3. 特別研究担当教員の増加 | ・教員への研究業績積上げの依頼             | ○  | ・第8回専攻科運営委員会 議事概要                                                                             |
|                | ・個表増加を目的とした教員への働きかけ         | ◎  | ・第8回専攻科運営委員会 議事概要                                                                             |
|                | ・連携教育プログラムにおける研究マッチング数の増加   | ×  | ・確認できる資料がない。                                                                                  |

### (2) 次年度への提言

- ・個表の増加がされているので継続的に取り組んでください
- ・特別研究担当教員の増加についての確認資料が見当たらないので議事録に残すようにしてください。
- ・入学者選抜方法については継続的に審議をしてください

## 2-5 図書館

### 令和6年度 図書館の重点項目への活動計画

| 委員会 | 担当   | 重点項目      |
|-----|------|-----------|
| 図書館 | 図書館長 | 国際交流図書の充実 |

新型コロナウイルス感染症の5類感染症以降、本校の国際交流が再開され、初めて海外研修が実施されたり、海外留学生の受け入れが再開されたりするなど、コロナ前にもまして国際交流が盛んになっている。これは、社会の要請にもよる。

そこで、これまでもコーナーとして設置されていた、国際交流図書の充実を図りたい。具体的には、英語によるコミュニケーション、留学関係、異文化交流、日本文化の海外への紹介などの図書である。また、特に交流の機会があるタイ、台湾や、本校に留学生が多い国に関する図書も充実させたい。



## 令和 6 年度 図書館の重点項目への活動報告

| 委員会 | 担当   | 重 点 項 目   |
|-----|------|-----------|
| 図書館 | 図書館長 | 国際交流図書の充実 |

新型コロナウイルス感染症の５類感染症以降、本校の国際交流が再開されたことを踏まえ、国際交流図書の充実を図った。具体的には、以下の図書を購入した。

①国際交流コーナー配置図書 購入冊数19冊

②その他、国際交流コーナーには配置してありませんが、語学に関する図書も納入

購入冊数31冊

英語 24冊

その他の語学 7冊

## 令和6年度 図書館の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

### (1) 取組結果報告に基づく評価

| 重 点 項 目   | 活 動 等 計 画                                                                                                                                                                                                                                              | 評価 | 根拠・確認事項       |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|---------------|
| 国際交流図書の充実 | <p>新型コロナウイルス感染症の5類感染症以降、本校の国際交流が再開され、初めて海外研修が実施されたり、海外留学生の受け入れが再開されたりするなど、コロナ前にもまして国際交流が盛んになっている。これは、社会の要請にもよる。</p> <p>そこで、これまでもコーナーとして設置されていた、国際交流図書の充実を図りたい。具体的には、英語によるコミュニケーション、留学関係、異文化交流、日本文化の海外への紹介などの図書である。また、特に交流の機会があるタイ、台湾に関する図書も充実させたい。</p> | ◎  | 図書原簿（R6年度購入分） |

### (2) 次年度への提言

図書館の利用促進に向けた取り組みを期待します。また、可能な範囲で利用状況も把握されてはいかがでしょうか。

## 2-6 広報企画室

### 令和6年度 広報企画委員会の重点項目への活動計画

| 委員会     | 担当   | 重点項目                                                 |
|---------|------|------------------------------------------------------|
| 広報企画委員会 | 総務主事 | 1. 小中学生へのPR<br>2. 地域、地域企業へのPR<br>3. 学生、保護者、卒業生への情報発信 |

#### 1. 公開企画部門

##### 今年度の目標

- ・長野県下の小中学校における教育を側面から支援し、地域への貢献・地域との連携をより一層推進すること。また、理系の面白さを伝えることに加え、長野高専のPR、入試倍率確保への戦略を考える。そのために、地域で開催されるイベントに、積極的に参加する。

##### 今年度の活動計画

- ・サイエンスツアー（出前授業）およびサイエンス・ライブ（公開講座）は、5/10 締切りで募集する。サイエンス・ライブ（公開講座）を対面にて実施する。
- ・各種科学イベント（まつもと広域ものづくりフェア、NAGANO SDGs PROJECT、産業フェア in 信州 2024 キッズものづくりランド）は、実施に向けて準備を行う。なお、青少年のための科学祭典・2024 は、前期期末達成度試験と日程が重なるため出展は見送る。
- ・産業フェア（長野しんきんビジネスフェア 2024、SAKU メッセ、諏訪圏工業メッセ 2024、産業フェア in 信州 2024、上田地域産業展 2024）は、参加に向けて準備を行う。

#### 2. 刊行物部門

##### 今年度の目標

- ・小中学生、地域・企業、学生、保護者、卒業生に PR・情報発信するために、「学園だより」の発行、オリジナルグッズ配付などを行う。
- ・「入学案内」、「学校便覧」の発行による広報活動を行う。

##### 今年度の活動計画

- ・「学園だより」を3回発行する。春号は500部、体験入学に夏号と合わせて配付する。
- ・エコバッグ、クリアファイル、付箋、にオリジナルグッズを作成し、各所で配付する。
- ・「入学案内」、「学校便覧」の年度更新に伴う修正作業、および今後の紙ベースでの発行についての検討を行う。

#### 3. 情報発信部門

##### 今年度の目標

- ・小中学生、地域・企業、学生、保護者、卒業生に対して、新しい情報をタイムリーで分かりやすく PR・情報発信する。

##### 今年度の活動計画

- ・ホームページのリニューアルに伴い整理された状況を維持できるよう体制の定着を行う。
- ・ホームページのサイトメンテナンスや保守業務などを行い、ホームページの維持に努める。
- ・維持管理に携わる教職員への研修を行う。
- ・取材・掲載時期を調整するなど、定期的なアクセスに結び付けるよう活動する。

## 令和6年度 広報企画室の重点項目への取組結果報告

| 委 員 会   | 担当   | 重 点 項 目                                                  |
|---------|------|----------------------------------------------------------|
| 広報企画委員会 | 総務主事 | 1. 小中学生へのPR<br>2. 地域、地域企業へのPR<br>3. 学生、保護者、卒業生への<br>情報発信 |

### 1. 公開企画

- ・サイエンスツアー（出前授業）およびサイエンス・ライブ（公開講座）  
サイエンスツアー 31件（公開テーマ数19）  
サイエンス・ライブ 5件
- ・各種科学イベント（サイエンスツアーとして実施）  
信州環境フェア 2024 6月29日（土） 2件  
信州環境フェア実行委員会  
まつもと広域ものづくりフェア 10月19日（土） 1件  
まつもと広域ものづくりフェア運営委員会・実行委員会  
NAGANO SDG's PROJECT 出前授業として4テーマ登録したが実施なし  
協力校として参画  
産業フェアin信州 2023 キッズものづくりランド 10月26日（土） 1件  
産業フェア in 信州実行委員会  
親子ワクワクフェスタ 2024 11月30日（土）  
信州環境フェア実行委員会  
小中高生と先端研究者とのふれあいの集い in 信州 3月23日（日）  
大隈基礎科学創成財団
- ・産業フェア  
長野しんきんビジネスフェア 5月15日（水）ビックハット  
SAKU メッセ 10月3日（木）～5日（土）佐久総合体育館  
諏訪圏工業メッセ 10月17日（木）～19日（土）  
岡谷総合市民体育館、テクノプラザおかや  
産業フェア in 信州 10月25日（金）～26日（土）ビックハット  
上田地域産業展 11月1日（金）～2日（土）上田城址公園体育館

### 2. 刊行物

- ・「学園だより」を3回発行  
191号（春）、192号（夏）、193号（秋冬）を発行した。194号（春）の発行に向けての編集作業を行っている。
- ・ノベルティの更新  
従来のノベルティから一部を変更し、エコバック、クリアファイル、A6判メモ帳、付箋を作成した。
- ・「学校案内」、「学校便覧」の工学科改組に伴う修正作業  
写真など更新をおこなった。

### 3. 情報発信

- ・現行ホームページへの情報掲載および提示方法の改善  
4月からのホームページ全面リニューアルを行った。  
各部署にアカウントを配布し、随時更新できる体制とした。  
決裁のワークフロー化
- ・ホームページのサイトメンテナンスや保守業務  
たどり着きにくいページへの双方向でのハイパーリンクの設置

- ・ 360° パノラマの設置

### 3. 課題と対応

#### 公開企画

- 部門の活動を、高専 PR、入試倍率の維持、優秀な学生の確保につなげる方法（継続）  
→サイエンス・ツアーならびにサイエンス・ライブのテーマ準備に対する補助の実施
- 部門の活動を、高専 PR、入試倍率の維持、優秀な学生の確保につなげる方法（継続）  
→サイエンス・ツアーならびにサイエンス・ライブのテーマ準備に対する補助の実施
- 規模の大きい（イベント性の高い）サイエンス・ツアーの扱いについて

#### 【状況】

今年度、山形村「開村 150 周年イベント（委託業者：ながのアド・ビューロ）」や、飯田市「冬季自分・チャレンジ講座」など、講座形式ではなく、イベント形式（ブース形式）での出展を依頼されるサイエンス・ツアーが複数みられた。これまでも同様の依頼はあったが、大人数が参加するイベントであれば告知・広報面や実施体制について、教員一人では判断や対応が難しい状況が生じてきている。

- サイエンス・ツアーならびにサイエンス・ライブのテーマ募集について  
→各系で最低 5 テーマを出していただくように各系長に依頼する（最低 20 テーマ）。

#### 情報発信

- 学校や学生の様子を伝える記事が少ない。
- 入試広報室との連携強化

## 令和6年度 広報企画室の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

### (1) 取組結果報告に基づく評価

3つの重点項目に対して各部門で活動した結果を以下のように評価する。

| 重 点 項 目   | 活 動 等 計 画                                                                  | 評価 | 根拠・確認事項                                                                 |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------|
| 1. 公開企画部門 | ・サイエンスツアー（出前授業）およびサイエンス・ライブ（公開講座）は、5/10 締切りで募集する。サイエンス・ライブ（公開講座）を対面にて実施する。 | ◎  | ・サイエンス・ツアー 31 件<br>・サイエンス・ライブ 5 件<br>・第2回委員会報告                          |
|           | ・各種科学イベントは、実施に向けて準備を行う。                                                    | ◎  | ・サイエンスツアーとして6回実施<br>・第2回委員会報告                                           |
|           | ・産業フェアの参加に向けて準備を行う。                                                        | ◎  | ・5件参加<br>・第2回委員会報告                                                      |
| 2. 刊行物部門  | ・「学園だより」を3回発行する。                                                           | ◎  | ・3回発行<br>・第2回委員会報告                                                      |
|           | ・オリジナルグッズを作成し、各所で配付する。                                                     | ◎  | ・ノベルティの更新：従来のノベルティから一部を変更し、エコバック、クリアファイル、A6判メモ帳、付箋を作成した。<br>・第1・2回委員会報告 |
|           | ・「学校案内」および「学校要覧」の工学科改組に伴う修正作業をする。                                          | ◎  | ・「学校案内」、「学校要覧」の工学科改組に伴う修正作業の実施。<br>・実際の発行物で確認                           |
| 3. 情報発信部門 | ・ホームページのリニューアルに伴い整理された状況を維持できるような体制の定着を行う。                                 | ◎  | ・4月からのホームページ全面リニューアルを行った。<br>・第2回委員会報告                                  |
|           | ・ホームページのリニューアルに伴い整理された状況を維持できるような体制の定着を行う。                                 | ◎  | ・各部署にアカウントを配布し、随時更新できる体制とした。<br>・第2回委員会報告                               |
|           | ホームページのサイトメンテナンスや保守業務などを行い、ホームページの維持に努める。                                  | ◎  | ・ページへの双方向でのハイパーリンクの設置<br>・実際のHPで確認                                      |

### (2) 次年度への提言

- ・概ね計画通りに活動が行われているため、次年度も継続的に実施する。
- ・高専 PR、入試倍率の維持、優秀な学生の確保につなげる方法を、入試広報室と連携を強化して、企画・計画して実施する。



## 2-7 技術教育センター

### 令和6年度 技術教育センターの重点項目と活動計画

| 委 員 会    | 担当        | 重 点 項 目                                      |
|----------|-----------|----------------------------------------------|
| 技術教育センター | 技術教育センター長 | 1. 安全性の向上<br>2. 授業支援<br>3. 課外活動支援<br>4. 研究支援 |

#### 1. 安全性の向上

- ・ 機器及び工具等の破損における原因究明と対策
- ・ 技術教育センターの利用規則及び注意事項の見直し
- ・ 安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施
- ・ 技術職員の技能向上（技能検定の受検）
- ・ 設備の更新・保守・点検

#### 2. 授業支援

- ・ 実験・実習系授業の支援

#### 3. 課外活動支援

- ・ 物作り系課外活動等の支援

#### 4. 研究支援

- ・ 製作依頼及び技術指導依頼への対応
- ・ 卒業研究、特別研究の装置製作等の支援



# 令和6年度 技術教育センターの重点項目への取組結果報告

| 委 員 会    | 担当        | 重 点 項 目                                      |
|----------|-----------|----------------------------------------------|
| 技術教育センター | 技術教育センター長 | 1. 安全性の向上<br>2. 授業支援<br>3. 課外活動支援<br>4. 研究支援 |

1. 安全性の向上
  - ・ 機器及び工具等の破損における原因究明と対策
  - ・ 技術教育センターの利用規則及び注意事項の見直し
  - ・ 安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施
  - ・ 技術職員の技能向上（技能検定の受検）
  - ・ 設備の更新・保守・点検
2. 授業支援
  - ・ 実験・実習系授業の支援
3. 課外活動支援
  - ・ 物作り系課外活動等の支援
4. 研究支援
  - ・ 製作依頼及び技術指導依頼への対応
  - ・ 卒業研究、特別研究の装置製作等の支援

## 令和6年度 技術教育センターの重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

### (1) 取組結果報告に基づく評価

3つの重点項目に対して各部門で活動した結果を以下のように評価する。

| 重 点 項 目   | 活 動 等 計 画                | 評価 | 根拠・確認事項                                                                  |
|-----------|--------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------|
| 1. 安全性の向上 | ・機器及び工具等の破損における原因究明と対策   | ○  | 令和6年度運営報告「1. 技術教育センター使用状況」                                               |
|           | ・技術教育センターの利用規則及び注意事項の見直し | ×  | 確認できなかった                                                                 |
|           | ・安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施  | ◎  | 令和6年度運営報告「4. 安全基本作業講習会、機械加工基礎実習及び技能検定」                                   |
|           | ・技術職員の技能向上（技能検定の受検）      | ×  | 確認できなかった                                                                 |
|           | ・設備の更新・保守・点検             | ○  | 令和6年度運営報告「5. 設備工事、機器移動・導入・廃棄、修繕改革等」                                      |
| 2. 授業支援   | ・実験・実習系授業の支援             | ○  | 令和6年度運営報告「1. 技術教育センター使用状況」<br>「3. 技術指導の状況」<br>令和6年度 運営報告 令和7年度 運営計画 議事要旨 |
| 3. 課外活動支援 | ・物作り系課外活動等の支援            | ○  | 令和6年度運営報告「1. 技術教育センター使用状況」<br>「3. 技術指導の状況」                               |
| 4. 研究支援   | ・製作依頼及び技術指導依頼への対応        | ○  | 令和6年度運営報告「1. 技術教育センター使用状況」<br>「3. 技術指導の状況」                               |
|           | ・卒業研究、特別研究の装置製作等の支援      | ○  | 令和6年度運営報告<br>「1. 技術教育センター使用状況」<br>「3. 技術指導の状況」                           |

### (2) 次年度への提言

- ・重点項目、活動等計画に沿った報告書の作成をお願いいたします。
- ・機器及び工具等の破損に関して、対策が示されると破損防止に有益かと思います。

## 2-8 情報教育センター

### 令和6年度 情報教育センターの重点項目への活動計画

| 委員会      | 担当            | 重点項目                                |
|----------|---------------|-------------------------------------|
| 情報教育センター | 情報教育<br>センター長 | 1. 情報端末機器の継続に関する検討<br>2. ネットワークの高速化 |

#### 1. 情報端末機器の継続に関する検討

令和8年度をもって現在ある情報端末機器のリースが切れます。BYOD(各学生が情報端末機器を自費で購入して持っていること)が進んでいることから、学校として情報端末機器を維持する必要があるのか検討する必要があります。

#### 2. ネットワークの高速化

コロナ禍を経て Teams などのコミュニケーションツールで授業や会議を行うことに加え、さまざまな情報ソフトウェアや動画などのメディアは肥大化し、これらに伴うトラヒックは増加の一途を辿っています。この問題に対処すべく、ネットワークの高速化を検討してまいります。

## 令和6年度 情報教育センターの重点項目に関する取組結果報告

| 委 員 会    | 担当            | 重 点 項 目                             |
|----------|---------------|-------------------------------------|
| 情報教育センター | 情報教育<br>センター長 | 1. 情報端末機器の継続に関する検討<br>2. ネットワークの高速化 |

### ・情報端末機器の継続に関する検討

令和8年度をもって現在ある情報端末機器のリースが切れます。BYOD(各学生が情報端末機器を自費で購入して持っていること)が進んでいることから、学校として情報端末機器を維持する必要があるのか検討する必要性がありました。本件について、教務主事を座長とするワーキンググループを立ち上げ、各系からの意見を取りまとめました。その結果、令和8年度以降はデスクトップの情報端末機器を導入せず、ノートパソコンを数十台用意して使用時に設置、使用が終わったら片付ける方式にしました。

### ・ネットワークの高速化

コロナ禍を経て Teams などのコミュニケーションツールで授業や会議を行うことに加え、さまざまな情報ソフトウェアや動画などのメディアは肥大化し、これらに伴うトラフィックは増加の一途を辿っています。この問題に対処すべく、ネットワークの高速化を検討しました。今年度末に SINET の更新があったため、そのタイミングでこれまでより高速な回線を用いるよう学校長に進言した結果、これを実現することができました。

## 令和6年度 情報教育センターの重点項目への取組結果の点検

情報教育センターにおいて提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

### (1) 取組結果報告に基づく評価

| 重 点 項 目            | 活 動 等 計 画                                                                                                                          | 評価 | 根拠・確認事項                  |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------|
| 1. 情報端末機器の継続に関する検討 | 令和8年度をもって現在ある情報端末機器のリースが切れます。BYOD(各学生が情報端末機器を自費で購入して持っていること)が進んでいることから、学校として情報端末機器を維持する必要があるのか検討する必要があります。                         | ◎  | 2025年3月 情報教育センター委員会 議事概要 |
| 2. ネットワークの高速化      | コロナ禍を経て Teams などのコミュニケーションツールで授業や会議を行うことに加え、さまざまな情報ソフトウェアや動画などのメディアは肥大化し、これらに伴うトラヒックは増加の一途を辿っています。この問題に対処すべく、ネットワークの高速化を検討してまいります。 | ◎  | 2025年2月 情報教育センター委員会 議事概要 |

### (2) 次年度への提言

- ・令和9年度以降の情報教育センターの利用方法について検討してください。
- ・満足度調査の結果、ネットワークに関する要望が多くありました。ネットワークの高速化によって解消したかを引き続き調査してください。

## 2-9 国際交流センター

### 令和6年度 国際交流センターの重点項目への活動計画

| 委員会      | 担当    | 重点項目                                                                                                                                                         |
|----------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国際交流センター | センター長 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な国際交流にむけた活動の拡充</li> <li>・協定校との海外研修プログラムを学生に提供</li> <li>・海外派遣のための英語力向上へのとりくみ<br/>(グローバルエンジニア育成センターと協働)</li> </ul> |

#### 国際交流センター重点項目

持続可能な国際交流にむけてた活動の拡充を目指す

#### 1. 活動方針

1. 学生が異文化、社会情勢、国際標準エンジニア教育に触れる機会の拡大を拡充する。
2. 留学生の研究・生活・交流の支援を行う。
3. 国際標準エンジニア教育を実施可能な教員育成の支援を行う。
4. 海外の学生たちとの交流により、異文化理解と協定校との研究活動を支援する。
5. センター活動を広く広報し、多くの教職員・保護者・企業の理解と支援を得て、持続可能な国際交流を目指す。

#### 2. 活動内容

1. 協定校との交流プログラム作成と交流の機会を提供する。  
A：異文化・先端社会部門は主に1，2年生向け（香港、タイ、台湾海外研修など）  
B：国際標準エンジニア教育部門は高学年と専攻科向け  
（カナダ、シンガポール、ベトナム、カンボジアなど）
2. 世界情勢の調査（渡航情報等）と海外研修等のプログラム作成および機会を提供する。
3. STEAM教育、Design思考、ファシリテーション（PBL チュートリアル）教育技法の研修、英語コミュニケーション向上の機会を提供する。
4. 学生会、後援会、国際交流団体、企業と連携した社会活動機会を提供する。
5. 国際寮を活用して国際交流を図る。  
→ 1～3の活動を通じて、学生・教員の達成目標を明確にし、広報活動を行う。  
→ 1～3に対する外部資金獲得を行う。

## 令和 6 年度 国際交流センターの重点項目に関する取組結果報告

| 委 員 会    | 担当    | 重 点 項 目                                                                                            |
|----------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国際交流センター | センター長 | 「持続可能な国際交流にむけた活動の拡充」<br>1. 協定校との海外研修プログラムを学生に提供<br>2. 海外派遣のための英語力向上へのとりくみ<br>(グローバルエンジニア育成センターと協働) |

国際交流センター重点項目 「持続可能な国際交流にむけた活動の拡充を目指す」

### 1. 協定校の受け入れによる交流、および海外研修プログラムを学生に提供

○協定校との交流プログラム作成と交流の機会の提供を行った。

- ・4月(1日) 大安高級工業職業学校(台湾) 30名
- ・5月(1週間) 香港 IVE(香港) 9名
- ・6月(2か月) タマサート大学(タイ) 2名
- ・7月(2週間) スラナリテクニカルカレッジ(タイ) 9名
- ・10月(5か月) リパブリック・ポリテクニク(シンガポール) 3名
- ・2月(2週間) サスカチュワン・ポリテクニク(カナダ) 7名

○海外研修支援金を最大限に活用し海外派遣を行った

- ・NAIT(カナダ) 16名
- ・リパブリック・ポリテクニク(シンガポール) 12名
- ・香港 IVE(香港) 12名
- ・ダナン工科大学(ベトナム) 6名
- ・バオヴィエット日本語教育センター(ベトナム) 4名
- ・日特建設(インドネシア) 3名
- ・環境省(カンボジア) 3名
- ・学会参加、スラナリテクニカルカレッジ(タイ) 4名
- ・タイ日 ICT フェア(タイ) 5名。

### 2. 海外派遣のための英語力向上へのとりくみ

グローバルエンジニア育成センターと協働し、海外研修に参加する学生が放課後の英会話クラスを受講した。またカナダ研修は事前準備として、英会話および英語でのプレゼン準備を行った。シンガポール研修の学生についても、日本の文化を英語で紹介するためのプレゼンテーションを事前に作成した。

### 3. 学生会、後援会、国際交流団体、企業と連携した社会活動機会の提供

長野市主催の国際交流イベントへの参加を予定し準備をしていたが、大雨により参加中止となった。国際寮の学生および有志が、香港およびカナダからの学生を善光寺に案内した。また一泊二日で国際寮に滞在した東京日本語教育センターの学生 10 名を工嶺祭に案内した。

### 4. 国際寮を活用した国際交流イベントの企画開催

国際寮の学生たちに、5 月にタイおよび香港の短期留学生、10 月から 2 月までシンガポールの長期留学生、2 月にカナダからの学生たちの生活サポートをお願いした。

### 5. 留学生の学習・生活支援

例年と同様に 3 年生と 4 年生の留学生に対しチューターを決定し、年間を通じ留学生の学習と生活のサポートを実施した。また留学生交流会では「5 年時以上もチューターを付けてほしい」との要望があったため、チューター規則を変更し必要に応じて 5 年生にもチューターを付けることとした。11 月には日帰りで留学生実地研修を実施した。

## 令和6年度 国際交流センターの重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

### (1) 取組結果報告に基づく評価

| 重 点 項 目                                          | 活 動 等 計 画                                                              | 評価 | 根拠・確認事項                                                                                          |
|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 国際交流<br>センター<br><br>学内・学外での<br>国際交流の再開<br>と継続 | ・ 協定校の受け入れによる交流、および海外研修プログラムを学生に提供する                                   | ◎  | ・ 5カ国の学生総勢60名を、4月から2月まで、1日～5ヶ月間受け入れた。<br>・ 委員会で随時検討・報告を確認                                        |
|                                                  | ・ 世界情勢の調査と海外研修等のプログラム作成および機会の提供                                        | ◎  | ・ 海外研修支援金を最大限に活用し海外派遣を、7カ国へ65名が研修した。<br>・ 第3委員会など随時                                              |
|                                                  | ・ STEAM教育、Design思考、ファシリテーション(PBLチュートリアル)教育技法の研修、英語コミュニケーション向上の機会を提供する。 | ◎  | ・ 海外研修に参加する学生が放課後の英会話クラスを受講した。<br>・ 第3回委員会                                                       |
|                                                  | ・ 学生会、後援会、国際交流団体、企業と連携した社会活動機会の提供                                      | ○  | ・ 長野市主催の国際交流イベントは大雨により参加中止<br>・ 香港およびカナダからの学生を善光寺に案内<br>・ 東京日本語教育センターの学生10名を工嶺祭に案内<br>・ 第5・7回委員会 |
|                                                  | ・ 国際寮を活用した国際交流イベントの企画開催                                                | ○  | ・ タイと香港の短期留学生、シンガポールの長期留学生、2月にカナダからの学生の生活サポートをした<br>・ 第4・9回委員会                                   |
|                                                  | ・ 留学生の学習・生活支援                                                          | ◎  | ・ チューター規則を変更し必要に応じて5年生にもチューターを付けるように改善した<br>・ 第5・8回委員会                                           |

### (2) 次年度への提言

- ・ 計画通りに活動が行われているため、次年度も継続的に実施する。
- ・ English Boot Camp開催などの国際交流イベントを、国際寮を活用して推進する。



## 2-10 グローバルエンジニア育成センター

### 令和6年度 グローバルエンジニア育成センターの重点項目への活動計画

| 委員会              | 担当    | 重点項目                 |
|------------------|-------|----------------------|
| グローバルエンジニア育成センター | センター長 | 学生の学習意識向上と自主的学習のサポート |

#### 学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

##### 1. グローバルエンジニア育成センター重点項目

##### 学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

- ① 課外活動としてのイングリッシュ・ラウンジ(英会話教室)とイングリッシュ・トレーニング・ルーム(リスニング練習)の運営
- ② オンライン交流などのイベントを通じた学生の学習意欲向上へのとりくみ
- ③ 留学生との交流会ならびに国際性を養う講演会の実施
- ④ 低学年で実施する海外研修旅行の計画・実施

令和6年度 グローバルエンジニア育成センターの重点項目に関する取組結果報告

| 委 員 会            | 担当    | 重 点 項 目              |
|------------------|-------|----------------------|
| グローバルエンジニア育成センター | センター長 | 学生の学習意識向上と自主的学習のサポート |

学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

- ① オンライン交流などのイベントを通じた学生の学習意欲向上へのとりくみ  
2学年の海外研修旅行前に台湾での交流予定校（台北市立大安高級工業職業学校）とのオンライン交流会を実施した。
- ② 低学年で実施する海外研修旅行の計画・実施
- ③ 2学年全員参加（207名）の海外研修（台湾）を実施した。
- ④ 放課後英会話教室（イングリッシュ・ラウンジ）を5月以降毎週10コマ（1コマ60分）、放課後リスニング教室（イングリッシュ・トレーニング・ルーム）を毎週1コマ（120分）実施した。
- ⑤ 教員向け英会話教室（イングリッシュ・ラウンジ・フォー・ティーチャーズ）を11月以降毎週2コマ（1コマ60分）実施している。
- ⑥ 海外研修および英語学習の進め方についての講演会実施  
・1学年の特活の時間を使って海外研修に参加した先輩の講演会（海外研修参加前の学習や参加中の楽しみかたについて）を行った。

## 令和6年度 グローバルエンジニア育成センターの重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

### (1) 取組結果報告に基づく評価

| 重 点 項 目              | 活 動 等 計 画                                                   | 評価 | 根拠・確認事項                                                            |
|----------------------|-------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------|
| 学生の学習意識向上と自主的学習のサポート | ・課外活動としてのイングリッシュ・ラウンジ(英会話教室)とイングリッシュ・トレーニング・ルーム(リスニング練習)の運営 | ◎  | ・第1回グローバルエンジニア育成センター会議議事録 報告事項1<br>・第2回グローバルエンジニア育成センター会議議事録 報告事項1 |
|                      | ・オンライン交流などのイベントを通じた学生の学習意欲向上へのとりくみ                          | △  | 実施計画書・報告書など確認できず                                                   |
|                      | ・留学生との交流会ならびに国際性を養う講演会の実施                                   | △  | 教職員向け：第4回FD研修会(R7.3.26開催)<br>学生向けについては実施計画書・報告書など確認できず             |
|                      | ・低学年で実施する海外研修旅行の計画・実施                                       | ○  | ・11/5～11/8 実施                                                      |

### (2) 次年度への提言

- ・2 学年の海外研修旅行が実施されたことは確認できたが、計画・実施にあたってグローバルエンジニア育成センターがどのような役割を担っているのか不明瞭である。
- ・オンライン交流や留学生との交流会ならびに国際性を養う講演会の実施について計画・実施状況が確認できなかった。委員会を定期的に開催し、進捗状況を報告する場を設け、その記録を会議事録等に残していく必要がある。

## 2-11 男女共同参画推進室

### 令和6年度 男女共同参画推進室の重点項目への活動計画

| 委 員 会     | 担当             | 重 点 項 目                                                        |
|-----------|----------------|----------------------------------------------------------------|
| 男女共同参画推進室 | 男女共同参画<br>推進室長 | 2. 教育活動全般を通じた男女共同参画の推進<br>2. 男女共同参画の意識啓発<br>3. 女性教職員に対する労働環境支援 |

1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進
  - ・在学生のキャリア支援のための施策実施
  - ・女子中学生の入学支援施策実施
  - ・在学生へのアンケートによる認知および希望調査の実施
2. 男女共同参画の意識啓発
  - ・ダイバーシティ関連講演会の実施
  - ・学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内
  - ・男女共同参画関連 web site の充実
3. 女性教職員に対する労働環境支援
  - ・女性教職員対象 労働環境意見収集
  - ・全教職員アンケート（1. のアンケートに準ずる）
  - ・教職員体験実習の実施
4. その他
  - ・教職員労働環境支援 休日勤務における校内一時保育
  - ・GCON2024 参加支援

## 令和6年度 男女共同参画推進室の重点項目への取組結果報告

| 委 員 会     | 担当             | 重 点 項 目                                                        |
|-----------|----------------|----------------------------------------------------------------|
| 男女共同参画推進室 | 男女共同参画<br>推進室長 | 3. 教育活動全般を通じた男女共同参画の推進<br>2. 男女共同参画の意識啓発<br>3. 女性教職員に対する労働環境支援 |

### 1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進

- ・在学生のキャリア支援のための施策実施

2024年6月に1年生向け、2024年12月に4年生向けの講演会を行った。講師は本校OBの藤澤特任准教授(コロボラ所属)であり、自身の学校生活からキャリアに関する事や、モチベーションの上げ方などについて講演をして頂き、多様な社会で自分なりのキャリアを築いていく事について学んだ。

- ・女子中学生の入学支援施策実施

入試広報室と連携を取り、女子中学生向けのリーフレットを、在学生(1, 2 学年)の協力を得て、配布した。

夏及び秋のオープンキャンパスにおいて、在校生による質問コーナーや座談会を実施した。

- ・在学生へのアンケートによる認知および希望調査の実施

2024年6月に学生アンケートを実施し、推進室の活動のうち重要と考えるものについて選択してもらったほか、自由記述で必要な設備、対応等について意見を募った。自由記述の内容について関連の委員会にそれぞれ情報を共有し、対応を依頼した。また結果について本校HPにて公表した。

### 2. 男女共同参画の意識啓発

- ・ダイバーシティ関連講演会の実施

2025年3月に、教職員向けの講演会を行った。講師は本校OBの森田様(waffle所属)で、卒業後の自身のキャリアや、男女共同に関する学生向けの取り組みの一例や、最新の取り組みについて講演頂いた。

- ・学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内

高専機構や外部団体から連絡のあった各種イベントなどについて、学生や教職員に対して掲示物、及びメールにて適宜情報発信を行った。

- ・男女共同参画関連 web site の充実

本校 web site に男女共同参画推進室のページを開設されており学内教職員、一般向けにも必要な情報が入手できる構成となっている。本年度の実施イベントやアンケート結果について掲載した。

### 3. 女性教職員に対する労働環境支援

- ・女性教職員対象 労働環境意見収集

教職員からの意見は適宜収集し、関係する部署へ連絡を行っている。

- ・全教職員アンケート(1. のアンケートに準ずる)

全教員を対象に実施する。例年、年度末の3月に実施し、4月からの活動内容に反映させることとしている。

- ・教職員体験実習の実施

10月28日から11月1日にかけて、3名の受入を行った。いずれも長岡技科大の学生、もしくは大学に所属する教職を希望する者であった。

### 4. その他

- ・教職員労働環境支援 休日勤務における校内一時保育

R3に引き続き、教職員に対する環境支援の一環として、祝日、休日の業務日における校での一時保育を実施した。2025年2月9日(学力選抜試験、日曜日)の日程を対象にのべ3名の幼児の預け入れがあった。

- ・ GCON2024 参加支援

R3 より開始された高専 GCON に 2 チームがエントリーし，この活動を支援した。

## 令和6年度 男女共同参画推進室の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

### (1) 取組結果報告に基づく評価

| 重点項目                 | 活動等計画                         | 評価 | 根拠・確認事項                                                                                                             |
|----------------------|-------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進 | ・在学生のキャリア支援のための施策実施           | ◎  | ・第1, 2, 3, 4, 5, 6, 7回男女共同参画推進室会議議事抄録 協議題<br>・第8回男女共同参画推進室会議 議事抄録 報告<br>・Webサイトへの掲載<br>(R6. 8. 21 配信, R7. 1. 24 配信) |
|                      | ・女子中学生の入学支援施策実施               | ◎  | ・第1, 2, 5, 6回男女共同参画推進室会議 議事抄録 協議題<br>・第3, 4, 7回男女共同参画推進室会議 議事抄録 報告                                                  |
|                      | ・在学生へのアンケートによる認知および希望調査の実施    | ○  | ・第6, 7回男女共同参画推進室会議議事抄録 協議題                                                                                          |
| 2. 男女共同参画の意識啓発       | ・ダイバーシティ関連講演会の実施              | ◎  | ・第7, 8回男女共同参画推進室会議議事抄録 協議題<br>・Webサイトへの掲載<br>(R7. 3. 24 配信)                                                         |
|                      | ・学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内   | ◎  | ・教職員グループウェアの掲示板等で案内 (R6 年度中に17件掲載)                                                                                  |
|                      | ・男女共同参画関連 web site の充実        | ◎  | ・Web サイトの運営・男女共同参画に関するトピックスの更新                                                                                      |
| 3. 女性教職員に対する労働環境支援   | ・女性教職員対象労働環境意見収集              | △  | ・会議抄録等に記録なし                                                                                                         |
|                      | ・全教職員アンケート<br>(1. のアンケートに準ずる) | ◎  | R5 年度分の集計結果に対する報告<br>・第1回男女共同参画推進室会議議事抄録 報告<br>R6 年度分の実施<br>・校内メールで配信・実施 (R7. 3. 18 配信)                             |
|                      | ・教職員体験実習の実施                   | ◎  | ・第2, 3, 4, 5, 6回男女共同参画推進室会議議事抄録 協議題<br>・第7回男女共同参画推進室会議議事抄録 報告<br>・Webサイトへの掲載<br>(R6. 11. 14 配信)                     |

|        |                              |   |                                                                                   |
|--------|------------------------------|---|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 4. その他 | ・教職員労働環境支援<br>休日勤務における校内一時保育 | ◎ | ・第4回男女共同参画推進室会議議事抄録 その他<br>・第7,8回男女共同参画推進室会議議事抄録 協議題<br>・校内メールで希望調査 (R6.12.10 配信) |
|        | ・GCON2024 参加支援               | ◎ | ・第4,6回男女共同参画推進室会議 議事抄録 報告                                                         |

(2) 次年度への提言

- ・学生アンケートの結果について、令和6年度最新版がWebサイトに公開されておらず、更新が必要である。
- ・女性教職員を対象とした労働環境意見収集について、寄せられた意見の件数やその内容を定期的に会議の議題や報告事項に挙げ、意見交換等の記録を残していく必要がある。



## 2-12 進路支援室

### 令和6年度 進路支援室の重点項目への活動計画

| 委 員 会 | 担当     | 重 点 項 目                                                               |
|-------|--------|-----------------------------------------------------------------------|
| 進路支援室 | 進路支援室長 | 1. 各種講演会の実施<br>2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援<br>3. 進路関連情報の提供、収集と分析 |

1. 各種講演会の実施
  - ・低学年向けの講演会の実施
  - ・4年生向けの講演会の実施
  - ・専攻科生向けの講演会の実施
2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援
  - ・進路セミナーを通じた進路支援
  - ・応募書類作成支援および面接対策
3. 進路関連情報の提供、収集と分析
  - ・学生への進路関連情報の提供
  - ・進学希望者および就職希望者の合格・不合格情報の収集および分析

## 令和6年度 進路支援室の重点項目への取組結果報告

| 委 員 会 | 担当     | 重 点 項 目                                                              |
|-------|--------|----------------------------------------------------------------------|
| 進路支援室 | 進路支援室長 | 1. 各種講演会の実施<br>2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援<br>3. 進路決定情報の収集および分析 |

### 1. 各種講演会の実施

#### ・低学年向けの講演会の実施

【実施内容】1年生進路ガイダンスの実施（12/10、5年生3名による講演、進路状況説明）  
3年生進路セミナーの実施（11/6、キャリアコーディネーターによる講演）

#### ・4年生向けの講演会の実施

【実施内容】4年生進路セミナー①（10/2、進路支援室長による講演）  
4年生進路セミナー②（11/13 進学・20就職、進路支援室長による講演）  
4年生進学講演会（11/20、大学等入試広報担当教員による講演）  
4年生卒業生講演会（12/4、本校卒業生等による講演）  
4年生進路セミナー③（1/15 就職・22進学、キャリアコーディネーター講演）  
進路講演会の実施（2/22、進路支援室長、学校カウンセラーによる講演）

#### ・専攻科生向けの講演会の実施

【実施内容】専攻科進路セミナーの実施（8/7、キャリアコーディネーターによる講演）

### 2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援

#### ・進路セミナーを通じた進路支援

【実施内容】3年生進路セミナーの実施（11/6、再掲）  
4年生進路セミナー①②Ⅲ（10/2、11/13・20、1/15・22、再掲）  
専攻科進路セミナーの実施（8/7、再掲）

#### ・応募書類作成支援および面接対策

【実施内容】進路担当教員やキャリアコーディネーター等による応募書類の作成支援、  
模擬面接練習の実施、進路相談の実施

### 3. 進路決定情報の収集および分析

#### ・学生への進路関連情報の提供

【実施内容】オープンキャンパス日程の周知  
各種イベント開催案内の周知

#### ・進学希望者および就職希望者の合格・不合格情報の収集および分析

【実施内容】進路決定状況の集約、運営会議における報告  
進路支援室と学級担任、専攻長との情報共有  
進路説明会（2/22）における進路決定状況報告  
進路決定状況の分析（地域別就職状況、地域別進学状況、大学合格状況、他）

## 令和6年度 進路支援室の重点項目への取組結果の点検

進路支援室において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

### (1) 取組結果報告に基づく評価

| 重点項目                             | 活動等計画                           | 評価 | 根拠・確認事項                                                        |
|----------------------------------|---------------------------------|----|----------------------------------------------------------------|
| 1. 各種講演会の実施                      | ・低学年向けの講演会の実施                   | ○  | ・第2回資料No.8-4、8-9「実施要項」<br>・第3回資料No.3「報告」                       |
|                                  | ・4年生向けの講演会の実施                   | ◎  | ・第2回資料No.8-5、8-6、8-7、8-8「実施要項」<br>・第3回資料No.3「報告」               |
|                                  | ・専攻科生向けの講演会の実施                  | ◎  | ・第2回資料No.8-1「実施要項」<br>・第3回資料No.3「報告」                           |
| 2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援 | ・進路セミナーを通じた進路支援                 | ◎  | ・第2回資料No.8-1「実施要項」<br>・第3回資料No.3「報告」                           |
|                                  | ・応募書類作成支援および面接対策                | ◎  | ・第1回資料No.3、第3回資料No.2「相談実績・主な相談内容」                              |
| 3. 進路決定情報の収集および分析                | ・学生への進路関連情報の提供                  | ◎  | ・第12回運営会議報告2「学生支援委員会・進路支援室報告」<br>・第3回資料No.3「報告」                |
|                                  | ・進学希望者および就職希望者の合格・不合格情報の収集および分析 | ○  | ・教学IR室会議-資料1「就職・進学の地区別状況、3年次編入学の合格状況」<br>・令和6年度進路指導状況報告書（掲載予定） |

### (2) 次年度への提言

#### ・低学年向けの講演会

低学年での進路支援は、単に進路をみつけるというより、学習の強い動機付けにもなります。先輩によるローモデルとしての講演会とともに、活躍している卒業生の講演会を実施すると共に、進路に向けた研修をより早い時期に行うことが望ましい。

#### ・進路決定情報の収集および分析

「合格実績の詳細分析」の過去数年分を取りまとめ、効果的な進路指導法を検討してほしい。

## 2-13 入試広報室

### 令和6年度 各委員会の重点項目への活動計画

| 委 員 会 | 担当     | 重 点 項 目                                         |
|-------|--------|-------------------------------------------------|
| 入試広報室 | 入試広報室長 | 1. オープンキャンパス・各種行事<br>2. 学校説明会<br>3. 入試広報手段の改善検討 |

1. オープンキャンパス・各種行事
  - ・オープンキャンパス（7/6(土)）による入試広報
  - ・その他の各種行事の入試広報
    - ・授業公開（前期・後期）の中学生参観
    - ・工嶺祭（10/19(土)・20(日)）との連携
2. 学校説明会
  - ・学校説明会の充実
    - ・長野高専会場（オンライン併設）での学校説明会の開催
    - ・他の地域での学校説明会の開催を検討
  - ・中学校訪問
    - ・中学校主催の講演会への参加（教員または学生）
    - ・本校学生（主に1年生）による中学校訪問の検討
3. 入試広報手段の検討
  - ・広報ポスターの改善
    - ・入試以外のイベント情報も記載し、通年で広報
  - ・中学校以外（塾や企業など）への広報展開の検討

## 令和6年度 入試広報室の重点項目への取組結果報告

| 委 員 会 | 担当     | 重 点 項 目                                         |
|-------|--------|-------------------------------------------------|
| 入試広報室 | 入試広報室長 | 1. オープンキャンパス・各種行事<br>2. 学校説明会<br>3. 入試広報手段の改善検討 |

### 1. オープンキャンパス・各種行事

- ・オープンキャンパス（7/6(土)）による入試広報  
 オープンキャンパスを実施し、新規に2テーマ(LAおよびソーシャルイノベーション・サポートセンター)を追加。中学生・保護者・教員の参加者：合計 607 名。  
 秋の授業公開中(11/4(月))に、秋のオープンキャンパスを実施(参加者：171 名)。
- ・その他の各種行事の入試広報
  - ・授業公開（前期・後期）の中学生参観  
 教務委員会と連携し、授業公開での中学生参観を実施。  
 （中学生およびその保護者・教員・一般の参観人数：前期 72 名、後期 68 名）
  - ・工嶺祭（10/19(土)・20(日)）との連携  
 工嶺祭実行委員会と連携し、1日2回、計4回(計70名)の学校説明会の実施。

### 2. 学校説明会

- ・学校説明会の充実
  - ・長野高専会場（オンライン併設）での学校説明会の開催  
 中学生向けの学校説明会(オンライン無し)は、9/8(日)に実施(参加者：87 名)。  
 中学校教員向けの進学説明会(オンライン併設)は、8/6(火)に実施(計 81 名)
  - ・他の地域での学校説明会の開催を検討  
 後援会と連携し、新たに松本・佐久・諏訪・飯田の4会場で実施(計 84 名)。
- ・中学校訪問
  - ・中学校主催の講演会への参加（教員または学生）  
 教員 2 名、学生 8 名を派遣(計 10 件)。
  - ・本校学生（主に1年生）による中学校訪問の検討  
 男女共同参画推進室と連携し、中学校訪問を実施。

### 3. 入試広報手段の検討

- ・広報ポスターの改善
  - ・入試以外のイベント情報も記載し、通年で広報  
 イベント情報および進路情報を追記して改善。
- ・中学校以外（塾や企業など）への広報展開の検討  
 上記の広報ポスターを技術振興会会員企業(約 400 社)へも配布。塾は未対応。

## 令和6年度 入試広報室の重点項目への取組結果の点検

各委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

### (1) 取組結果報告に基づく評価

| 重点項目             | 活動等計画                      | 評価 | 根拠・確認事項                                                                                                                                            |
|------------------|----------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・ オープンキャンパス・各種行事 | ・ オープンキャンパス（7/6(土)）による入試広報 | ◎  | 2024/4/15 入試広報室会議議事メモ<br>2024/6/11 入試広報室会議議事メモ<br>2024/7/17 入試広報室会議議事メモ                                                                            |
|                  | ・ その他の各種行事の入試広報            | ◎  | 11/28 入試広報室会議議事メモ                                                                                                                                  |
| 学校説明会            | ・ 学校説明会の充実                 | ◎  | 2024/4/15 入試広報室会議議事メモ<br>2024/6/11 入試広報室会議議事メモ<br>2024/7/17 入試広報室会議議事メモ<br>2024/11/28 入試広報室会議議事メモ<br>2025/1/8 入試広報室会議議事メモ<br>2025/2/14 入試広報室会議議事メモ |
|                  | ・ 中学校訪問                    | ○  | 2024/6/11 入試広報室会議議事メモ<br>2024/7/17 入試広報室会議議事メモ                                                                                                     |
| 入試広報手段の検討        | ・ 広報ポスターの改善                | ○  | 2024/4/15 入試広報室会議議事メモ<br>2024/7/17 入試広報室会議議事メモ                                                                                                     |
|                  | ・ 中学校以外（塾や企業など）への広報展開の検討   | ○  | 2024/7/17 入試広報室会議議事メモ                                                                                                                              |

### (2) 次年度への提言

- ・ 本校学生の中学訪問に対する結果を会議にて報告してください。
- ・ 塾へのポスター配布を行ってください。
- ・ 全体として各行事等の実施した後の効果などの分析があまりされていないように思われますので実施したほうが良いと思います。
- ・ 本年度の倍率がかなり低い状況でした。さらなる広報に力を入れてください。

## 2-14 教育改善委員会

### 令和6年度 教育改善委員会の重点項目への活動計画

| 委 員 会   | 担当  | 重 点 項 目                                                                         |
|---------|-----|---------------------------------------------------------------------------------|
| 教育改善委員会 | 委員長 | 1. 各種委員会の活動状況の点検<br>2. 授業改善システムの実施と評価・点検<br>3. FD 研修会の企画・開催と評価<br>4. エビデンス収集・保管 |

#### 1. 各種委員会の活動状況の点検

- ・委員会の活動重点項目の確認
- ・活動結果の把握および点検

#### 2. 授業改善システムの実施と評価・点検

- ・授業改善システムの実施
- ・授業改善システムの点検、評価

#### 3. FD 研修会の企画・開催と評価

- ・FD 研修会の企画と実施
- ・FD 研修会の実施後点検、評価

#### 4. エビデンス収集・保管

- ・エビデンス収集・保管の実施

### 3. 令和6年度における各種点検報告

#### 3-1 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検

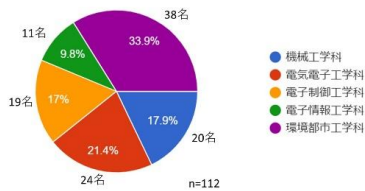
令和6年度学習・教育目標の達成度自己評価調査票は教務委員会によりアンケートを実施し、集計結果が教務委員会および専攻科運営委員会で報告された。

##### 3-1-1 本科5年のアンケート調査

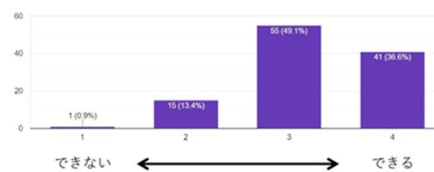
- ・アンケートの実施
- ・アンケート結果の集計

データは付録1に示す。教務委員会でデータの考察はしていない。  
データのグラフの抜粋を示す。

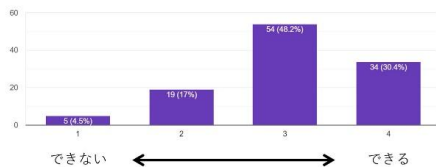
所属学科



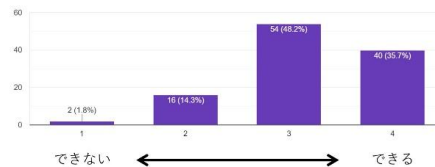
(A)世界の政治、経済、産業や文化を理解し、  
その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、  
多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。



(F)具体的なテーマについて論理的な記述と  
説明および討論できる能力を身につける。



(G)習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、  
それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に  
遂行する能力を身につける。



#### 【分析】

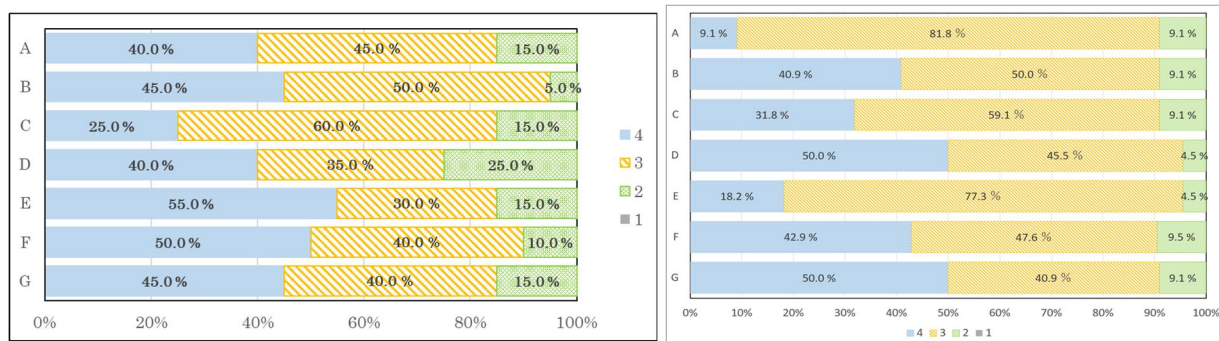
- ・ 回答数は112件で、在籍人数197名に対して回答率は57%であった。昨年度の回答率は70%であったため、回答率は10%以上低下している。回答率を向上させるために、アンケートの周知方法等を検討する必要がある。
- ・ 学習教育目標のAにおいて、86%の学生が3以上のスコアを付けている。昨年度に比べて約6ポイントの上昇しており、工学分野に限らず幅広い一般科目に対して高い関心を持った学年であったと考えられる。
- ・ 学習教育目標のF・Gにおいては、3以上のスコアを付けた学生が昨年度に比べて5ポイント以上減少している。入学年度からの3年間でコロナ禍の制約を大きく受けていたことで、能動的な学修活動の機会が減少してしまったことが原因の一つとして考えられる。
- ・ 学習教育目標のB・C・D・Eにおいては、昨年度と同様に8割以上の学生が3以上のスコアを付けており、工学の専門分野やその基礎となる知識の習得について、多くの学生が達成感を得られていたと考えられる。
- ・ 教務委員会でも結果の分析や意見交換を行い、その内容を報告書に含めるべきであると考えられる。



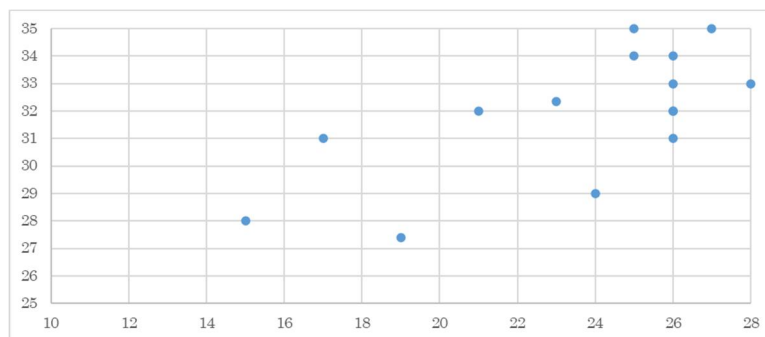
### 3-1-2 専攻科のアンケート調査

- ・アンケートの実施
- ・アンケート結果の集計

データは付録 2 に示す。集計結果のグラフのみ抜粋して以下に示す。専攻科運営委員会のデータ集計のコメントから分析を行う。



学習・教育目標の達成度評価確認の集計結果：左：本年 R6，右：昨年 R5



ルーブリック形式による A～G の 7 項目の達成度評価による総点（横軸：各 4 段階、最大 28 点）と教科ごとに集計された自己点検評価の総点（縦軸：各 5 段階、最大 35 点）の相関

#### 【分析】

- ・ 回答数は 20 件であり、回答率は 95%と高い。
- ・ アンケート結果は、4 優秀（すばらしい）3 良（よい）2 可（さらに努力を要する）1 不可（不十分）で集計している。学習教育目標の B 以外の項目について、3 以上の自己評価を付けた学生が昨年度と比べてわずかに減少していることが確認できる。
- ・ 学習教育目標の A・E について、4 優秀（すばらしい）と回答した学生が大幅に増加した。今年度は、日本文学特論や外国史概論などの人文系科目や、デザイン能力の育成を目的とした科目である機能デザインの履修を通じて、達成度を実感できた学生が多かったと考えられる。
- ・ ルーブリック形式による自己達成度評価と教科ごとに集計された自己点検評価の相関から、学生がルーブリック形式での評価の際に、自己を厳しく評価していると考えられる。ルーブリック形式でアンケートを行う際に、意図せず厳しい評価を付けてしまうような形式になっていないか、設問の表現等を点検するとよいと考えられる。

### 3-2 学生との意見交換会に関する点検

学生との意見交換会が昨年に続き、2月20日(木)に行われた。  
学生会で事前に全学生を対象に実施したアンケートにおいて、意見や要望があった事項について意見交換した。

以下に、学生より学校への意見要望と、学校側の回答を示す。

#### 【学校について】

##### ・教務関係の意見

(1) スマホいじり、勉強をしない結果、成績が悪い学生が一定数いる。その学生が進級できる制度はおかしいと思う。

⇒ 従来から「携帯電話に関しては、授業担当者が認めた場合を除き、ロッカーに入れて管理する。」をルール化しているが、来年度から厳格に対応したい。学生会でも風紀向上策を考えてほしい。

学生会役員会を開催して検討した結果、携帯操作していたら欠席扱いにする、イラストレーション創作部でポスター作成することも検討している、とコメントがあった。

(2) 工学科になり、5年次に受講する科目が多く、卒研や学外活動の幅が狭くなると思う。高学年はゆとりのあるカリキュラムが望ましい。

⇒ 選択科目が増えたため、5年次に多い印象があるかと思う。すべて履修しなさいということではないので、しっかり考えて選択してほしい。

##### ・学生関係の意見

(1) 自転車のヘルメット着用に関して、義務化ではなく努力義務ではどうか。

⇒ 実施に当たり罰則を設けない予定。本校学生は毎月1～2件の事故報告があること、最近高校でも全校を上げて着用しようという動きになってきている。長野県のヘルメット着用率は全国4位に押しあがった(1位愛媛69.3%、4位長野34.7%)。新居浜高専も義務化している。

学生会役員からは、髪型が崩れるため、着用することに抵抗があるとの意見があった。

(2) アルバイト許可願の厳格化、もしくはアルバイトの自由化はどうか。

⇒ アルバイトの実施は「学生生活ガイド」記載の対応(平日は1～3年生は不可、など)をしている。来年度は教員が統一した考えで厳格に指導に当たりたい。アルバイトの自由化は考えていない。無断アルバイト発覚は懲戒処分という厳罰化も可能である。寮は違反点数が一定数を越えた場合には許可されない場合がある。

(3) 学食と購買、自販機の値上がりが苦しいです。

⇒ 購買の商品の価格がコンビニと変わらない件については、業者と相談したい。学食の販売価格については、食材の価格高騰(特にお米)や物流コストの高騰等で値上がりについて仕方がないかと思っている。利用者が増えれば価格が下がる可能性があるが、業者にも働きかけたい。

##### ・学生関係の要望

(1) プール跡地を畑として活用したいという団体がある。期限的にでも利用許可をお願いしたい。

⇒ 本日2/20にアウトドア同好会とビジコン同好会から企画書を受け取った。学生支援委員会で審議したのち、キャンパスマネジメント委員会に付議する予定。プール跡地は栽培に適さず、土を入れるなど対応が必要かもしれない。寮敷地内で空いている場所も良いかもしれない。

(2) 専攻科棟、工場棟の学校設備を自主的に使えるようにしてほしい。

⇒ 技術教育センター第1・2工場は、平日8:30～17:00(課外活動は～18:30)に安全教育を受けた学生であれば申請して使用可能。専攻科棟内のソーシャルイノベーション・サポートラボは平日の8:30～17:00であれば利用可能かと思う。詳細は各室の管理室にいる職員と相談してほしい。

(3) 車通学を可能にしてほしい。(バス・電車を1本逃すと遅刻が確定しまう。)

⇒ 朝遅れる可能性があるという理由では許可できない。5年生および専攻科2年生で研究が遅くなり公共交通機関で帰れない等の場合には冬季のみ限定的に許可することが可能である。

(4) 校内学習塾でHRを使わず、違う場所で行ってほしい。居場所がない。

⇒ TAがいる高学年の教室で実施するなど、工夫したい。

(5) 学生が使えるインクジェットプリンタを本科棟に設置してほしい。

⇒ 情報教育センターに設置されているプリンタを使用してほしいが、カラー印刷ができるプリンタをリフレッシュルームに設置するなど、検討したい。

- (6) 教室の空気が乾燥しているので加湿ができる工夫をしてほしい。  
⇒ 冬季に締め切った状態で使用すると湿度が下がるので、休み時間に出入口を開けて換気をするとともに、全熱交換器を運転させてください。加湿器の導入は予算の関係もあり、すぐに対応できない可能性がある（メンテナンスが大変）。
- (7) 完全下校時刻の延長・・・大会前など時間延長をしてほしい。  
⇒ 高専機構の方で、課外活動は「平日 2 時間、休日 3 時間」としているため、延長は考えていない。ハイシーズンとオフシーズンを平準化して、活動日を「平日 4 日、休日 1 日」としていただければ良いので、うまく実施日を設定してほしい。

### 【寮について】

#### ・寮関係の意見

- (1) 寮内巡視について、個人的空間を無断で見られるのは困る／見たら見たと報告があるといい。  
⇒ 安全管理の面で教員が巡視している。学生に目的をしっかりと説明したい。
- (2) 寮内の当番活動について、意見があるときどこに相談すればよいかわからない。  
⇒ 当番活動については寮生会に言ってほしい。点呼については寮担任や寮事務室に言ってほしい。
- (3) 寮内のルールについて、改変するのに寮生の意見も取り入れるのはどうか。  
⇒ 意見は寮生会に言ってほしい。月 1 回程度実施している寮生会との懇談会で検討する。
- (4) 寮内ネットワークについて、通信の制限を何 GB にするのか。令和 3 年度は追加料金なしで 50GB の制限があった。来年度から値上げしたうえで、通信制限 50GB になるというのはどうしてか。理由をお聞きしたい。  
⇒ 来年度、フィルタリングサービスを利用するので利用料が上がる（従来 750 円＋フィルタリングサービス 250 円＝1,000 円）。このサービスは学校側の設定ではない。各自モバイルルータを契約して使用することもできるが、1,000 円は徴収する形になる。
- (5) 当番が増え、住み心地が低下している。  
⇒ 当番については寮生会に言ってほしい。

#### ・寮関係の要望

- (1) 授業がなくても、寮に戻れない時間が長すぎる。鍵を開けてほしい。  
⇒ 寮生アンケートにも多くの意見があったので、今後検討していく。
- (2) 机と棚の構造が悪いので、修繕をお願いしたい。  
⇒ 備え付けの机や棚の代わりに、自分が持ち込んだものを使用したい場合には応相談。修繕が必要な場合は申し出てほしい。

貴重な学生と学校側の意見交換の機会である。

結果を新旧の学生支援委員や各系の会議などで周知することが大切と考えられる。

### 3-3 令和6年度参与会で出された改善点の整理

令和7（2025）年1月29日（水）に第21回長野高専参与会が実施され、その概要が報告書「第21回長野工業高等専門学校参与会議事概要」にまとめられている。この報告書の内容に基づき、本校が今後取り組むべき課題は何か、以下に報告する。

#### 1. 参与会の概要

##### （1）出席者

- ・参与会のメンバー → 9名
- ・本校関係者 → 校長 他23名

##### （2）協議題

- ・新系設置構想
- ・自己点検・評価項目
- ・長野高専での取り組み
- ・いじめ対策について

##### （3）議事内容

香山会長から、この参与会は長野高専の教育研究について検証し、支援や提言を行う重要な会であると考えているため、忌憚ないご意見等を伺いたいとの挨拶があった。

その後、参与会設置要項第7条第1項の規定により香山会長が議長となり、次第に沿って議事が進行された。上記の協議題について本校担当者より配布資料に基づいた説明があり、その後質疑応答が行われ、参与会のメンバーよりいくつかの貴重な提言をいただいた。

#### 2. 今後の課題

参与会の質問・意見や要望を基にして、今後本校が取り組むべき課題を整理した。

- （1）「新素材・バイオ系」に対する女子学生、地域企業へのニーズ調査（アンケート調査）と方向性の早期決定
- （2）中学生向けアンケート、出口側（卒業生、企業向け）アンケートの回答率向上に向けた実施方法の見直し
- （3）経営者への情報発信の検討
- （4）女子学生の増員のための方策検討
- （5）活動（オープンラボ、ソーシャルイノベーション・サポート・センターなど）の積極的な広報

なお、長野高専ホームページ 外部評価報告

<http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/out/index.php>

を参照されたい。

#### 3. 令和6（2024）年度の参与会からの要望等

令和6（2024）年度の第21回長野高専参与会が令和7（2025）年1月29日（水）に開催され以下の要望等を頂いた。

1. 新系の設置に向けて、至急にアンケートを実施し、方向性を固めた方がよい。
2. 中学生向けのアンケートや出口側（卒業生や企業向け）のアンケートについて、現在の延長線上の調査ではなく、10年後や20年後にどのような技術が必要とされるのか、長野県の産業界のニーズに合致した内容になっているか疑問を感じる。
3. 新系が設置されても、すぐに志願者増とならない懸念がある。中学生へのアプローチ、広報や高専への理解を深められるような情報発信をすることが志願者増につながると感じる。
4. 卒業生、修了生へのアンケートの回収率が低い。また企業へのアンケートの実施については関係部署に直接送る、被回答者の負担とならないようにするなど、実施方法の検討が必要。
5. 工業高校が減少している状況から、専門性を前面に出しすぎず、より幅広い層の生徒を受け入れながら、徐々に専門性を深めていくような仕組みの検討も必要では。工学科の対象を広げることも検討してはどうか。
6. バイオに関連し、工業系と農業系を組み合わせた分野が重要となってくると思う。対象を広げることで、女性の進学者も増える可能性がある。ぜひ幅広い視点で検討を行ったもらいたい。
7. オープンラボやソーシャルイノベーション・サポート・センターなど、積極的にさまざまな取り組みを行っている一方で、これらの活動が十分に周知されていないのではないかと感じる。こうした取り組みをもっと広報に活用すれば、志願者の増加にもつながるのではないかと。

8. 評価書の作成も重要だが、成果につながる取り組みを行うことが重要である。そのためには、参加している幹部が、実現可能な指針を示し、具体的な形にしていくことが必要だと思う。
9. 中信や南信の地域では、長野高専の認知度が低くなっていると感じる。広報の力が弱くなっているのではないか。
10. 理系に興味を持っている子どもは非常に多い。そういった子どもの関心をどう育てていくかが課題となる。高い志を持った子どもも多く、「就職に有利」といった視点よりも、より大きなビジョンを提示することが重要だと思う。
11. ただ単に「女子学生を増やそう」という動きではなく、「この道に進めばこんな未来が待っている」というビジョンを明確に示し、広報していくことが大切だと考える。
12. 高専のメリットの一つに学費の安さがあると考えている。近年、高等教育の無償化が進められようとしている。もしこれが実現すれば、高専の魅力が相対的に薄れ、志願者数がさらに減少するのではないかと危惧している。
13. 現在の志願倍率が1倍程度で、ほぼ全員が入学できる状況になれば、学力層がばらつき、特に下位層の学生にとっては厳しい環境になってしまうのではないかと懸念している。もし学力が追いつかず途中で脱落してしまう学生が増えるのであれば、入学前の段階で一定の基準を設けることも必要かもしれない。新しい学科やカリキュラムの導入によって志願者を増やしていく取り組みには大いに期待しているが、入学基準についても慎重に検討していくべきではないかと考える。

### 3-4 実施済研修会の効果の点検およびその改善

令和6年度は4回のFD研修会を実施した。

#### 3-4-1 研修概要

##### 第一回

主 催：エンジニアリングデザイン入門（2年生）担当者・教育改善委員会  
日 時：令和6年9月30日（月） 16:15～17:00  
場 所：100番教室  
講 師：みらいスタジオ 野村 泰暉 氏  
題 目：学生のモチベーションを高めるメンタリングとは？  
～ 演習型科目におけるメンターの役割 ～  
出席者：対面参加者 46名 （アンケート回答者数 31名）

##### 第二回

主 催：学校いじめ対策委員会・教育改善委員会  
日 時：令和6年11月13日（水） 16:15～16:35  
場 所：オンライン（Teamsによる配信）  
講 師：スクールソーシャルワーカー 青木 三枝子 氏  
題 目：いじめ防止と対策ポリシーといじめ防止等基本計画  
出席者：約67名（オンライン聴講者数）  
なお、出席者に後日この研修会の録画を視聴した者を含まない

##### 第三回

主 催：教育改善委員会  
日 時：令和7年1月29日（水） 14:40～15:50  
場 所：100番教室  
講 師：研究主事 田中 秀登 教授  
題 目：地域連携について  
出席者：対面参加者 24名 （アンケート回答者数 22名）

##### 第四回

主 催：教育改善委員会・グローバルエンジニア育成センター  
日 時：令和7年3月26日（水） 14:00～14:50  
場 所：100番教室での対面講演  
講 師：リベラルアーツ教育院英語科 高桑 潤 教授  
演 題：「英語リスニングの学習方法」  
出席者：アンケート回答者数 30名

本年度は4回のFD研修会を実施した。第3回は各委員会（教務、学生）と重なり、また第4回は年度末のため、参加者が少なかった。重要な内容であり、定期的な実施は必要であるが、日程など考える必要がある。実施報告およびアンケートの結果の詳細については、4章に掲載する。

#### 3-4-2 FD研修の効果の検討

昨年度FD研修の効果を計る評価手法の検討し、それに基づき今年度も実施した。

##### 実施内容

- 1) FD 研修実施
- 2) 参加者のFD アンケート（一週間後締め切り）
- 3) 教育改善の担当委員がFD 報告書を作成
- 4) 配布資料と報告書を教員へ配布（実践への呼びかけ）のメールを実施
- 5) 年度末にFD 総括アンケート Google フォームで実施

アンケート期間 令和7年4月4日（金） ～ 4月10日（木） 12:00

##### アンケートの内容

FD研修の実践効果を確認するためのアンケートです。ご協力ください。

R6年度は下記の4回のFD研修を実施しました。

報告書をご覧頂き研修会を振り返っていただき、各FD研修会の内容の実践状況をお教え頂きたく、アンケートにご回答ください。お忙しいところ、申し訳ございませんが、何卒よろし

申

くお願い申し上げます。なお、 4月10日(木) 12:00 までにご回答いただきたくお願い

申し上げます。

forms で回答を回収

第一回

主 催：エンジニアリングデザイン入門（2年生）担当者・教育改善委員会

日 時：令和6年9月30日（月） 16:15～17:00

講 師：みらいスタジオ 野村 泰暉 氏

題 目：学生のモチベーションを高めるメンタリングとは？

～ 演習型科目におけるメンターの役割 ～

第二回

主 催：学校いじめ対策委員会・教育改善委員会

日 時：令和6年11月13日（水） 16:15～16:35

講 師：スクールソーシャルワーカー 青木 三枝子 氏

題 目：いじめ防止と対策ポリシーといじめ防止等基本計画

第三回

主 催：教育改善委員会

日 時：令和7年1月29日（水） 14:40～15:50

講 師：研究主事 田中 秀登 教授

題 目：地域連携について

第四回

主 催：教育改善委員会・グローバルエンジニア育成センター

日 時：令和7年3月26日（水） 14:00～14:50

講 師：リベラルアーツ教育院英語科 高桑 潤 教授

演 題：「英語リスニングの学習方法」

## ① 評価項目と結果

36名から回答があった。

4回のFD研修に対して、研修の内容を「実践した・実践予定・実践する予定はない」で回答を求めた。

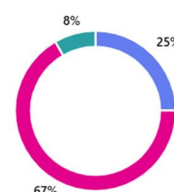
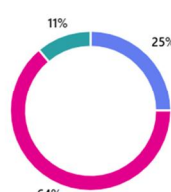
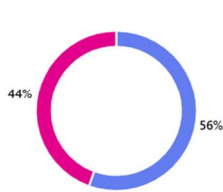
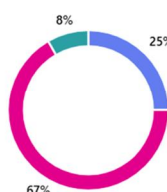
グラフの色は、■：実践した、■：実践予定、■：実践する予定はない である。

第1回

第2回

第3回

第4回



■：9 ■：24 ■：3

■：20 ■：16 ■：0

■：9 ■：23 ■：4

■：9 ■：24 ■：3

実践したが最も多いのは第2回のいじめ防止と対策ポリシーといじめ防止等基本計画で、各先生が一番身近に考えており、どのように実践したらよいか常に考えているためであると考えます。第4回は研修会後2週間経っていない時のアンケートであり、実践予定が多かった。第1回目は後期科目であるエンジニアリングデザイン入門の話であり、これから実践する先生が多かった。

自分には余り関係なく、身近でないテーマの可能性がある場合は、実践する予定はないと考える先生もあり、研修内容や研修の意味をしっかりと伝えていく必要を感じる。

## ② FD研修の効果を確認する方法の提案やご意見

- 実践した事例の報告書を提出してもらい公開することで、他の方に研修会の効果が確認できる。

- この手の研修会は効果の数値化が極めて困難なものが多いと感じる。ただし、英語リスニング研修については、繰り返し実施するとともに、毎年、教職員向けに TOEIC 試験を受験してもらうことでトレンドが計測できると考えている。
- こちらの記憶力の問題ですが、正直な所、9 月と 11 月に参加した講演会の内容を覚えておりません。「効果を確認する方法」としてのアイデアではありませんが、効果を上げる手段として、講演会よりもワークショップをお願いしたいです。

貴重な意見をいただいた。今後の FD 研修や効果の計り方に活用していくと良いと思う。

#### 3-4-3 次年度への提言

- FD 参加者を増やす方法を検討する。
- FD 研修を受けた後に、FD 研修の内容の実践のアンケートを入れ、年度末の FD 総括アンケート比較することで、取り組みの変化が分かる。
- 実践した事例の報告書を提出してもらう。



## 4. 令和6年度 FD 研修会実施報告

4-1 第1回 FD 学生のモチベーションを高めるメンタリングとは？～ 演習型科目におけるメンターの役割 ～  
2025年9月30日

令和6年10月1日

### 令和6年度 第1回 FD 研修会 実施報告書

#### 1. 日程他

主 催：エンジニアリングデザイン入門（2年生）担当者・教育改善委員会

日 時：令和6年9月30日（月） 16:15～17:00

場 所：100番教室

講 師：みらいスタジオ 野村 泰暉 氏

題 目：学生のモチベーションを高めるメンタリングとは？

～ 演習型科目におけるメンターの役割 ～

出席者：対面参加者 46名 （アンケート回答者数31名。）

#### 2. 概要

下記の講演があり、今後の本校のエンジニアリングデザイン入門を進める上で有用な内容であった。

##### 1) アントレプレナーシップ教育（起業家精神の教育）

起業家を輩出するのではなく、自立した人間・協働できる人・生きていくための精神や能力を育成する。（研究者、技術者、公務員などでもよい）

##### 2) メンターとは（手助けをする人、指導や手本とは違う）

アイデア出しのお手伝い。アイデア出しには2種類ある。A:課題解決型、B:価値提案型

A: 課題解決型：鎮痛剤的で、無いと困る・あると便利なもの。フローがある。

① 課題の特定（ヒアリングが大切）、② 代替手段の特定（コストも考える）、③ 解像度を上げる

（リーンキャンパス（起業・事業アイデアを可視化できるフレームワーク）を利用し、具体化する）

B: 価値提案型：ビタミン剤で、なくてもよい。

① ビジョンの明確化（将来こうなる）、② GAP 分析（現状とのギャップを分析）、③ 未来の常識

##### 3) アイデア発想法

① TTP（徹底的にパクる。真似できることは真似する）

② マンダラート（マス目にアイデアを書き込むことで思考を整理したり広げたりする技法）

③ オズボーンのチェックリスト（ある特定のテーマや対象について、9つの項目に答える形で発想する）

④ ブレインストーミング（一人で始める、同じ考え・環境の人ではアイデアが固定される）

##### 4) ケーススタディ

① メンバーが動かない。一人でやっている。 → 一人でやる。

② メンバーとケンカした。 → 人格を否定しない。意見の批判はいい。ちゃんと話す。

#### 3. 質疑応答

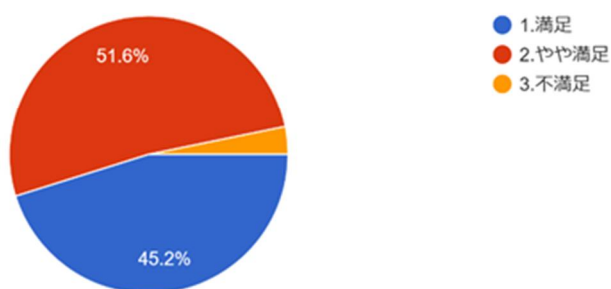
質疑：チーム内に、発散の方向に向かう発言をする学生、収束の方向に向かう発言をする学生、の相反する学生に対してどのようなアドバイスをすれば良いですか？

応答：発散の方向に向かう学生に対しては、あなたの意見は目的・ゴールと合致していますか？収束の方向に向かう学生に対しては、収束の方向には向かわず、どうしたらより良い方向に向かいますか？ のようにアドバイスしてみても？

#### 4. アンケート結果

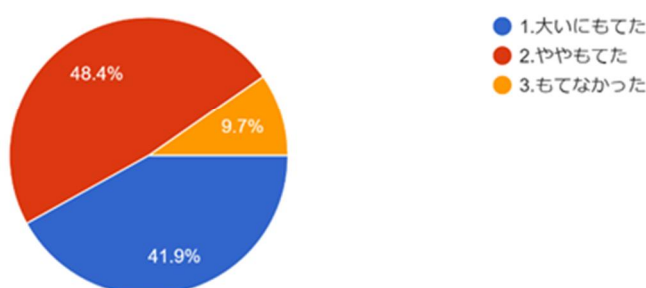
項目1：研修会はあなたの求めるテーマでしたか？

31 件の回答



項目2：今回の内容に興味をもてましたか？

31 件の回答

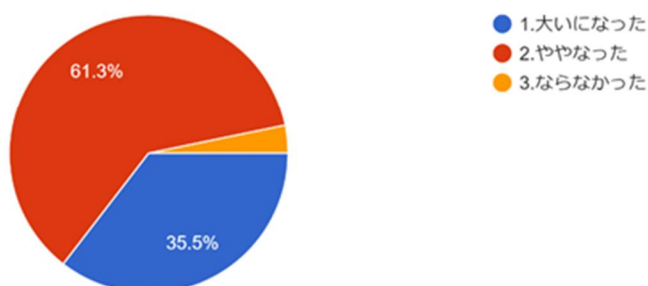


項目3：本日の外部講師授業に関してコメントあればお願いします（自由記述）

- ・短い時間で申し訳なかった。もっとじっくり聞きたい。
- ・限られた時間でしたが、学生の意欲向上の参考になりました
- ・TTP「徹底的にパクレ」は、駄目でしょう。
- ・貴重な講話でした
- ・学生向けの講演会であり、内容としてオンラインでの実施で十分だった。忙しい時期なので、録画で良いFDは後日視聴だと助かります。
- ・結局のところアントレプレナーシップではなくてアントレプレナーの話なのだなと思いました。事業紹介が多く肝心なところはかなり駆け足で内容が無かったように思います。どうしてもこの手の話をされる方はアプリ開発が軸で本校の授業が目指すところとはかけ離れているように思います。
- ・時間が足りない

項目4：今後の教育活動の参考になりましたか？

31 件の回答



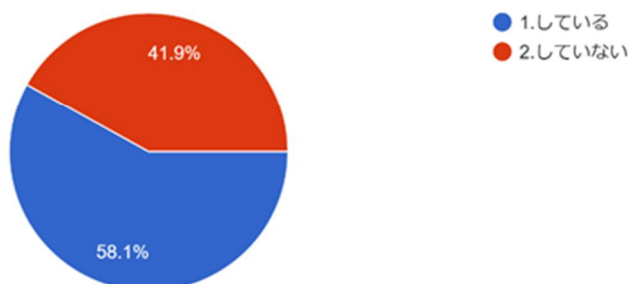
項目5：本テーマの開催時期として適当でしたか？

31 件の回答



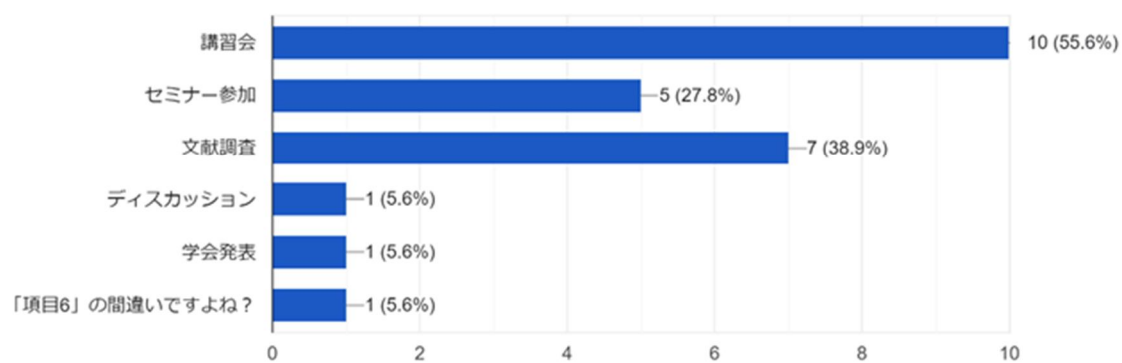
項目6：あなたは学校が用意したFD以外に教育技術向上のための活動をしていますか？

31 件の回答



項目6-2：項目7で「している」場合、活動を以下から選んで下さい。

18件の回答



項目 7：今後の FD 研修会に取り上げてほしいテーマ，ご希望，ご意見などありましたら，ご記入ください（自由記述）

- ・組織づくり、チームビルディング、コーチング、キャリア形成
- ・国際交流（短期留学生来訪時の学内対応）
- ・1/3 が自社の紹介になっており、時間配分にやや難がありました。

## 令和6年度 第2回FD研修会 実施報告書

### 1. 日程他

主 催：学校いじめ対策委員会、教育改善委員会

日 時：令和6年11月13日（水）16:15～16:35

場 所：オンライン（Teams による配信）

講 師：スクールソーシャルワーカー 青木 三枝子 氏

題 目：いじめ防止と対策ポリシーといじめ防止等基本計画

出席者：約67名（オンライン聴講者数。なお出席者に、後日この研修会の録画を視聴した者を含まない）

### 2. 概要

学生課学生係横山係長より講師の紹介の後、下記内容の講演があった。今後の本校でのいじめ対策への理解を深める上で有用な内容であった。

#### 1) いじめの定義の要素を理解する

- ・行為をした者Aと行為の対象となった者Bが共に学生であるなど、AとBの間に一定の人間関係が存在すること
- ・AがBに対して心理的または物理的な影響を与える行為をしたこと（インターネット等を通じて行われるものを含む）
- ・当該行為の対象となったBが心身の苦痛を感じていること

#### 2) 学校・教職員に必要とされていること

- ・いじめについては、必ず法の定義に基づいて、組織で認知し、組織で対応する。
  - ・教職員が一人で認知・対応した結果、対応を誤ったことで自殺した子供が過去に何人もいる事実を忘れてはならない。
- 組織に報告、組織で認知、組織で対応、が大切になる。

### 3. 質疑応答

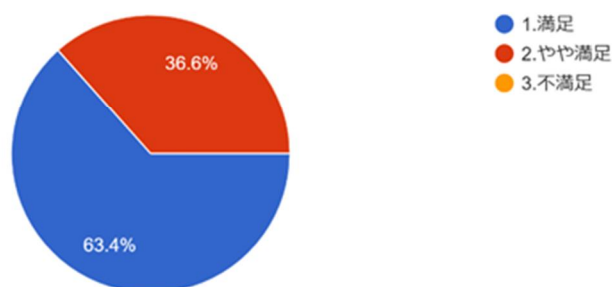
質疑：いじめ相談があった場合の窓口等について確認したい。

応答：ホームページの「ハラスメント・いじめへの対応」にも掲載しているが、相談しやすい教職員へ相談してください。

### 4. アンケート結果

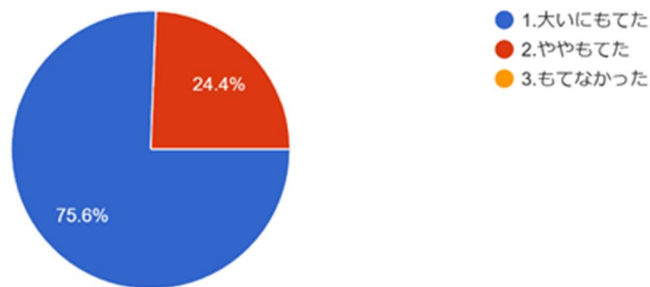
#### 項目1：研修会はあなたの求めるテーマでしたか？

41件の回答



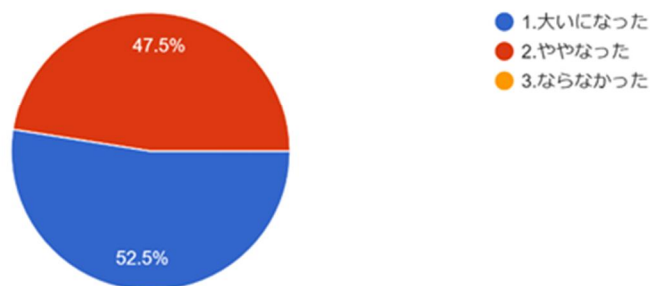
項目2：今回の内容に興味をもてましたか？

41 件の回答



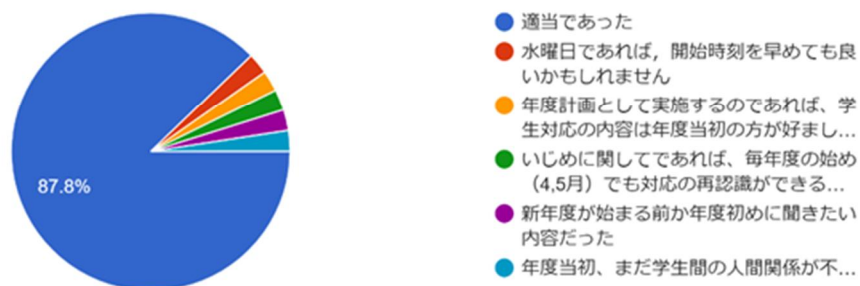
項目3：今後の学生相談（いじめ対策）の参考になりましたか？

40 件の回答



項目4：本テーマの開催時期として適当でしたか？

41 件の回答

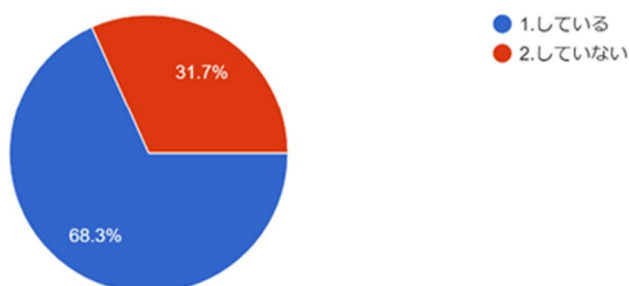


（補足：回答が途中で切れているもの）

- ・年度計画として実施するのであれば、学生対応の内容は年度当初の方が好ましいので、年度当初の優先すべき業務が落ち着いたタイミングで実施した方が良いと思いました。
- ・いじめに関してであれば、毎年度の始め（4,5月）でも対応の再確認ができるのでありがたいです。
- ・年度当初、まだ学生間の人間関係が不安定なときのほうが有効なように思います。

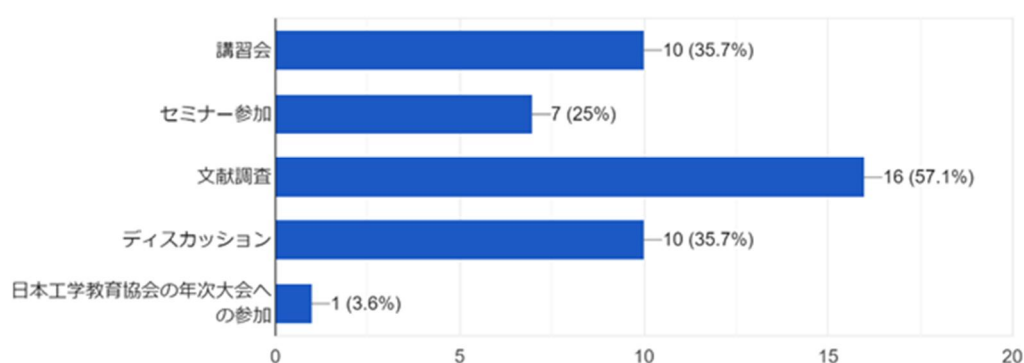
項目5：あなたは学校が用意したFD以外に教育技術向上のための活動をしていますか？

41 件の回答



項目5-2：項目1で「している」場合、活動を以下から選んで下さい。

28 件の回答



項目 6：今後の FD 研修会に取り上げてほしいテーマ、ご希望、ご意見などありましたら、ご記入ください

（自由記述）

- ・アカハラ、パワハラ研修
- ・学生にいじめの相談を受けた際には、個人で動くのではなく、いじめ対策委員会に速やかに報告して、組織として対応するのが重要であるとわかりました。
- ・いじめ・不登校
- ・希望等は、現状は特にありません。今回のご講演で1点気になったこととして、細かいことで恐縮ですが、ご講演資料に登場する学生の呼称で「〇〇くん」、「〇〇さん」と男女を区別する表記がありました。本校の方針で、2023 年 4 月 5 日付「学生呼称の統一について」のメールに基づき、男女区別なく統一した表現にすべきと思いました。内容面はとても分かりやすかったので、参考になりました。
- ・今回の FD 研修会テーマは特に重要だと考えています。共有すべき学生情報について、「組織で認知」までは出来ると思います。その後に「組織で対応」する場合に関して外部講師における研修がありますと幸いです。
- ・特になし
- ・チームビルディング
- ・ハラスメント（特に学生に及ぶアカハラ、セクハラ）に関するテーマは定期的に取り扱って欲しい。
- ・メンタルに不調をきたした学生への対応
- ・FD になるか分かりませんが、機関別認証評価や教育の質保証のための各種点検・改善システムに関する申合せの説明

令和 6 年度 第 3 回 FD 研修会 実施報告書

1. 日程他

主 催：教育改善委員会

日 時：令和 7 年 1 月 29 日（水） 14:40～15:50

場 所：100 番教室

講 師：研究主事 田中 秀登 教授

題 目：地域連携について

出席者：対面参加者 24 名 （アンケート回答者数 22 名。）

2. 概要

下記の講演があり、今後の本校の地域連携を進める上で大変有用な内容であった。

1) 地域共同テクノセンター・長野高専技術振興会について

地域共同テクノセンター 平成 12 年 4 月設置：キーワード＝「地域の企業と共に」

設置の背景・目的

- ・変化する産業構造への対応、実践的・創造的技術者育成の必要性
- ・必要とされる技術者の資質を的確に掴むために産学官連携に一層力を注ぐ
- ・地域ニーズ対応型の産学官連携活動を推進し、そのプロセスと成果を常に学生の教育に還元する

長野高専の研究活動による基本方針

- ・研究活動は教育の質を保证する上での重要な手段
- ・重要な知的情報の発生源であり、研究活動を通して地域に貢献することを期待されている長野高専技術振興会との連携

高専技術振興会との連携

- ・研修事業：2023 年度の講座件数：63 件、参加人数：1256 名
- ・会員数 396 (2024. 11)

＊2024 年度から年会費を引き上げ（社員数 100 名以上の企業：5 万円、100 名未満：3 万円）

技術振興会から学校への支援金：約 800 万円／年

- ①「2024 年度学生支援計画」にある部活支援：120 万円（来年度は未定）
- ②ソーシャルイノベーションサポートセンター支援金：80 万円
- ③学校と企業の連携授業活動支援：200 万円（エンジニアリングデザイン入門・実践）
- ④教職員による研究プロジェクト支援：400 万円

その他：各センターでの成果報告会・研究発表会などを支援

高専 TUT 太陽電池合同シンポジウム、プロジェクト系団体活動報告会、高速信号伝送研究会 2024

2) 地域連携での新たな取り組み

2024 年 5 月 15 日開催 第 1 回研究推進・産学連携本部会議

・科研費目標：採択数 330 件以上（各高専 6.5 件以上）、基盤 B の新規採択 15 件（各高専 1 件以上）

- ・外部資金目標：高専機構全体で＋2.5 億（各高専＋500 万円）

長野高専の状況

- ・科研費：採択数 14 件（基盤 B：3 件含む）215%達成
- ・外部資金：69,478 千円 89.9%達成
- ・科研費及び外部資金合計獲得状況としては、合算で 517 万円の増加 目標達成

長野高専オープンラボ

- ・研究活動と地域連携を加速する目的で長野高専オープンラボを設立（令和 6 年 10 月 1 日設立）
- ・企業から持ち込まれた課題について、関連分野を研究する教員（2 名以上）や学生が共同研究を行い、研究活動の活性化と学生の実践力を高める
- ・共同研究費 700 万円（企業拠出）、期間 2 年間



- ・長野県産業振興機構（NICE）や八十二銀行＋長野銀行と連携
- ・地域共同テクノセンター2階にオープンラボを設置し、企業との打ち合わせで使用している
- ・現在2研究室を設置
  - アピックヤマダ 未来技術研究室：富岡研究室、姜研究室、田中研究室
  - 山洋電気 パワエレ未来研究室：中島研究室、田中研究室

#### オープンラボのメリット

企業：外部に研究室が持てる、企業主体の研究方針決定、学生と直接関われる機会、高専の設備が使える、経歴を考慮して客員教授などの称号授与、マネジメント力育成

学生：企業を知る機会、専門性を高める、仕事内容の理解、就職を見据えた研究活動が可能

高専：教育研究活動の機会増加、研究推進の効率化（実践力の高い技術）、企業への理解が深まる  
デメリット

企業：費用対効果、人材派遣が難しい、優秀な学生の確保できるとは限らない、時間軸の違い（研究開発スピードが違う）、企業の設備の方が良い場合もある

学生：囲い込みの圧力を感じる可能性、就職先とするメリットを感じない

\*JOB型の採用枠で魅力を提示（賃金など）、あくまで機会の創出であって囲い込みではない

高専：成果へのプレッシャー、マッチングするシーズがあるのか、研究発表できるとは限らない（守秘義務など）、結果や行動により逆効果になる可能性

#### その他の新たな取り組み

- ・技術振興会会員企業の展示（学生玄関・オープンラボ室）
- ・技術振興会企業による技術で語る会の開催（水曜4コマ目・非定期）
  - リクルート活動ではなく技術で学生に訴求
- ・アンケートの実施：長野高専に「物質・材料・化学系のコースがあったら」採用ニーズを調査
- ・長野県技術振興会ホームページのリニューアル：困りごとを書き込んでもらうような場所を準備中

#### 3) 今後について

##### IJIE（アイジー）（Inland Japan Innovation Ecosystem）

・信州大学が主幹する地方型スタートアップ創出・成長加速エコシステムの共創を実現する地域プラットフォーム、長野高専も協力機関として参加

・スタートアップ創出プログラム（研究開発支援）

プレ500万円/年、スタンダード：3,000万円/2年、スタンダード+α：6,000万円/3年

##### 今後の地域共同テクノセンターの方針

- ・継続的に続けていくために仕組みを簡単にしていきたい
- ・教育研究プロジェクト費用の確保（エンジニアリングデザインなど）
- ・各センターで研究会・発表会を開催したいと要望があれば実現していく

##### まとめ

- ・地域連携＝ヒューマンネットワーク＋小さな実践の積み重ね
- ・地域企業の技術力向上への有効な支援の実現＝研究会・講習会開催＋競争的外部資金獲得支援
- ・人材育成と地域企業の繁栄＝長野高専の役割・発展への途

#### 3. 質疑応答

1 質疑：オープンラボについて、学生が参加するモチベーションをどのように高めていきたいと考えているのでしょうか？企業書生などの仕組みを活用するなどの想定はあるのでしょうか？

応答：学生には、卒業研究のテーマの一環として関わってもらう。研究室配属前の早い段階から学生に関わってもらうことも考えているが、低学年は知識を身に着ける段階であるため慎重に検討が必要。企業書生の活用なども含めて、そのような仕組みづくりも今後考えていきたい。

2 質疑：企業の困りごとが学術的な研究に直結しない可能性があります。また、学生への研究負担の増加（ブラック研究室）、事務的なやりとりが煩雑になるなど、学生や教職員の負担が増加する可能性が考えられると思います。過度な負担にならないような仕組みづくりについてどのようにお考えでしょうか？

応答：研究テーマを設定する段階で、相互にメリットがない研究テーマにはならないように調整していきたい。仕組みづくりについては、まだ動かし始めた段階なので、色々試行錯誤しながらより

良い仕組みを考えていきたい。

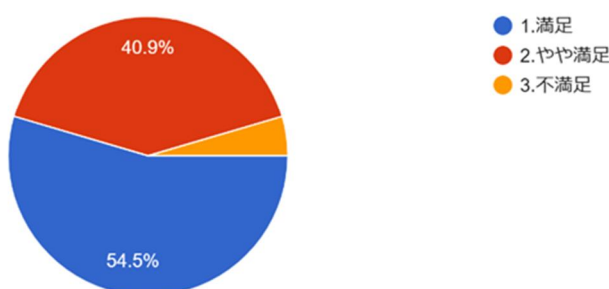
3 質疑：企業の方々は、研究成果重視なのか学生の教育を重視していただいているのか、傾向があれば教えていただきたいです。

応答：考えは企業によって様々。最初のヒアリングの段階で、認識の齟齬が生じないように目標設定を明確にしていく必要がある。企業によっては学生の囲い込みを狙っている可能性もあるが、技術者育成の一環として理解していただくようお願いしている。担当者同士での調整が難しいこともあるので、そこはテクノセンターが間に入って調整していきたい。

#### 4. アンケート結果 （後日）

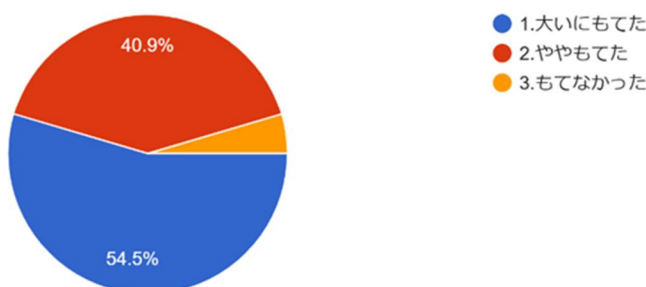
##### 項目1：研修会はあなたの求めるテーマでしたか？

22 件の回答



##### 項目2：今回の内容に興味をもてましたか？

22 件の回答



##### 項目3：本日の外部講師授業に関してコメントあればお願いします（自由記述）

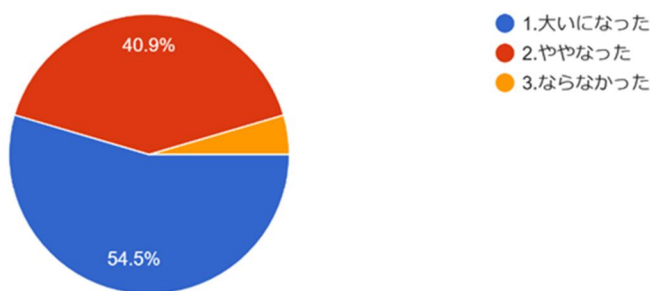
・化学・材料分野の企業ニーズが高いという根拠データなど知りたい情報があり満足しております。

・特にございません

・テクノセンターの活動やオープンラボの取り組みについて深く知れて良かったです。オープンラボはまだ立ち上げ直後だと思いますが、定期的に状況をうかがえる機会があると嬉しいです。

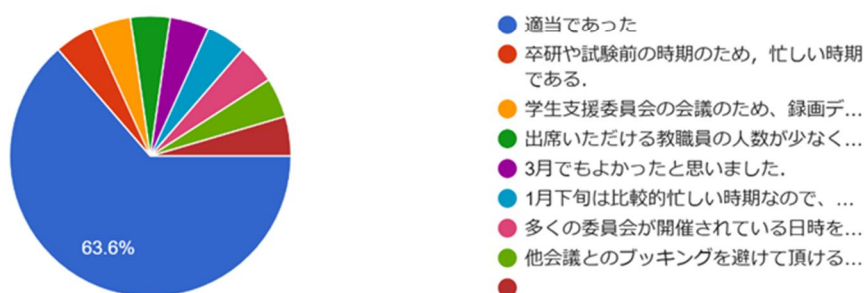
#### 項目4：今後の教育活動の参考になりましたか？

22 件の回答



#### 項目5：本テーマの開催時期として適当でしたか？

22 件の回答

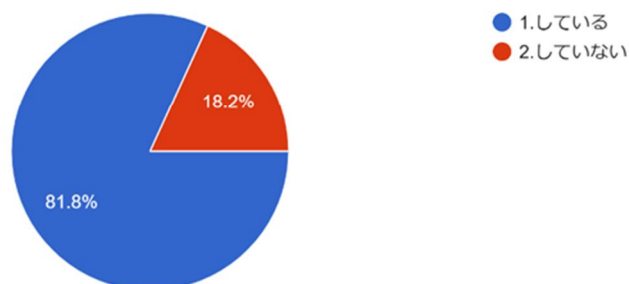


(補足：回答が途中で切れているもの)

- ・ 学生支援委員会の会議のため、録画データにて聴講させていただきました。
- ・ 出席いただける教職員の人数が少なく、時期としては課題があるように感じました。
- ・ 1 月下旬は比較的忙しい時期なので、できれば年間スケジュールの中で、余裕のある時期にしてください。
- ・ 多くの委員会が開催されている日時を避けるべきと感じた。
- ・ 他会議とのブッキングを避けて頂けるとありがたいです。

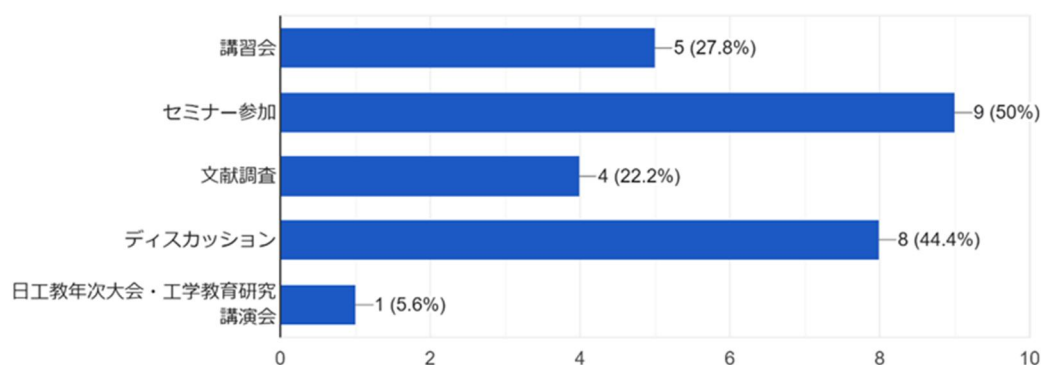
#### 項目6：あなたは学校が用意したFD以外に教育技術向上のための活動をしていますか？

22 件の回答



項目6-2：項目7で「している」場合、活動を以下から選んで下さい。

18件の回答



項目7：今後のFD研修会に取り上げてほしいテーマ、ご希望、ご意見などありましたら、ご記入ください

・国際交流

#### 4-4 第4回 FD 英語リスニングの学習方法 2025年3月26日

令和7年4月4日

#### 令和6年度 第4回FD研修会 実施報告書

##### 1. 日程他

主催：教育改善委員会

日時：令和7年3月26日 14:00~14:50

場所：100番教室での対面講演

講師：リベラルアーツ教育院英語科 高桑 潤 教授

題目：英語リスニングの学習方法

出席者：対面参加者 38名（アンケート回答者数 30名）

##### 2. 概要

下記の講演が行われた。本校はグローバル教育の推進を進めており、英語のリスニング学習の効果的な学習方法について講演があった。実演も含まれており、大変有用な内容であった。

1) 英語を聞きとるために必要な力の説明

2) 英語リスニングの学習方法

・教材の紹介など

3) トレーニングの実演

4) 質疑応答（当日の講演及び後日グループウェア内にて行われた回答含む）

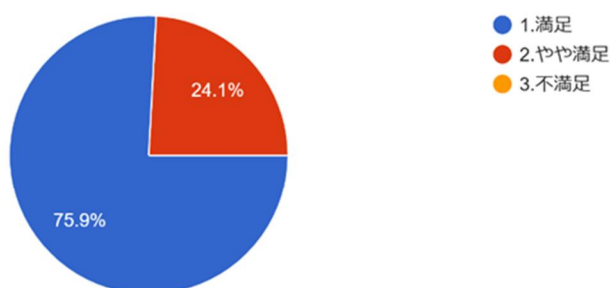
質疑：会話表現が羅列されているタイプのテキストでもいいのか。

応答：初めて取り組む場合は中学校レベルの英語であれば何でも良いが、脈絡のない文が延々と続くのは、途中で飽きてしまい、繰り返し取り組むことが難しくなる場合がある。記憶に定着しにくい。海外に行く直前に、見えそうな表現を覚える、といった使い方であれば便利だが、「対話形式」か「まとまった文章」になっているものの方が良い。

##### 4. アンケート結果（後日）

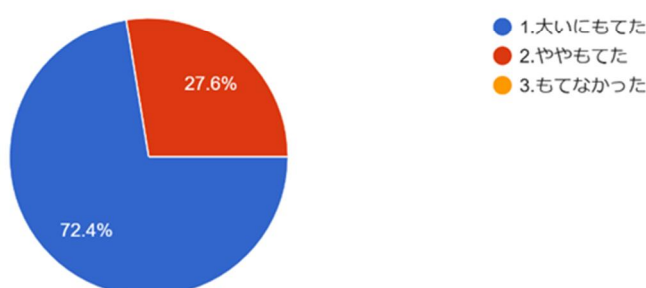
### 項目1：研修会はあなたの求めるテーマでしたか？

29 件の回答



### 項目2：今回の内容に興味をもてましたか？

29 件の回答



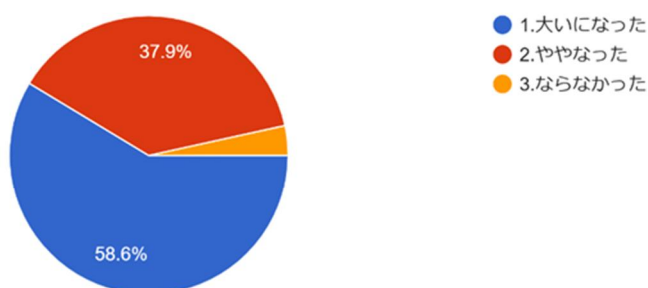
### 項目3：本日の外部講師授業に関してコメントあればお願いします（自由記述）

・講演の内容が「実演」との事だったため、自分のつたない英語がばれてしまうのでは無いかと心配でしたが、杞憂でした。良かったです。なお、FD というより自己研鑽の方法に関する研修会だと感じました。FD としては、高桑先生が熱心に学生指導をされているという事がとても刺激になったため、お話頂く方向性を変えた方が良いかもしれません。他にも色々と工夫をされている先生だとお聞きしておりますので。

- ・実際に英語のリスニングを行った結果を踏まえたお話で勉強になりました。
- ・自分自身がいろいろな英語の教材や学習方法に挑戦して長く続かなくて困っていた。今回、実際に英語の先生の学習方法についてご経験が聞けたので、大変貴重な機会でした。
- ・英語学習でシャドーイングが効果的というのはよく見かけていて、本当に効果があるのか疑問でしたが、高桑先生が実際にリスニング力が上達したと話されていて希望が持てました。具体的な教材を複数示していただけたことも勉強になりました。ありがとうございました。
- ・学生の使っているスマホアプリ（abceed, スタディサプリ）でも使って実践します。（国際交流業務でリスニング能力不足で苦労している身なので...）
- ・受験英語の読み書きの学習方法しか習ってこなかったもので、リスニングの学習方法をお聞きできる貴重な機会となりました。やみくもに英語を聞くのではなく、単語と文法が理解できる文から始めるのが大事だと学べて良かったです。
- ・具体的事例が多く良かったと思います
- ・内部講師のよさがあった。仲間の研究分野に興味関心を持つきっかけになることはとてもいい。
- ・ぜひ先生の取り組みに参加している学生の TOEIC の点数の変化の追跡調査をしてほしいです。

#### 項目4：今後の教育活動の参考になりましたか？

29 件の回答



#### 項目5：本テーマの開催時期として適当でしたか？

29 件の回答

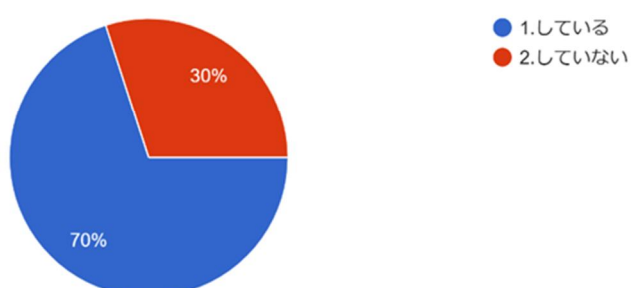


（補足：回答が途中で切れているもの）

- ・3月開催は適当と思われませんが、案内が直前でしたので、もっと早めに周知していただけると予定を組みやすいです
- ・教員会議と連続して開催されたため、効率が良かった
- ・年度末は各先生が忙しく参加者が少なかった
- ・研修会の周知をもう少し早めに行う必要があると感じます
- ・年度末ぎりぎりでない時期が良いかと思います

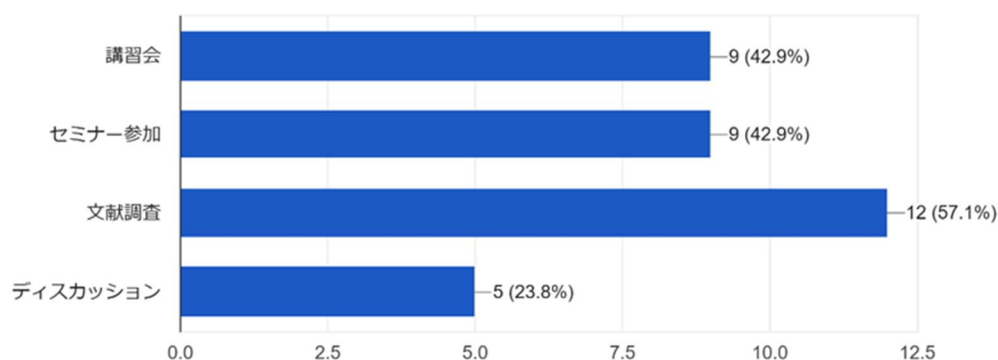
#### 項目6：あなたは学校が用意したFD以外に教育技術向上のための活動をしていますか？

30 件の回答



項目6-2：項目7で「している」場合、活動を以下から選んで下さい。

21 件の回答



項目 7：今後の FD 研修会に取り上げてほしいテーマ，ご希望，ご意見などありましたら，ご記入ください（自由記述）

・今回、都合により最初の 15 分程度しか参加できなかったもので、項目 1～4 については未回答とさせていただきます。

・TOEIC スコアの上達方法についてさらに詳しい話が聞きたいと思いました。

・教員のための英語学習の需要が高まっていると感じています。定期的（半年ごと？）に開催してもらえると嬉しいです。

・生成 AI の利用方法 （学生使用を含めて）

・組織づくり、リスクマネジメント、これからの日本の教育、ICT 活用の実態

## 5. 令和6年度の活動に向けた各種委員会等への提言

### 5-1 教務委員会

- (1) 授業公開やアンケート、FD 研修会等の活性化  
授業評価アンケートの結果に関して、授業時間外の学習時間の確保について対応策を検討してください。
- (2) ・ポートフォリオ教育の推進と分野横断的能力の育成  
ポートフォリオの実施方法、活用状況の確認について検討をお願いします。
- (3) アントレプレナーシップ教育の検討  
具体的な教育方法の検討および実施をお願いいたします。
- (4) 学科・科目間連携、専攻科との連携の強化  
学科・科目間連携について、数学・物理との連携会議が実施されていますが、この他の科目についても実施してください。

### 5-2 学生支援委員会

- (1) 各講習会の取り組み  
専門家による実体験に基づく話は、学生に有効と思われる。「交通安全講習会」および3年生向けの「生と性の安全講習会」は、外部から講師として警察官および医師で実施し、こくかてきであったとのことで、講習会は、ビデオの視聴などでなく、実体験に基づく専門家の話を増やすのが効果的だろう。
- (2) 交通事故防止に向けた取り組み  
デイリーヤマザキ長野徳間店から高専間の歩道など、「近隣住民から苦情が寄せられる」場所では、近隣住人と良好な関係構築を模索するとともに、学生会などと協力して周りの住民からも、交通事故防止の取り組みを理解してもらえようようにしてほしい。
- (3) ヘルメット着用に向けた取り組み  
自転車による交通事故が毎年発生しているが、未だに、自転車の運転中のヘルメット着用率は低い。次年度より自転車利用者は、ヘルメット着用を義務化することと、この義務化の徹底のための取り組みを行なってほしい。
- (4) 寮務委員会と連携した学生対応  
今年度から、課外活動を理由とする残寮が認められなくなりました。令和4年度までのやり方に戻せるよう寮務委員会（寮務主事）に働きかける、もしくは別の方法により、寮生も長期休業中に課外活動ができるよう検討すべきと思われる。
- (5) ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築  
市立長野高校と連携して挨拶運動や交通安全指導が行われています。素晴らしい取り組みだと思います。活動計画に書かれている「構外美化活動」に関しても、両校で連携して実施してはどうでしょうか。
- (6) 学生会企画として、ここ数年行われているイルミネーション企画は、近隣住民も多く見学に來ています。このような活動をより開かれた高専の活動にするために積極的に支援するのはどうでしょうか。

### 5-3 寮務委員会

- (1) 食事については学生が安心して3食の摂食ができるよう、引き続き調査や呼びかけを行っていただきたい。
- (2) 郵便当番廃止他、時代に沿った当番や役回りを検討・運用するのは寮生活を送る上で大変有意義であると思われる。一方、制度の変更は学生にとって負担になりにくい時期から運用されたい。
- (3) システムの構築・見直しの準備について、昨年度から検討されていた teams の活用が今年度より運用が始まった。寮に関わる情報を一元的に管理でき、かつリアルタイムに必要な情報を入手できるため、非常に有効な手法であると考えられる。一方、部屋割や当番表には氏名などの個人情報もあるため、適切に管理することに留意されたい。

### 5-4 専攻科運営委員会

- ・個表の増加がされているので継続的に取り組んでください
- ・特別研究担当教員の増加についての確認資料が見当たらないので議事録に残すようにしてください。
- ・入学者選抜方法は時代によって変わっていくものなので継続的に審議をしてください



#### 5-5 図書委員会

- (1) 図書館の利用促進に向けた取り組みを期待します。また、可能な範囲で利用状況も把握されてはいかがでしょうか。

#### 5-6 広報企画室

- (1) 概ね計画通りに活動が行われているため、次年度も継続的に実施する。
- (2) 高専 PR、入試倍率の維持、優秀な学生の確保につなげる方法を、入試広報室と連携を強化して、企画・計画して実施する。

#### 5-7 情報教育センター

- (1) 令和 9 年度以降の情報教育センターの利用方法について検討してください。
- (2) 満足度調査の結果、ネットワークに関する要望が多くありました。ネットワークの高速化によって解消したかを引き続き調査してください。

#### 5-8 技術教育センター

- (1) 重点項目、活動等計画に沿った報告書の作成をお願いいたします。
- (2) 機器及び工具等の破損に関して、対策が示されると破損防止に有益かと思います。

#### 5-9 国際交流センター

- (1) 計画通りに活動が行われているため、次年度も継続的に実施する。
- (2) **English Boot Camp** 開催などの国際交流イベントを、国際寮を活用して推進する。

#### 5-10 グローバルエンジニア育成センター

- (1) 2 学年の海外研修旅行が実施されたことは確認できたが、計画・実施にあたってグローバルエンジニア育成センターがどのような役割を担っているのか不明瞭である。
- (2) オンライン交流や留学生との交流会ならびに国際性を養う講演会の実施について計画・実施状況が確認できなかった。委員会を定期的で開催し、進捗状況を報告する場を設け、その記録を会議議事録等に残していく必要がある。

#### 5-11 男女共同参画推進室

- (1) 学生アンケートの結果について、令和 6 年度最新版が Web サイトに公開されておらず、更新が必要である。
- (2) 女性教職員を対象とした労働環境意見収集について、寄せられた意見の件数やその内容を定期的に会議の議題や報告事項に挙げ、意見交換等の記録を残していく必要がある。

#### 5-12 進路支援室

- (1) 低学年向けの講演会  
低学年での進路支援は、単に進路をみつけるというより、学習の強い動機付けにもなります。先輩によるローモデルとしての講演会とともに、活躍している卒業生の講演会を実施すると共に、進路に向けた研修をより早い時期に行うことが望ましい。
- (2) 進路決定情報の収集および分析  
「合格実績の詳細分析」の過去数年分を取りまとめ、効果的な進路指導法を検討してほしい。

#### 5-13 入試広報室

- (1) 本校学生の中学訪問に対する結果を会議にて報告してください。
- (2) 塾へのポスター配布を行ってください。
- (3) 全体として各行事等の実施した後の効果などの分析があまりされていないように思われるので実施したほうが良いと思います。
- (4) 本年度の倍率がかなり低い状況でした。さらなる広報に力を入れてください。

#### 5-14 教育改善委員会

- (1) 点検の時期が遅れないようにスケジューリング管理が重要である。
- (2) 各委員会の重点事項のフォローアップを正確に行う必要がある。
- (3) 実効性のある点検のため、組織の変更や点検方法・点検時期は委員会で話し合い柔軟に対応することが大切である。

(4) FD 研修の効果の計り方を、改良しながら適切な検討を行うことが重要である。

## 付録

### 付録1 令和6年度学習・教育目標の学生の自己達成度に関する調査報告書

#### 学習到達度自己評価の調査

本調査は、学生の皆さんが本校で学んだ上で感じた学習・教育目標の達成度を自己評価してもらい、それを今後の教育システムの改善につなげるために行うものです。  
1年から5年までの全学年を通して以下のA～G群の各教育目標に対する自己の学習の達成度を評価しそれぞれに「1：できない」～「4：できる」までの間で当てはまる値を1つ選択してください

d\_hanaoka@nagano-nct.ac.jp [アカウントを切り替える](#)

\* 必須の質問です

メール\*

☐ 返信に表示するメールアドレスとして d\_hanaoka@nagano-nct.ac.jp を記録する

所属学科\*

☐ 機械工学科  
☐ 電気電子工学科  
☐ 電子制御工学科  
☐ 電子情報工学科  
☐ 環境都市工学科

学籍番号を入力してください。（半角数字5桁）\*

回答を入力

(A)世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。\*

|      |                       |                       |                       |                       |     |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----|
|      | 1                     | 2                     | 3                     | 4                     |     |
| できない | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | できる |

(B)自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。（技術者倫理）\*

|      |                       |                       |                       |                       |     |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----|
|      | 1                     | 2                     | 3                     | 4                     |     |
| できない | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | できる |

(C)機械、電気電子、情報または土木の工学分野（以下「基盤となる工学分野」という。）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。\*

|      |                       |                       |                       |                       |     |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----|
|      | 1                     | 2                     | 3                     | 4                     |     |
| できない | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | できる |

(D)基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。\*

|      |                       |                       |                       |                       |     |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----|
|      | 1                     | 2                     | 3                     | 4                     |     |
| できない | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | できる |

(E)科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。\*

|      |                       |                       |                       |                       |     |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----|
|      | 1                     | 2                     | 3                     | 4                     |     |
| できない | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | できる |

(F)具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。\*

|      |                       |                       |                       |                       |     |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----|
|      | 1                     | 2                     | 3                     | 4                     |     |
| できない | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | できる |

(G)習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。\*

|      |                       |                       |                       |                       |     |
|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----|
|      | 1                     | 2                     | 3                     | 4                     |     |
| できない | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | できる |

(A) 世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。

(A-1) 社会科学および人文科学に興味を持ち、関連知識を理解し身につけられる。また、自分自身と他人との関わりや価値観の相違について、理解できる。

(A-2) 健全な心身の発達について理解して行動でき、考えを述べることができる。

(B) 自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。  
(技術者倫理)

(B-1) 自然や社会の問題に関心を持ち、技術が果たしてきた役割を理解し論述できる。

(B-2) 環境や社会における課題を理解し論述できる。

(C) 機械、電気電子、情報または土木の工学分野(以下「基盤となる工学分野」という。)に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。

(C-1) 数学、自然科学において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。

(C-2) 工学に必要な情報技術に関するリテラシーを身につけ、利用できる。

(D) 基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。

(D-1) 基盤となる工学分野において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。

(D-2) 基盤となる工学分野において、論理展開に必要な基礎問題を解くことができる。

(D-3) 基盤となる工学分野以外の工学分野の基礎的な知識を身につける。

(E) 科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。

(E-1) 科学、技術、工学に関する情報を収集し、その適否を判断してまとめることができる。

(E-2) 習得した知識や技能を課題に対して利用できる。

(F) 具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。

(F-1) 学習成果を文章、図等により表現できる。

(F-2) 基盤となる工学分野において、必要な英語の基礎力を身につける。

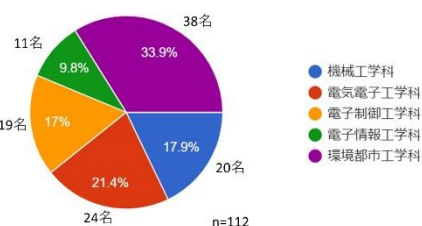
(G) 習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。

(G-1) 自己の能力を把握し、その向上のために自主的に学習を遂行できる。

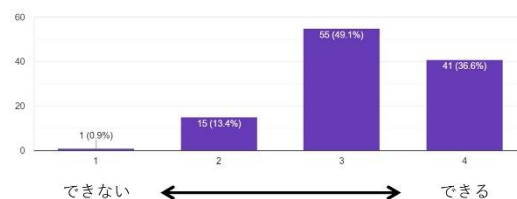
(G-2) 実務訓練等を通じて基盤となる工学分野に関連した業務の概要を理解できる。

## 令和6年度 学習到達度自己評価の調査結果

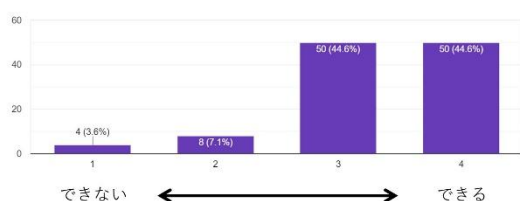
### 所属学科



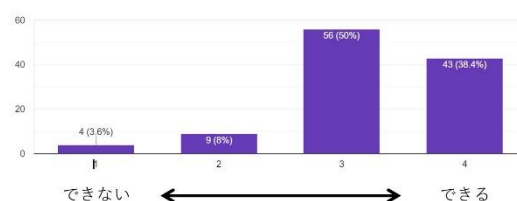
(A)世界の政治、経済、産業や文化を理解し、  
 その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、  
 多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。



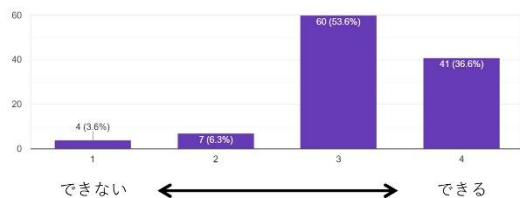
(B)自然環境や社会の問題に関心を持ち、  
 技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。(技術者倫理)



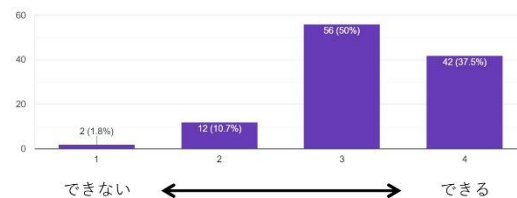
(C)機械、電気電子、情報または土木の工学分野  
 (以下「基盤となる工学分野」という。)に必要な数学、自然科学の知識を有し、  
 情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。



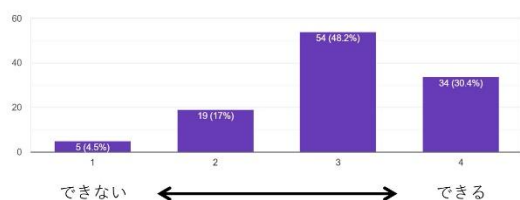
(D)基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、  
 技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。



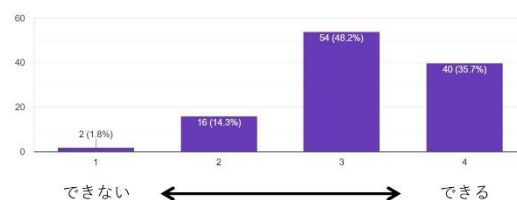
(E)科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、  
 さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、  
 自ら問題を発見し解決する能力を養う。



(F)具体的なテーマについて論理的な記述と  
 説明および討論できる能力を身につける。



(G)習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、  
 それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に  
 遂行する能力を身につける。



## 付録2 令和6年度専攻科学習・教育目標の達成度評価の確認報告

### 令和6年度専攻科 学習・教育目標の達成度評価の確認報告

専攻科運営委員会

令和6年度に修了予定の専攻科2年生を対象に、ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価を実施した。その結果について報告する。

#### 1. 実施期間および対象

実施日時：令和7年1月31日（金）～2月25日（火）

対象者：生産環境システム専攻14名、電気情報システム専攻7名 計21名（先端融合テクノロジー連携教育プログラム対象学生は除く）

調査方法：表1「ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表」（以下、ルーブリック形式による評価と呼ぶ）を用い調査を行った。なお、ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度を各自で確認するために、学習・教育目標A～Gの細目に対応する教科ごと、及び細目、学習・教育目標ごとの自己点検評価「R06 専攻科修了生到達度調査」（以下、自己点検評価と呼ぶ）も合わせて確認した。

回答者数：20名（回答率95%）

表1 ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表

ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表 学生個人用

生産環境システム・電気情報システム 専攻 学籍番号 氏名

| 学習・教育目標  | 合格                                                                         |                                                                                 |                                                                              |                                                                           | 不合格 |
|----------|----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-----|
|          | 優秀（すばらしい）                                                                  | 良（よい）                                                                           | 可（さらに努力を要する）                                                                 | 不可（不十分）                                                                   |     |
|          | 基本的に期待されるレベルを超えている                                                         | ここまで到達することが望まれるレベル                                                              | 期待した基礎レベルに達している                                                              | 期待した基礎レベルに達しておらず不合格                                                       |     |
| <b>A</b> | 世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討議し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。        | 世界の政治、経済、産業や文化を十分に理解しており、自分の考えを述べることができ、多面的に物事を考え行動できる                          | 世界の政治、経済、産業や文化を十分に理解しており、多面的に物事を考え行動できる                                      | 世界の政治、経済、産業や文化を理解しておらず、多面的に物事を考え行動できない                                    |     |
| <b>B</b> | 自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。（技術者倫理）                       | 自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について自らの考えを十分に述べることができる                             | 自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養がある                                 | 自然環境や社会の問題に関心がなく、技術者としての役割と責任について考えを述べることができない                            |     |
| <b>C</b> | 機械、電気電子、情報または土木の工学分野（「基盤となる工学分野」）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。 | 基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識を十分に有し、応用力もあり、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる                     | 基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる                            | 基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識が不十分で、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できない                      |     |
| <b>D</b> | 基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。                     | 基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を十分に習得しており、必要とされる技術上の問題に活用や応用ができる                 | 基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる                        | 基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得しておらず、必要とされる技術上の問題に活用できない                |     |
| <b>E</b> | 科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。 | 科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し、主体的に解決することができる | 科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する過程を知っている | 科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力がない |     |
| <b>F</b> | 具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討議できる能力を身につける。                                      | 具体的なテーマについて、複数の視点から論理的な記述と説明および討議ができる                                           | 具体的なテーマについて、ある視点を基に論理的な記述と説明および討議ができる                                        | 具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討議ができない                                            |     |
| <b>G</b> | 習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。   | 習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に自ら積極的に、計画的に遂行できる     | 習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行できる             | 習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行することができない。   |     |

#### 2. 集計結果

図1にルーブリック形式による評価調査の集計結果を示す。調査数が少ないことから、専攻ごとには分けずに集計した。優秀（すばらしい）を4、良（よい）を3、可（さらに努力を要する）を2、不可（不十分）を1として集計した。参考として、令和5年度の集計結果を図3に示す。

学習・教育目標の全ての項目において、3（良・よい）以上の達成度と回答した学生が全体の約75%であったが、令和5年度に比べると15%ほど減少している。この原因をみるため、ルーブリッ



ク形式による評価と「R06 専攻科修了生到達度調査」による自己点検評価（学習・教育目標（A～G）の細目に対応する教科ごと、及び細目、学習・教育目標ごとの自己点検による評価を行っている。到達度を 1～5 で評価し、5 が最も高い。）の対応を調べてみた。図 2 は、ルーブリック形式による達成度評価（総点 28 点（A～G の 7 項目×4 点））と R06 専攻科修了生到達度調査（総点 35 点（A～G の 7 項目×5 点））の対応を示す。これからわかるように、教科ごとに集計された自己点検評価は、いずれも 5 段階の平均 4 以上と高い評価であることがわかる。このことより、ルーブリックでの評定は、自己点検評価に比べて厳しく評価していると考えられる。

なお、昨年度低いと指摘された学習・教育目標 E は、4（優秀・素晴らしい）と答える学生が過半数を超えている。該当する学習・教育目標の教科である機能デザインの授業の評価も 5 点満点で平均 4.375 と高く、うまくできたと考えられる。

サンプル数が少ないので、毎年、大きな変動が起きるのは仕方がないが、ルーブリック形式の自己評価とその基本となる教科ごとの自己点検評価を連携して分析することで、より良い改善点を見つけてことができると期待できる。

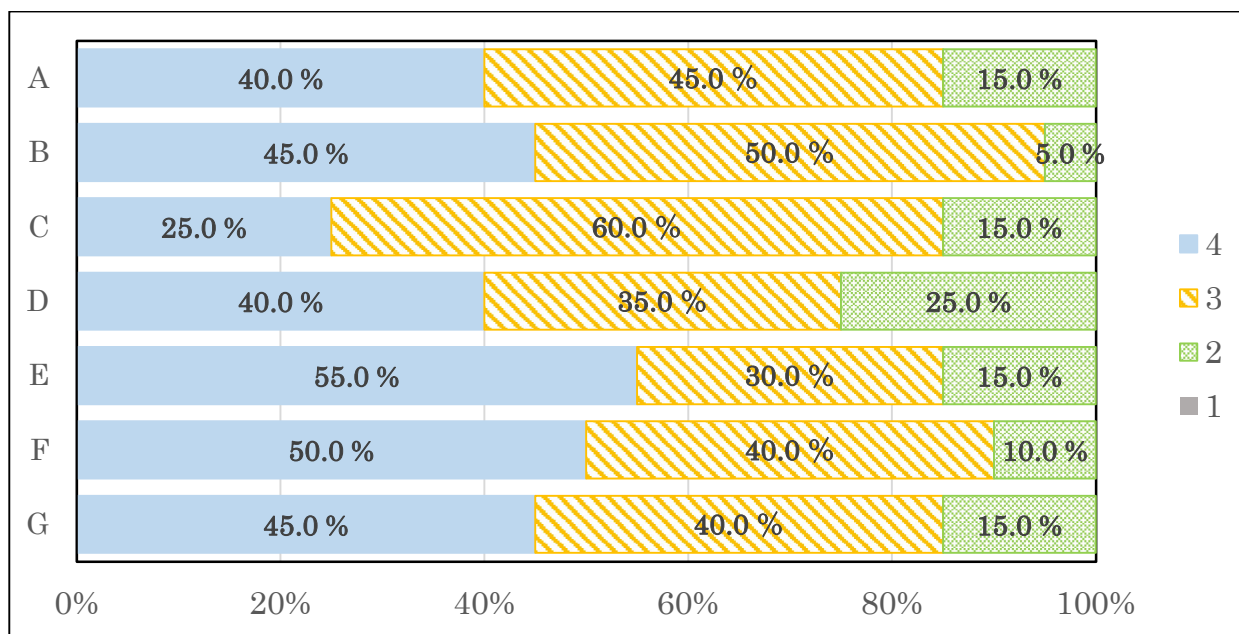


図 1 令和 6 年度学習・教育目標の達成度評価確認の集計結果（回答数：20 名）

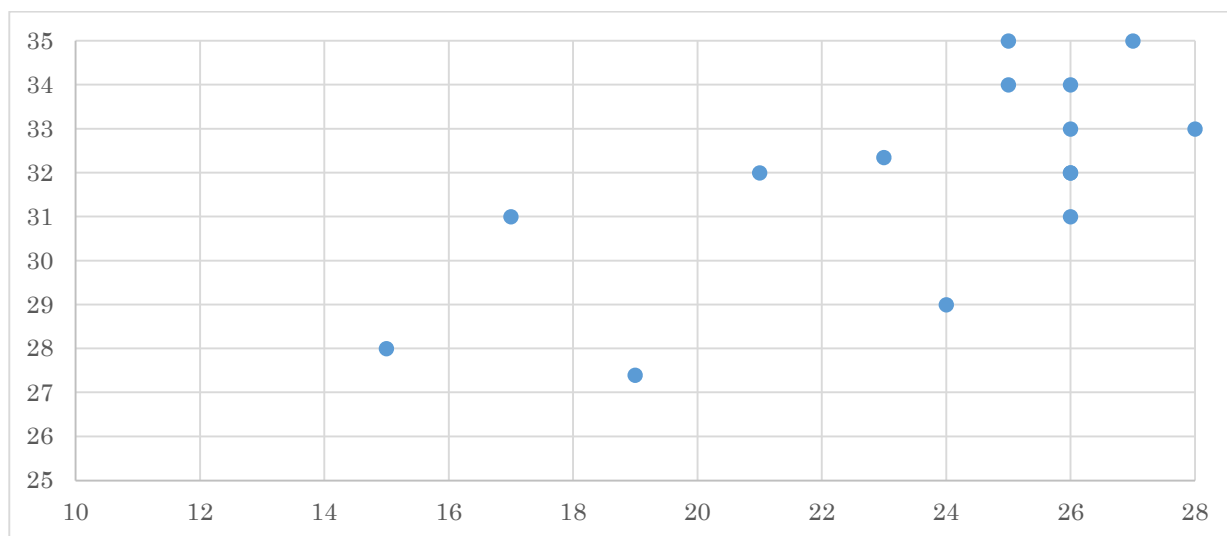


図 2 ルーブリック形式による A～G の 7 項目の達成度評価による総点（横軸：各 4 段階、最大 28 点）と教科ごとに集計された自己点検評価の総点（縦軸：各 5 段階、最大 35 点）の相関（回答数：20 名）

(参考)

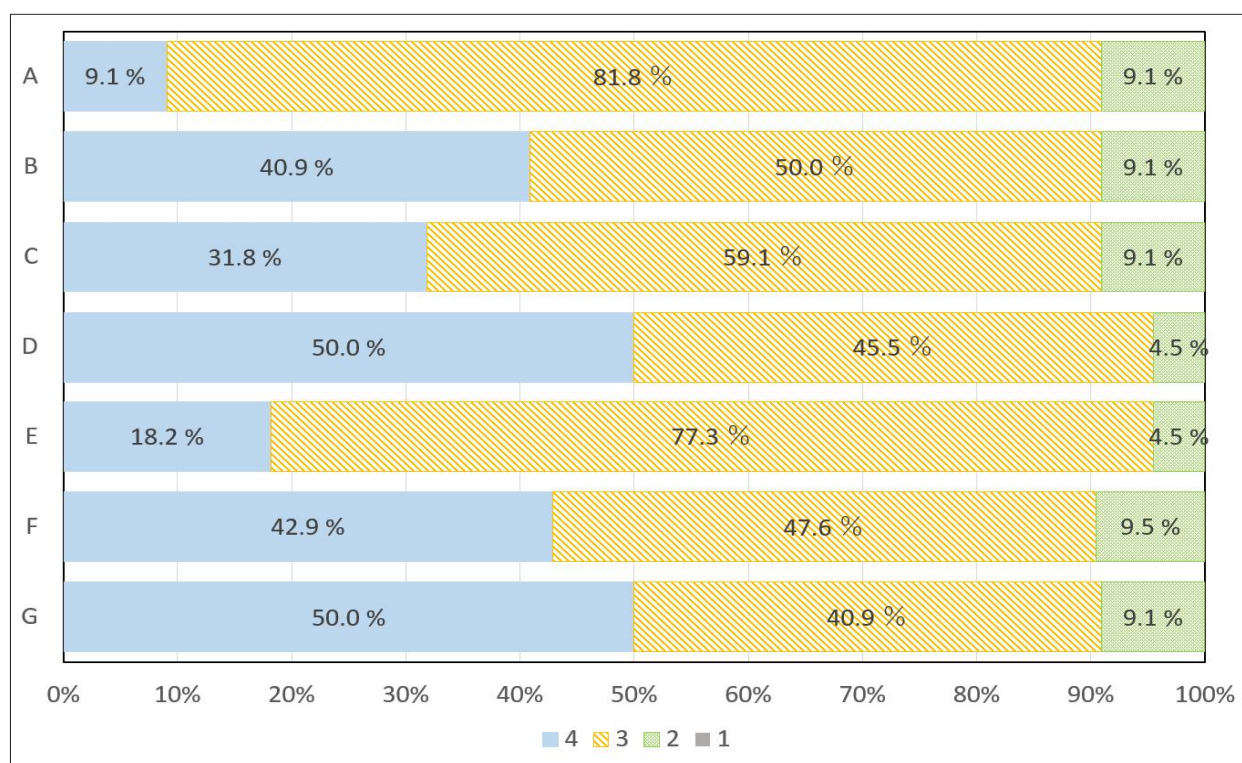


図3 令和5年度学習・教育目標の達成度評価確認の集計結果（回答数：22名）



2025.3.1

## 令和6年度本科との意見交換会 実施報告

学生支援委員会

### 1. 開催日時および会場

開催日時：令和7年2月20日（木）16:10～

17:15 会場：一般校舎2階 第2会議室

参加者：江崎 尚和 校長、濱口 直樹 教務主事、渡辺 誠一 学生主事、酒井 美月 寮務主事、  
松下 英次 教育改善委員長、井浦 徹 学生主事補、学生会役員 5名 計 11名

### 2. 意見交換の概要

学生会で事前に全学生を対象に実施したアンケートにおいて、意見や要望があった事項について意見交換した。

#### 【学校について】

##### ・教務関係の意見

(1) スマホいじり、勉強をしない結果、成績が悪い学生が一定数いる。その学生が進級できる制度はおかしいと思う。

⇒ 従来から「携帯電話に関しては、授業担当者が認めた場合を除き、ロッカーに入れて管理する。」をルール化しているが、来年度から厳格に対応したい。学生会でも風紀向上策を考えてほしい。

学生会役員会を開催して検討した結果、携帯操作していたら欠席扱いにする、イラストレーション創作部でポスター作成することも検討している、とコメントがあった。

(2) 工学科になり、5年次に受講する科目が多く、卒研や学外活動の幅が狭くなると思う。  
高学年はゆとりのあるカリキュラムが望ましい。

⇒ 選択科目が増えたため、5年次に多い印象があるかと思う。すべて履修しなさいということではないので、しっかり考えて選択してほしい。

##### ・学生関係の意見

(1) 自転車のヘルメット着用に関して、義務化ではなく努力義務ではどうか。

⇒ 実施に当たり罰則を設けない予定。本校学生は毎月1～2件の事故報告があること、最近高校でも全校を上げて着用しようという動きになってきている。長野県のヘルメット着用率は全国4位に押しあがった（1位愛媛 69.3%、4位長野 34.7%）。新居浜高専も義務化している。

学生会役員からは、髪型が崩れるため、着用することに抵抗があるとの意見があった。

(2) アルバイト許可願の厳格化、もしくはアルバイトの自由化はどうか。

⇒ アルバイトの実施は「学生生活ガイド」記載の対応（平日は1～3年生は不可、など）をしている。来年度は教員が統一した考えで厳格に指導に当たりたい。アルバイトの自由化は考えていない。無断アルバイト発覚は懲戒処分という厳罰化も可能である。寮は違反点数が一定数を超えた場合には許可されない場合がある。

(3) 学食と購買、自販機の値上がりが苦しいです。

⇒ 購買の商品の価格がコンビニと変わらない件については、業者と相談したい。学食の販売価格については、食材の価格高騰（特にお米）や物流コストの高騰等で値上がりについて仕方がないかと

思っている。利用者が増えれば価格が下がる可能性があるが、業者にも働きかけたい。

#### ・学生関係の要望

(1) プール跡地を畑として活用したいという団体がある。期限的にでも利用許可をお願いしたい。

⇒ 本日 2/20 にアウトドア同好会とビジコン同好会から企画書を受け取った。学生支援委員会で審議したのち、キャンパスマネジメント委員会に付議する予定。プール跡地は栽培に適さず、土を入れるなど対応が必要かもしれない。寮敷地内で空いている場所も良いかもしれない。

(2) 専攻科棟、工場棟の学校設備を自主的に使えるようにしてほしい。

⇒ 技術教育センター第 1・2 工場は、平日 8:30～17:00（課外活動は～18:30）に安全教育を受けた学生であれば申請して使用可能。専攻科棟内のソーシャルイノベーション・サポートラボは平日の 8:30～17:00 であれば利用可能かと思う。詳細は各室の管理室にいる職員と相談してほしい。

(3) 車通学を可能にしてほしい。（バス・電車を 1 本逃すと遅刻が確定しまう。）

⇒ 朝遅れる可能性があるという理由では許可できない。5 年生および専攻科 2 年生で研究が遅くなり公共交通機関で帰れない等の場合には冬季のみ限定的に許可することが可能である。

(4) 校内学習塾で HR を使わず、違う場所で行ってほしい。居場所がない。

⇒ TA がいる高学年の教室で実施するなど、工夫したい。

(5) 学生が使えるインクジェットプリンタを本科棟に設置してほしい。

⇒ 情報教育センターに設置されているプリンタを使用してほしいが、カラー印刷ができるプリンタをリフレッシュルームに設置するなど、検討したい。

(6) 教室の空気が乾燥しているので加湿ができる工夫をしてほしい。

⇒ 冬季に締め切った状態で使用すると湿度が下がるので、休み時間に出入口を開けて換気をするとともに、全熱交換器を運転させてください。加湿器の導入は予算の関係もあり、すぐに対応できない可能性がある（メンテナンスが大変）。

(7) 完全下校時刻の延長・・・大会前など時間延長をしてほしい。

⇒ 高専機構の方で、課外活動は「平日 2 時間、休日 3 時間」としているため、延長は考えていない。ハイシーズンとオフシーズンを平準化して、活動日を「平日 4 日、休日 1 日」としていただければ良いので、うまく実施日を設定してほしい。

#### 【寮について】

##### ・寮関係の意見

(1) 寮内巡視について、個人的空間を無断で見られるのは困る／見たら見たと報告があるといい。

⇒ 安全管理の面で教員が巡視している。学生に目的をしっかりと説明したい。

(2) 寮内の当番活動について、意見があるときどこに相談すればよいかわからない。

⇒ 当番活動については寮生会に言ってほしい。点呼については寮担任や寮事務室に言ってほしい。

(3) 寮内のルールについて、改変するのに寮生の意見も取り入れるのはどうか。

⇒ 意見は寮生会に言ってほしい。月 1 回程度実施している寮生会との懇談会で検討する。

(4) 寮内ネットワークについて、通信の制限を何 GB にするのか。令和 3 年度は追加料金なしで 50GB の制限があった。来年度から値上げしたうえで、通信制限 50GB になるというのはどうしてか。理由をお聞きたい。

⇒ 来年度、フィルタリングサービスを利用するので利用料が上がる（従来 750 円＋フィルタリングサービス 250 円＝1,000 円）。このサービスは学校側の設定ではない。各自モバイルルータを契約して使用することもできるが、1,000 円は徴収する形になる。

(5) 当番が増え、住み心地が低下している。

⇒ 当番については寮生会に言ってほしい。

・寮関係の要望

(1) 授業がなくても、寮に戻れない時間が長すぎる。鍵を開けてほしい。

⇒ 寮生アンケートにも多くの意見があったので、今後検討していく。

(2) 机と棚の構造が悪いので、修繕をお願いしたい。

⇒ 備え付けの机や棚の代わりに、自分が持ち込んだものを使用したい場合には応相談。修繕が必要な場合は申し出てほしい。

以上  
(文責 渡辺誠一)

## 令和 6 年度専攻科生との意見交換会実施報告

専攻科運営委員会

令和 6 年度専攻科生との意見交換会を下記の通り実施した。

日時：令和 7 年 2 月 21 日（木） 10:30～12:00

場所：図書館 2 階 視聴覚室

専攻科運営委員：藤澤専攻科長、小林 AP 専攻長、柄澤 AE 専攻長、原、大原、網谷

司会進行：網谷 健児 専攻科運営委員

（1）開会挨拶 藤澤 義範 専攻科長

（2）アンケート結果報告

（3）意見交換

- ・特別研究の環境等について
- ・講義について
- ・学外実習について
- ・進路について
- ・その他

（4）閉会挨拶 藤澤 義範 専攻科長

アンケート結果は別紙の通り。以下、意見交換での質疑について示す。

施設設備関連

・HDMI の接続不良

→単純にケーブルの問題であれば、替えのケーブルがあるので連絡してほしい。

・電源タップが少ない

→床にタップが散らかっていることのないように片付けのルールを学生で話し合い、それを守るといふのであれば、タップは準備する。

・17 時以降のエアコン、夜の研究の継続

→各研究室のエアコンであれば、指導教員に相談して欲しい。

19 時以降は基本的にできない。早朝や土、日の研究を考えて欲しい。但し、土、日は指導教員の同意と出勤が必要。

・遠隔授業の支障

→各先生のオンライン授業のスキルに関係するので回答というものがないが、音声なしや画面なしについては、教員も気づいていないことも多く、チャットや友達などを通してなど、その場で連絡して欲しい。

・学外実習関連（インターン）の時期や期間の関係

学外実習の期間

→学外実習は 540 時間で 12 単位となっており、その単位を他に割り振らなければならない。また、学校だけで決められることなく、学位授与機構への申請し認可が必要である。そのため、時期や期間については問題があることを認識しているが、すぐに変えられることではない。

2 か所などの希望が出ているが、学外実習についての企業への問合せ時に 3 ヶ月の実習の受入れ可否についてのみ問い合わせしているので、問い合わせのアンケートに、期間と時期も問合せするなどの改善も図りたい。

学生からコメント

受入れ時期もリスト化して欲しい。

その場の挙手で・・・短くても良いと思った学生 13 名、短かったと思う学生 5 名。

### **発表会の時間が短すぎて 3 ヶ月も受け入れた企業に失礼では？**

→発表が短いことや、本科の学生への企業 PR にもなるという意見は尤もであり、発表時間や本科の学生も聴講できるようにするなど改善を図りたい。発表については、学外実習の成績とリンクしており、学位申請の最終締め切りまでには発表会が必要となるので、発表会の時期はこれ以上遅らすことができないのが実情である。

学外実習の手引きと実際の提出方法が違いや教職員間の情報共有

→提出方法の簡素化などを進めており、少しずつ変更しているため違いが出ていたものと思われ、手引きの修正等を進めていく。また、学務課においても担当者以外には分からないところもあるので、不明な点は担当者に聞いて欲しい。

### **特別研究発表会関係**

→発表形式が大きく変わって戸惑いもあったことと思う。年度当初は発表日のみが決まっていただけで、何も決まっておらず、何事も手探りの状況で通知が遅くなっていた。しかし、発表形態など決まり次第、連絡をしてきた。来年度は、今年状況に応じて、通知を早くするなど改善したい。英語の授業でプレゼンテーションの練習を行なうにあたって秘密保持について考慮しなかった点は抜けていた点であり、来年度は改善する。

### **輪講について**

→前期は授業も多く、後期が良いという考えに変わりがない。

### **授業の未開講**

→入学年度のシラバスから、生体情報工学は無かったはずで、古い情報を見られていたと思う。また、専門の基礎科目ではなく、専門科目では講義をする先生がいなければ、講義が無くなることはありえる。

### **各種相談関係**

相談一般

→専攻科の教員だけが相談相手ではなく、本科の担当の先生などにも相談して欲しい。

就職先については、就職状況の途中報告が必要なため、学生だけの秘密にはできない部分がある。

### **研究室の変更**

→学位授与機構に「学修総まとめ科目履修計画書」を 2 年次になってすぐに準備しなければならず、特別研究 I と特別研究 II の連続した研究を基本としているので、研究室を変えやすくすることは考えていない。

### **自動車通学**

→学生の自動車通学は認められていない。

### **交流会**

→本科の 1 年と 5 年の交流会であったはずで、各科の判断で専攻科の学生も参加要請があったのだと思う。

以上

## 令和6年度

### 学生の満足度に関する アンケート調査実施結果

令和6年2月実施

教育改善委員会

## 本科アンケート

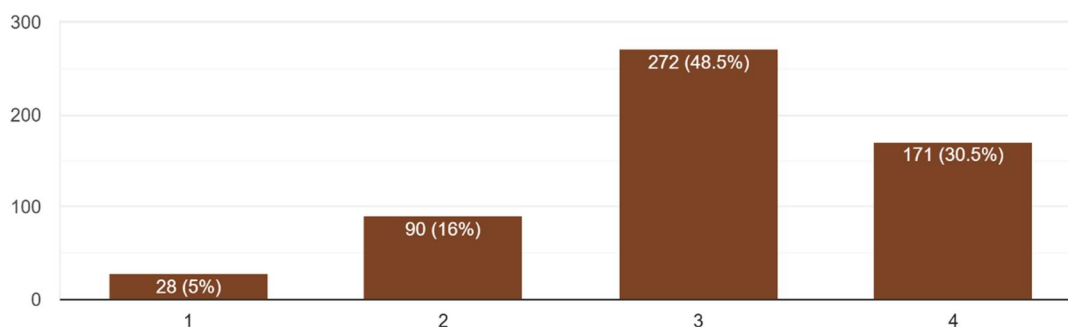
## 長野高専の満足度調査(2024 年度)のまとめ

\*全学生（本科計 1,029 名）に対する回答数 561 件（R7.1.20（月）～2.10（月）実施）

### 1. 学習について

本年度、学習を十分に行えましたか？

561 件の回答



※左から「行えなかった～行えた」の度数 1～4

上記質問への主な回答記述

- ・自宅学習時間がかなり少なかった
- ・もう少し文章などの理解力を向上させる
- ・過去問を頼りすぎて、テストで勉強していない範囲が生まれてしまった。
- ・事前に教科書を見るなどの予習を行っておけば良いと思った
- ・自分の学習意欲の問題なので、学校側に問題はありません。
- ・もっと集中した方がよかったなど感じることもあった
- ・課題の量がありにも多く気持ちに余裕が持てません。早くに課題を終えてでも睡眠不足になります程の量なので課題を減らすか教科数を減らすかして欲しいです。  
特に、情報処理はC科には必要ないと思います。長文失礼しました。
- ・勉強をしたほうがよかった
- ・メリハリ
- ・コツコツ勉強は難しい
- ・授業というものの、人に教えるということにもう少し向き合い、探求してほしい気がする講義があったが、高等教育機関だから仕方ないと言われることであろう。たとえば詰め込みすぎな授業進行や計画性のない授業進行があると、多少、学習をしづらく感じる。
- ・もう少し資格勉強を頑張ればよかった
- ・学習量不足
- ・後期は頑張れた
- ・テスト期間以外の家での自習時間を増やす！
- ・テスト勉強が圧倒的に足りなかった
- ・去年より緩んでしまった
- ・テスト前にレポートや課題が重なって十分に勉強ができなかった。
- ・もっと早くから勉強してれば試験をもっと上手くこなせた。
- ・家での学習時間を増やすことができた。ただ、長期休みはさぼりがちだった。英語とプログラムを重点的にこれからも頑張りたい。
- ・テスト前に詰め込むことが多かった。普段から勉強しておくように気をつける
- ・勉強以外が充実してたので良かったと思う
- ・英語学習の強化をして欲しい
- ・e-learning 等自分から積極的に学習に取り組むことができた
- ・部活動とどうやって両立するかので答えが出せた。
- ・時間が欲しい
- ・テスト期間以外の学習を増やす
- ・進学試験のため、積極的に自主学習した。
- ・昨年より沢山勉強できた

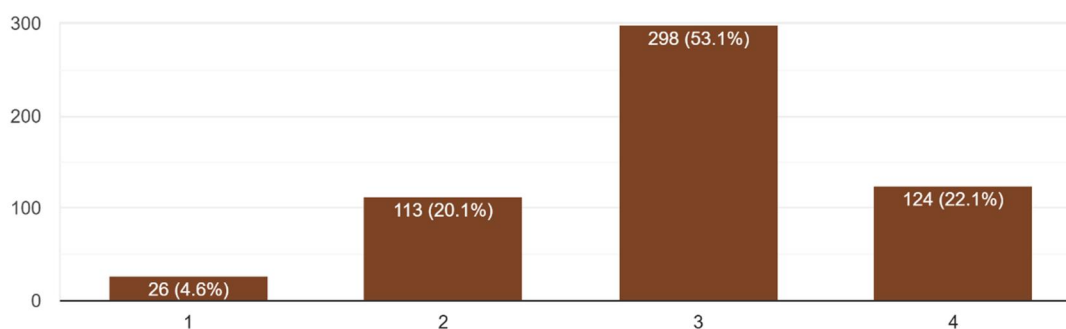


- ・もっと復習をしっかりとしていきたいと思います
- ・今すぐリベラルアーツ教育、分野横断型カリキュラム及び工学科の廃止、旧 5 学科の復活。これ以上地獄のカリキュラムの被害者を出すな
- ・課外活動や課題含め、いろんな経験と勉強ができた
- ・前期は通性だったが後期から寮生になり勉強時間が増えた
- ・今後は資格の勉強をもっとしたい
- ・勉強に対するやる気を持続し続けることが難しかった。
- ・寮での誘惑や、新しく買ってもらったパソコンでゲームをしてしまったりして、あまり勉強に集中できなくて残念だった
- ・スマホを使用して調べたり、クラスルームやチームズを使って勉強するが、そのついでに関係ないものを開いてしまう。
- ・物理を頑張るべき
- ・親元を離れたことと、スマホが手元に來たことによって中学よりも勉強をする量が減ったと感じました。
- ・復讐をもっとすべきだった
- ・特にない
- ・昔に比べて自分からやらなければという気持ちにはなったが集中力が続かなかったり、良い勉強の仕方がわからななかつたりして結局勉強があまり出来なかつた。
- ・寮という環境で、周りに流されてしまい勉強を思うように続けられなかつた。
- ・今年は例年に比べて頑張ることができた
- ・自主性、主体性に欠ける
- ・自分からテスト勉強や課題以外の学習に進んで取り組むことができなかった。  
しかし、点数としては全くでなかつたのを見ると深く掘るところを見直したほうがいいと思った。
- ・もうちょっと頑張る
- ・部活との両立が難しく、体調も崩しがちになってあまり勉強に専念でなかつた
- ・自主勉強をもっと積極的にやるべきでした。
- ・もっと計画的に行うべきだった。
- ・嫌な教科の勉強方を見つける
- ・墮落した生活を送っていた。
- ・復讐をもっとした方がよかつた
- ・課題が多く、勉強にあてる時間が足りない
- ・エアコンの温度が夏の場合は高すぎて冬は低すぎて勉強に集中できない。ワイファイがよわい。  
きょうしつに給湯器がほしい。
- ・週末勉強がおろそかになってしまうことがあつた。
- ・やや効率的ではない勉強があり、図書館に行くなどし改善が見られた。
- ・普段が学習の積み立てがなく、苦しいときがあつた。

## 2. ICT 環境について

本校のICT環境について満足していますか？

561 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

#### 上記質問への主な回答記述

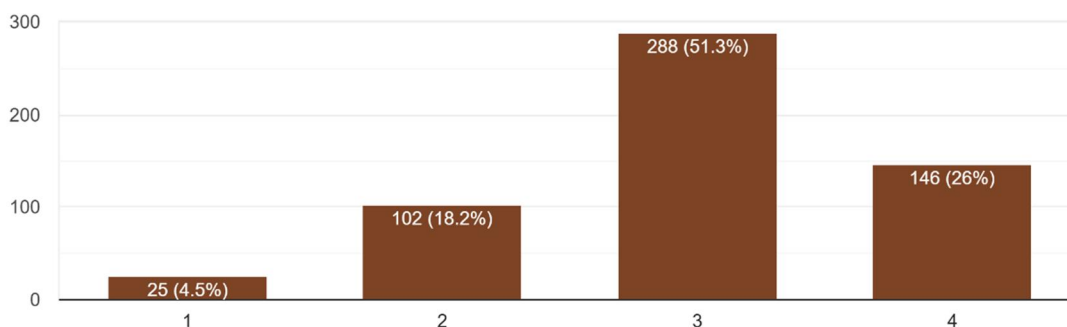
- ・研究室など、必要であるところで校内 LAN の接続が悪いため改善してほしい
- ・場所によって通信の違いが激しい。
- ・複数人で同時利用すると回線が重くなることもあるため、可能な範囲で構いませんので改選していただけるとありがたいです。
- ・校内で場所によっては、通信速度が悪いところがある。吹部の部室など
- ・プリンタの不足
- ・授業でスマホを使うことがありますが、ネット環境が悪く、繋がりにくいです
- ・wifi 環境が前期より弱くなってしまっている点
- ・ほとんど使われていない
- ・パソコンの新調
- ・電波が非常に入りにくい
- ・突然インターネットが切れる時がある
- ・インターネットが悪いことが多い
- ・アクセスできないページがあり、参考文献を探すことができない
- ・WiFi が切れやすい場所がある
- ・学校内の電波が悪い／学校 Wi-Fi が弱く感じることもある
- ・校内なんであんなに電波悪いんですか？
- ・授業などでスマートフォンを使用するときに回線が悪い
- ・Wi-fi がつながらないところがある
- ・楽天のネット環境が悪いです
- ・校内 LAN 許可端末を 2 つに増やしてほしい。
- ・プリンタを本科棟に設置してほしい
- ・スマホの Wi-Fi を使えるようにしてほしい
- ・ネットワークが遅い
- ・ノートパソコンなどで取ってもいいようにしてほしい
- ・電子黒板の不具合がたまにあって先生方が困っていました
- ・共用教室をもう少し長く開けてほしい。
- ・ICT であるかはわからないが、学生が自由に使用できるプリンターが、場所がすごく限られているのが少し不便。
- ・今すぐリベラルアーツ教育、分野横断型カリキュラム及び工学科の廃止、旧 5 学科の復活。これ以上地獄のカリキュラムの被害者を出すな
- ・とにかく wi-fi が弱い
- ・PC を複数台所持しているが接続可能台数が 1 台のみで不満
- ・若干無線 LAN が弱い時がある
- ・回線が悪い
- ・通信環境があまり、良くない
- ・ネットが繋がりにくい。特に休み時間。
- ・J 科棟の通信が遅い
- ・Wifi が繋がらない場所があることや、wifi 速度が遅い場合があること
- ・ネットワーク環境を改善してほしい。特に図書館二階など
- ・通信が悪い
- ・勝手に切れたり電波が極端に悪い場所があったり繋がらない時さえあった
- ・人数が多くなると回線が混みほとんど繋がらない
- ・特にない
- ・校内で Teams の会議に参加していると、通信状態が不安定なために会議から追い出されることがある。
- ・Excel で重回帰分析を出来るようにしてほしい
- ・何かわからない
- ・カラープリンタが近くになくて困った
- ・場所によって構内 WiFi の接続が悪いところがきになりました。
- ・個人の機械的問題かもしれないがまれに、word が保存お on でも保存されてない時がある。」
- ・学校ネットが遅いと感じます
- ・図書館の WiFi をフリーにほしい
- ・特にありません。

- ・回線が悪い(ソフトバンク)
- ・クラス全体でサイトにアクセスする場合に読み込みが遅くなることがある
- ・3MR2の教室内の回線が弱い
- ・図書館や部室でネットに繋がりにくい。
- ・校内の電波が悪すぎる
- ・研究室のネットが繋がらないことが多くある。
- ・Auが弱いらしいです。
- ・クラス全員が使うと凄く接続が悪くなる
- ・授業でパソコンを使うのに、Wi-Fiが全然繋がらなかったり操作が重すぎたりしてストレスがたまる
- ・突然切れたり、そもそも繋がらなかったり、場所によっては電波がとても悪くなる場所があったりと不便だった
- ・回線が弱い
- ・先ほどの内容です
- ・スマホも使えるようにしてほしい
- ・場所によって校内Wifiの通信速度にムラが大きいことが気になります。(図書館の上など)
- ・一斉に使うと重くて動かなくなることがあって困る
- ・校内LAN遅スギ!
- ・通信の制限を行わないでほしい 会議ができない ネットワークストレージに接続できない 接続できる端末を申請すれば増やせるようにしてほしい
- ・コピーが無料でとれるようにしてほしい
- ・ネット速度が遅いことが多々あった。
- ・構内でWiFiの強度に差があること
- ・いくら大勢での使用であったとしても、高専内のインターネット通信速度をもう少し強化してほしい。

### 3. 自主的学習の支援について

自主的学習を支援する体制について満足していますか？

561件の回答



※左から「不満足～満足」の度数1～4

上記質問への主な回答記述

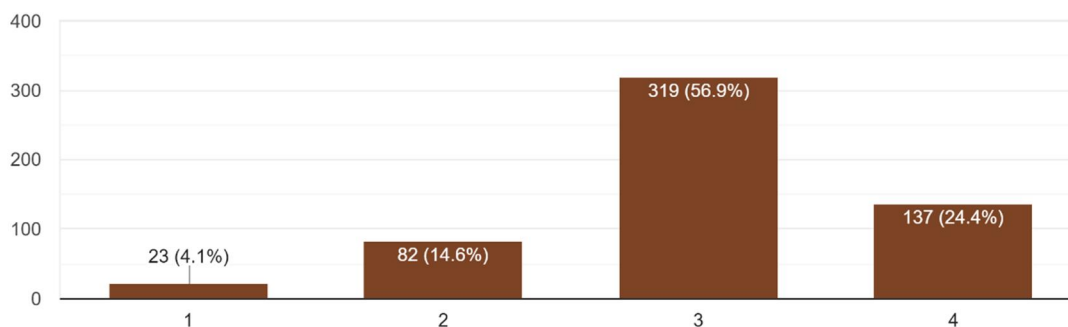
- ・図書館を普通の日でも9時までやって欲しい
- ・寮で回ってくるコアタイム巡視で勉強が一時的に止められて迷惑。世間話をしてくる人もいて本当にやめて欲しい。集中がされる
- ・図書館の利用時間を9時までにして欲しい
- ・学習塾のせいで教室で自習ができません。とても邪魔です。
- ・教室で校内学習塾をやられると迷惑
- ・テスト前に図書館等が混み合い、勉強できる場所が限られるためエアコンを17時過ぎにも稼働するなどして各教室でも勉強できるようにしてほしい。
- ・寮を日中も開放してほしい

- ・ 日曜日の図書館会館
- ・ 図書館を日曜日でも開けてほしい 開館時間を延ばしてほしい
- ・ 自主学習する上での設備が整っている
- ・ もっと自習室を増やして欲しい
- ・ どんなものですか？
- ・ 校内学習塾は TA 側にとってもよい取り組みだと思う。
- ・ 図書館の土日の 9 時までの解放
- ・ 自主的学習を支援するならば、校内学習塾やその他科目ごとの救済措置は必要ないと思います。再テスト学年末の再試験をするという制度がある以上、学生はある程度救済措置があるから自主学習しない人が多いです。
- ・ 先生に質問しやすい環境が欲しい。
- ・ 今すぐリベラルアーツ教育、広く浅くの分野横断型カリキュラム及び工学科の廃止、旧 5 学科の復活。これ以上地獄のカリキュラムの被害者を出すな カリキュラムの選択権がない 1,2 年生時は簡単なカリキュラムを組まれ本来勉強しなければならない内容をすっ飛ばし、3 年になりロボット工作実習や制御実習などとほざいた先行教科なしのぶっつけ本番実習。MR 系の教員からはこの範囲の勉強してないのなど責任のない私たち学生が叱られるのは意味が分からない。4 年に上がるタイミングで突然教員から履修登録をしろなどと言われ、突然のフルコマ、21 教科を自分たちで選択する。暇だった 1 年や 2 年で勉強させてもらえれば 4 年時 5 年時地獄を見ることはなかった。今すぐこの教育システムの改善をしてほしい。
- ・ すべて質問を受け付けてくれるかどうか、先生次第。自分は先生に恵まれた。
- ・ 利用していないと思う
- ・ 三週間前から九時までと土日でも図書館開いてほしい
- ・ エアコンが 5 時以降も使えたら嬉しい
- ・ 特に何をしているのかわからない
- ・ 特にない
- ・ 先生のいない時間を、生徒が把握できるようになると便利だと思う
- ・ 全授業で毎回課題があれば自習をする習慣が生まれると思う。
- ・ 部活動等に関係ない、個人的に参加した学校外でのコンテスト等へ出た学生への支援や、成果を得た場合の学校への報告の有無やフローなどが不明。
- ・ 特にありません。
- ・ 学年企画入らないと思います。
- ・ テスト対策に関する連絡をくださるが、連絡する時期がテスト二日前とかで焦ってしまう。
- ・ エアコン
- ・ テスト前の復習プリントなどがあると嬉しい
- ・ 勉強しない人に対して優しすぎる。勉強する意味がないような制度を整えているから自主性が失われているように感じるので、普通に点数が足りなかったら留年にしてください。
- ・ 観葉植物が欲しい
- ・ 自主学習する環境があまりない。図書館やフリースペース等はあるが、教室が使えるありがたい。校内学習塾などに自主学習の場所が取られてしまうのは悲しい。

#### 4. 生活や経済面に係わる指導について

生活や経済面に係わる指導に満足していますか？

561 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

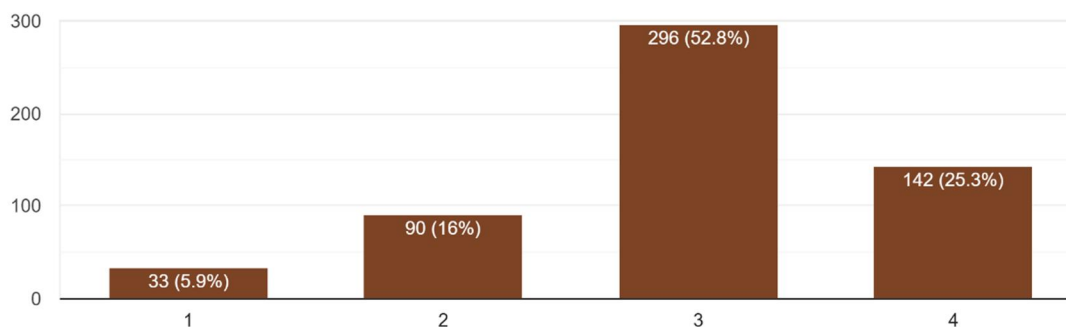
上記質問への主な回答記述

- ・寮のご飯が美味しくない。精神的にストレス。出てくるのが遅い。
- ・物価が変動するなら本校の学費補助の要件も変動すべき
- ・生理痛を公欠として認めて欲しい
- ・プライベートには踏み込まないでほしい
- ・支援金の連絡を細かくほしい。経済面の指導はあまり受けた覚えがない。
- ・購買の値上げを緩和して欲しい
- ・寮生の指導をルール変更ではなくルールを守らせるという面でもう少ししっかりしてほしい
- ・そんなの習わない。
- ・海外実習に行けば単位が取れるとかいうシステム。聞くとところによると海外実習中に風俗店に訪れるなど学校指導の実習とは到底思えない。しかも参加も最初は英語資格が必要です、英検 2 級 TOEIC の点を取りましようとか言ってた割には、普段何も勉強していないやつが海外研修に行つて、単位取ってくるのは意味が分からない。参加費用も安いわけではないため、お金を積めば単位が取れる安っぽい学校だなと感心した。
- ・利用していないと思う
- ・特にない
- ・なくていい
- ・空気清浄機を教室に置いて欲しい
- ・何かしらの役割をいくつか持った状態で出されるレポートの噛み合いが悪いと睡眠時間が確保できず、学校生活に支障が出た
- ・もう少し、頻繁にアナウンスしたほうが分かりやすいと思われる。
- ・特にありません。
- ・学食や購買が高い
- ・飲酒とかタバコとかちゃんと取り締まれているのか疑問
- ・そのような指導を受けたことがないので、そのような指導をするようにしてください。
- ・特になし
- ・常識を持った生活ができていない人が多く伺える。(風呂に入らない等)

## 5. キャリア教育の体制について

キャリア教育の体制について満足していますか？

561 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

上記質問への主な回答記述

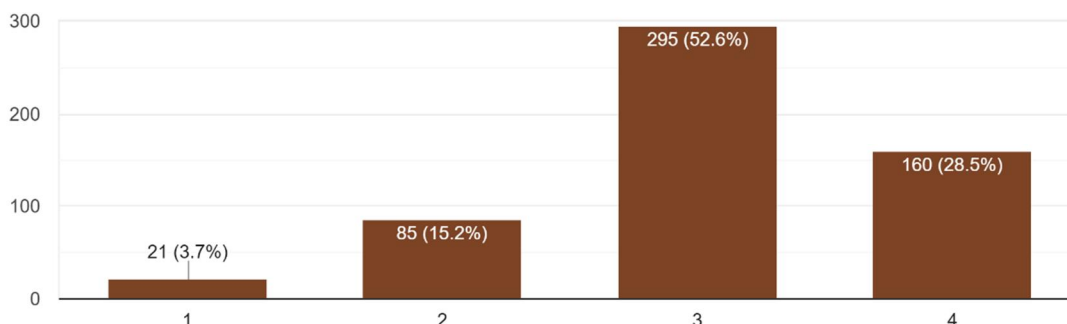
- ・国立大学行けるとか言って、実際行けるのは国立大学の工学部のみ。そして他の学部に入りたかったら受験しないといけないが、そもそも教科が少ないため、試験において不利。もうちょっと普通の科目を勉強したかった
- ・講演会などがとてもありがたいです
- ・もうちょっと先生と話す時間がほしい
- ・いろいろな人が話に来てくれていいと思う。
- ・もっと早いうちに(1年のうちに)進路についての具体的な情報が欲しかったし、集めればよかったと思っている 大学のオープンキャンパスがテスト期間に被っているので余裕がある時に行けばよかった
- ・自主性がありいいのだがあまりわかっていないのが現状
- ・進路相談室の先生を増やして欲しい
- ・キャリアも何も、本来編入試験が実施される5年の時期に19教科とかいうカリキュラムのおかげで編入試験が絶望。なんのために教育を受けているのか全く分からない。
- ・進路の決定に関して、実際に進学した先輩の話も聞きたかった。
- ・これこそ先生次第。特定の先生に負担がのしかかっていると感じるので、負担をちゃんと明文化してほしい。
- ・なりたい像が思い浮かばない
- ・就職についての説明会とか企業の方が来てくれたりとかは頻繁にあります。大学の紹介等はあまりなくて情報収集がしづらいなと思ってます。大学説明の場は作りづらいかと思いますがあったらと思います。
- ・特に何もない
- ・特にない
- ・ほぼない感じがした。
- ・もっと企業や世界、社会のことを教えて欲しい。
- ・企業の方が来てくださりお話を聞く機会がありますが、自分がまだ習っていない高度な話ばかりされると、そこがどういいのかが不明確のまま終わってしまう。そのためあまり将来のことについて深く考えられない
- ・就職の話が少ないように感じました。
- ・進路を考える際に、どの先生も親身になって相談に乗ってくださった。非常にありがたかった。
- ・どこの研究室がどういう研究をしているか、就活で有利になるためには学校生活何をしていけばいいか、編入ではどんな分野が出てどうやって勉強するかなど、低学年のうちからコンスタントに卒業後の進路を進むために必要なこと、役立つことを教えてほしい
- ・助かってます
- ・講演会を開くだけでキャリア教育をしているという認識は改めたほうがいいと思います。そもそも、勉強で忙殺されている生徒にキャリアも考えろというのは酷なものではないかと思います。もう少しキャリア教育について指導する側の人間がキャリア教育の必要性について、自分たちで

自主的に考えたほうがいいと思います。

## 6. 不安に対する相談や助言などを行う体制について

さまざまな不安に対する相談や助言などを行う体制について満足していますか？

561 件の回答



※左から「不満～満足」の度数 1～4

上記質問への主な回答記述

- ・学習塾の教室利用を避けて別のところを使ってほしいという件について返答がないのは不満ではない。
- ・学生相談室の予約カレンダーの作成を承認するべきだと思う 電話でしか予約できないの心理的ハードルが高すぎると思う 相談したいほど追い詰められている人間に、直接向かうか電話での予約をするかの高いハードルを乗り越えさせるのは非常に酷だと思う
- ・助かった
- ・あまり使ったことがないが、充実していると思う。
- ・進路相談室で先生を増やし、沢山相談をできるようにして欲しいと思いました。
- ・学生相談室の予約の手段が電話のみであることは改善すべき 学生相談室を利用したい状況に置かれている学生にとってはハードルが非常に高いと考えられる 進路相談室と同様にカレンダーへの入力で予約を可能にすべきだと思う
- ・学生相談室があるのでとてもありがたいです。
- ・身近な先生には相談しやすいが、相談室は誰がいるかもよくわかってない。
- ・教員にこの話をすれば、「海外実習だってレポートを出さなければいけないんだよ」などといい、普通に考えてみれば通年で 2 単位しか取れないのに海外実習に行けば最低でも 1 単位とれる。いった方のお話を聞けば「報告書みたいなの書いたけど普段 2 週に一度のレポートより簡単だったよ」と言われ単位の価値がわからない。1 単位の価値の格差が大きくお金を積めばマックス 8 単位取れる学校
- ・自分は先生に恵まれたが、特定の先生に負担がかかっているのを、せめて適正に評価してほしい
- ・利用の仕方がわからない。担任にですら相談する雰囲気はない。
- ・特にない
- ・特にありません。
- ・先生との距離感が難しく、相談がしづらい
- ・まず最初に、そこまで相談や助言を学校側が行っていないのもう少し体制を強化したほうがいいと思います。

## 7. その他（自由記述）

- ・寮内で盗みを働く人がいる。名前を書いても盗まれた。どうにかして欲しい。
- ・食堂の値上がりが激しいので毎日食べてると気にしてしまいます。1 ヶ月分をまとめて買うなどして 1 食分を安くすることは可能なのでしょうか？可能でしたらやっていただきたいです。よろしくお願いします。
- ・寮の飯が美味しくないらしい



- ・規則のグレーゾーンが多いのもっとはっきりさせてください。
- ・寮の運営をもっとオープンにすべき
- ・男女共同参画はあまり推進しない方がいいと思います 適材適所と完全に真逆の動きだと感じます SDGs も然りで、言葉や需要に対して行動が矛盾する大抵の場合では物事が良くなることはないと思います
- ・恋愛がありません
- ・図書館の延長コードの配置をもう少し通路中央にして欲しい。どこかの席に寄っていて、人が座っていると使いづらい
- ・高専のレベルが下がりすぎではないか？想像していたものとは全く違った。1,2年が緩すぎる。専門的な内容が少なく、結局自分で先取りして勉強することになっている。高専に入った意味が見えなくなるほどだ。
- ・5年間お世話になりました
- ・学食の発券機の支払い方法や、発券機自体を増やしてほしい。もしくは、paypay や visa などの api を使用したオンライン決済システムを導入（開発したかった、学生に作らせたらい）するかしてほしい。
- ・時間割が詰め詰めすぎて勉強面でも体力面でもとてもきつい
- ・冬にエアコンをつけると教室が乾燥していて、風邪も流行りやすいと感じるので加湿器を入れてほしいです
- ・今更だが、トイレの便座を拭く消毒を設置してもらえたのはよかった。比較的安心してトイレを使うことができています。
- ・最寄り駅から二駅隣の場所で殺傷事件が発生し、犯人が逃亡中でも休校にしないことに不安を感じた。
- ・系選択に変わった1期生としてカリキュラムがキツすぎるのでなにか救済が欲しい
- ・リベラルアーツ教育、工学科及び（広く浅く）分野横断型カリキュラムの廃止。海外実習の単位数および内容の改善。旧5学科の復活
- ・たのしい五年間でした。お世話になりました。ありがとうございました。
- ・特にない
- ・暖房の設定温度を高くしてほしい。寒すぎます。
- ・特にありません。
- ・お疲れ様です
- ・赤点が60点なのが本当に意味がわからない。変えて欲しい
- ・問題に対する軽率な行動や対応が気になる
- ・本校のアンケートは杜撰でいい加減なものが多い。このアンケートも他ではない。

以上



## 専攻科アンケート

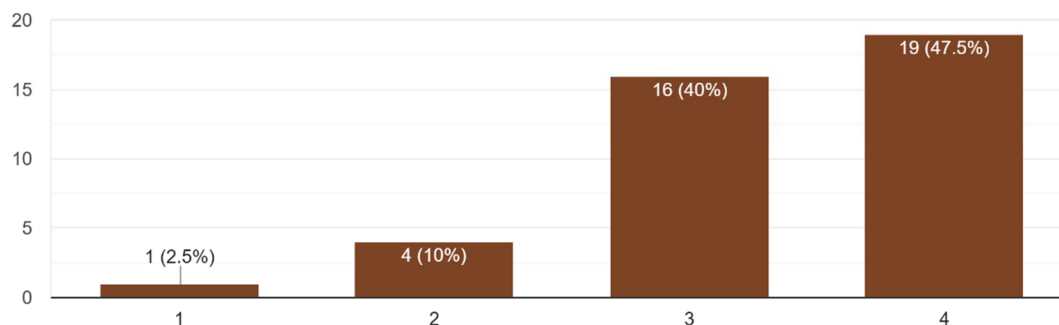
## 長野高専の満足度調査(2024 年度)のまとめ

\* 全学生（専攻科計 49 名）に対する回答数 40 件（R7.1.20（月）～2.10（月）実施）

### 1. 学習について

本年度、学習を十分に行えましたか？

40 件の回答



※左から「行えなかった～行えた」の度数 1～4

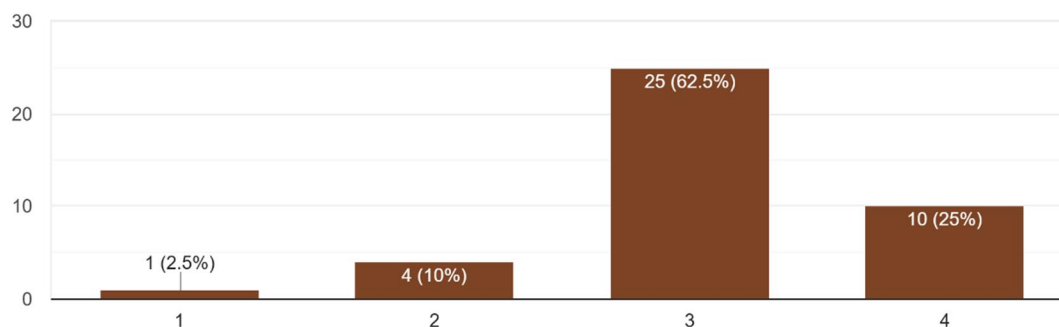
上記質問への主な回答記述

- ・あまり意図がつかみづらい課題が多かった
- ・特になし
- ・前期の試験前では、学習を自主的に行うことができたが、その他の機関では学習を行うことがあまりできなかった。
- ・自習する時間が足りなかった。自己管理能力が甘かった

### 2. ICT 環境について

本校のICT環境について満足していますか？

40 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

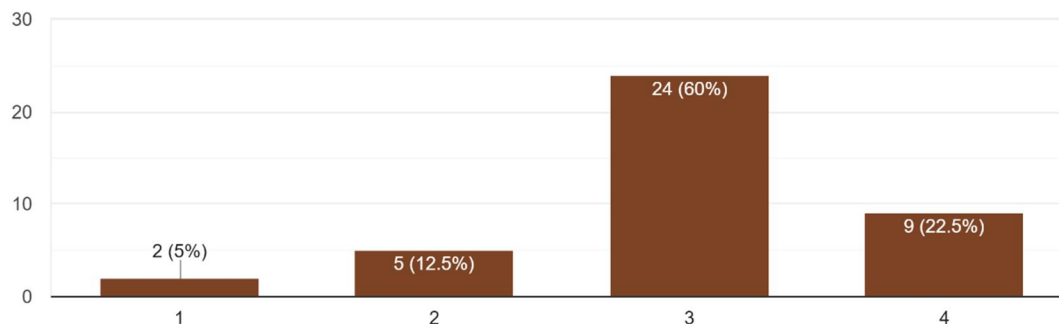
上記質問への主な回答記述

- ・S 科棟の構内 LAN の接続が悪い
- ・特になし
- ・特に問題なし

### 3. 自主的学習の支援について

自主的学習を支援する体制について満足していますか？

40 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

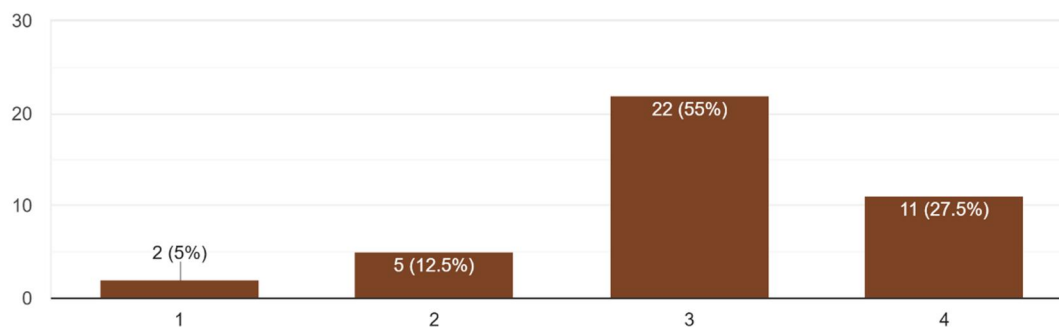
上記質問への主な回答記述

- ・研究や学会の準備を 7 時以降まで研究室の先生と行っていたが、警備員に追い出され継続出来なかった。研究室の先生に許可を貰って行っていたのにである。もう少し、学生とはいえ 20 を超えているため、学会などの時は譲歩して欲しいと感じた。
- ・テスト期間だけでも完全下校時刻を 20:00 にしていただけると、勉強が捗る気がする
- ・課題をもう少し出していいと思った

### 4. 生活や経済面に係わる指導について

生活や経済面に係わる指導に満足していますか？

40 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

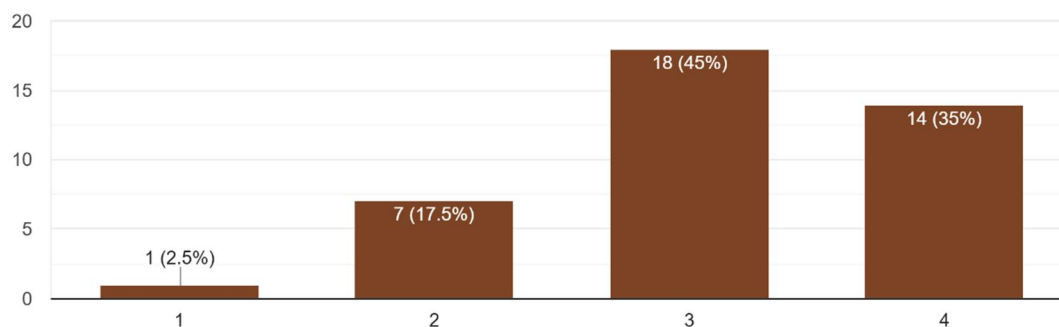
上記質問への主な回答記述

- ・特になし
- ・指導を受けた記憶がない

## 5. キャリア教育の体制について

キャリア教育の体制について満足していますか？

40 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

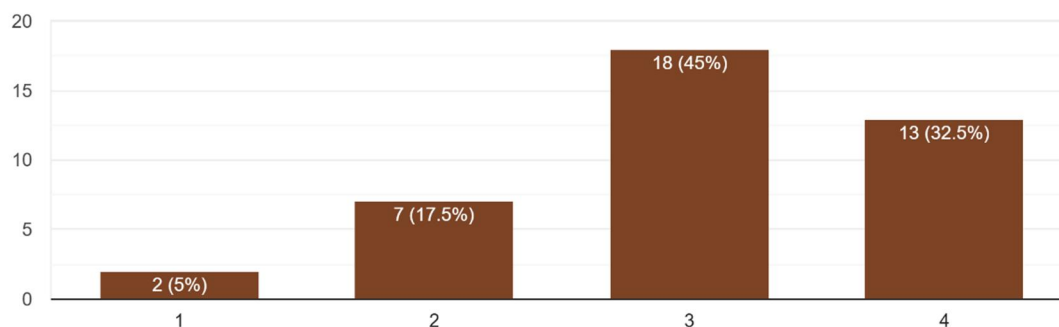
上記質問への主な回答記述

- ・進路状況(どこの選考がどれ程進んでいる・どこの企業を受けるなど)を担当にするのがとても嫌でストレスだった。ほとんど話したことのない信頼できない担任にナイーブな話ができないし、本音を話せないで、せめて 5 年間お世話になった学科の先生か指導教員に対応していただきたかった。
- ・就活で、自分は 6 社程度受けたいと考えていたが、交通費も大変になるだろうし、それだと多い、もっと会社を絞れと注意された。全て自由応募だし、スケジュール感的には大丈夫だと思うが、何が問題だったのだろうか。こちらも適当に企業を選んでいるわけではなく、理由がきちんとあるので就活ぐらい自由にさせてほしい。
- ・特になし
- ・キャリアコーディネーターの予約枠を多くしてほしい（人数を増やすなど）
- ・企業の方の話をうかがえるのは良かった
- ・専攻科の先生にキャリアをみてもらった記憶がない

## 6. 不安に対する相談や助言などを行う体制について

さまざまな不安に対する相談や助言などを行う体制について満足していますか？

40 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

上記質問への主な回答記述

- ・特になし
- ・不安をキャッチアップする体制に関しては不十分のように感じる。プライバシーの問題もあり、どこまで干渉するかは難しい点だが、自分から不安を相談する事が簡単でないと感じている学生もいると思う。

- ・担当教授とのトラブルがあった場合、支援する仕組みがない。あと、そのような体制ができている記憶がない

## 7. その他（自由記述）

- ・教室に電源の数が少なすぎる。教室に二箇所しかない。タブレットなどでノートを取る人が増えているのに、充電ができない。各テーブルに電源タップを設けるなど、早急に改善してほしい。
- ・学外実習の状況が、先生方や学生課と情報の共有が全くされていなかった。
- ・専攻科長からメールが帰ってこない。
- ・学位申請の計画書の締め切りが予定表には20日と書かれているのに、teamsの締め切りがなぜか19日だった。締め切りを守らせるつもりがないように感じた。
- ・後期コンタクトタイムの提出フォームを準備していないことを生徒に指摘されてから、サイレントでアップロードするのはいかななものかと思います。
- ・専攻科1年生・5年生の交流会で、名前に専攻科が入っているのに専攻科には何も連絡がなかった。
- ・研究発表の英語の要項のフォーマットが配布されてかなりたったときに突然変更になった。そのときには完成していたので、新たに作り直すことになった。指導教員にも迷惑をかけてしまった。
- ・英語の授業で研究発表の英語 ver を取り扱ったが、秘密保持の署名がなかったのは問題だと思う。また、授業で取り扱うだけなのに、あたかも研究発表会で使う資料かのような内容でメールがきたため、授業を受けていないのに資料を10月中に作ることになった。そのせいで研究の予定が大幅に狂ってしまった。
- ・専攻科1年の長期インターンシップを行ってみて、受け入れ540時間がかなり長く感じた

以上

## 付録5 令和6年度教育改善委員会議事概要

### 第21回長野工業高等専門学校参与会 議事概要

日時 令和7年1月29日(水) 10:00～12:00

場所 長野工業高等専門学校 第一会議室

出席者 (敬称略)

参与：香山瑞恵(会長)、小河原敏男(副会長)、丸山陽一、倉島浩、池田明、渡辺雅義、平林靖久、荳津理佳、金澤彰

本校：江崎尚和(校長)、濱口直樹(副校長(教務主事))、渡辺誠一(副校長(学生主事))、酒井美月(副校長(寮務主事))、藤澤義範(副校長(専攻科長))、楡井雅巳(副校長(総務主事))/第三者評価対応委員会委員長/広報企画室長)、田中秀登(副校長(研究主事)/地域共同テクノセンター長)、鹿又仁郎(副校長(事務部長))、春日貴志(工学科情報エレクトロニクス系長)、堀口勝三(工学科機械ロボティクス系長)、小池博明(工学科リベラルアーツ教員院長)、板屋智之(学生相談室長)、松下英次(教育改善委員会委員長)、中山英俊(入試広報室長)、相馬顕子(男女共同参画室長)、小宮山真美子(国際交流センター長)、百瀬成空(情報エレクトロニクス系准教授)、福井郁夫(総務課長)、中嶋広隆(学生課長)、金井隆英(総務課課長補佐(総務担当))、白木順子(総務課課長補佐(財務担当))、長井俊之(学生課課長補佐)、伊藤奈津奈(総務課総務企画係長)、所優樹(総務課総務企画係員)

1. 開会 総務課長
2. 会長・副会長紹介 総務課長
3. 自己紹介(各参与・長野高専出席者)
4. 校長あいさつ

江崎校長から、本会は、本校の教育研究や学校運営に関する意見を外部有識者から伺い、学校の改革や改善に反映させることを目的としている旨の説明があった。また、本校で現在抱えている課題や早急に対応が必要な問題、高専機構本部からの指示事項について議論し、限られた時間の中で忌憚のない意見を伺いたい旨の挨拶があった。

5. 配付資料確認
6. 議事

香山会長から、この参与会は長野高専の教育研究について検証し、支援や提言を行う重要な会であると考えているため、忌憚ないご意見等を伺いたいとの挨拶があった。

以下、参与会設置要項第7条第1項の規定により香山会長が議長となり、次第に沿って議事が進行された。

#### (1) 議題1「新系設置構想」

楡井副校長：それでは、新系の設置構想について説明いたします。皆様、お手元の資料1をご覧ください。また、ディスプレイやスクリーンも併せてご確認ください。

本校は3年前に改組され、工学科となりました。最初のグラフが示すように、改組前は受験倍率が徐々に低下していましたが、改組後もその傾向は続き、昨年度は1.2倍、今年度は1.1倍とさらに下がっています。この状況を受け、早急な対応が必要と判断し、新しい系の設置を視野に入れ、近隣や全国の高専を訪問し情報を収集してきました。

現在、日本全国で中学生の人口が減少しており、それに伴い入試倍率も低下しています。本校においても定員割れのリスクが高まっているため、近隣の高専を調査し、倍率低下の要因を分析しました。

その一環として、ワーキンググループを組織し、近隣の高専における倍率の変動要因を詳しく調査しています。例えば、長野県全体の人口動向と長野高専の状況を確認したところ、昨年度の志願者倍率は1.2を少し下回る水準でした。現時点では、倍率の低下と特定の要因との間に強い相関は確認されていませんが、わずかな関連性がある可能性が示唆されています。

あと、各県の産業と倍率に何か関係があるのかについても調査しました。その結果、倍率が高い地域はいくつか存在するものの、産業との強い相関は見られませんでした。ただし、多少の関連性がうかがえる部分もあると考えられます。

次に、女子比率との関連を調べました。本校の女子比率は比較的低いものの、同程度の倍率の学校でも女子比率が高い学校があります。こうしたデータを踏まえ、女子比率の向上が本校

の課題であると考えています。

特に、女子比率の高い高専を調査したところ、化学・バイオ系の学科を持つ学校が多いことが分かりました。また、建築系やビジネス系も一定の割合を占めていますが、特に材料・バイオ系が女子比率向上に寄与している可能性が高いと考えています。

本校の学生や調査先の意見を集めたところ、女子学生の中には化学系に対する憧れを持つ人が多いことが分かりました。さらに、長野高専技術振興会の会員企業にアンケートを実施し、材料・バイオ系の学生に対する求人ニーズを調査しました。その結果、約7割の企業がこの分野の人材を求めており、採用枠も2割程度確保されていることが確認できました。

コンサルティング会社の意見としては、材料・バイオ系の専門性を考えると、大学院レベルの知識が求められる可能性があるとの指摘がありました。また、県内企業のみでは求人の幅が狭くなるため、県外企業も視野に入れる必要があるという提言を受けました。

新系の設置には化学系の実験室が必要となり、2～3室の設置が求められます。現在、本校には低学年向けの化学実験室がありますが、他の実験室と共有する形で運用が必要と考えています。また、化学系の分析機器やガス配管・水道などの整備も重要な課題として挙げられています。

学生の生活空間と実験室の共用は課題となりますが、他校の事例を参考にしながら整備を進める方針です。しかし、インフラの制約があるため、すぐに十分な環境を整えるのは難しく、工夫しながら進めていく必要があります。

また、高専のモデルコアカリキュラムを踏まえ、化学・生物・バイオ系のカリキュラム整備が求められます。現在、本校では機械系を中心に材料分野をカバーしていますが、バイオ系の教員がいないため、人事計画を立てて新たに採用する必要があります。

調査した高専では、化学・生物系や材料系を純粹に扱う学科と、複合系の学科を設置しているケースがあります。本校としては、化学・材料分野に加え、バイオ分野も取り入れることが適していると考えられます。

新系の設置に向けては、設備面や教員の確保を計画的に進める必要があります。また、授業の形態も工夫し、合同クラスや多人数での授業を活用することが重要となります。直近では教員の確保が難しいため、信州大学にも協力を依頼し、当面の対応を進めていくことも考えられます。

現在、本校の無機材料や環境材料の教員がカバーできる分野を確認しつつ、将来的には有機化学系の教員を増やしていく方針です。

以上、駆け足での説明となりましたが、今後の受験倍率の向上や女子学生の増加を目指し、材料・バイオ系の新系設置を進めてまいります。ご意見をいただければ幸いです。

香山会長：資料の21ページにある「新素材・バイオ系」というのが、現在チャレンジしようとしている分野という理解でよろしいでしょうか。

楢井副校長：はい。

香山会長：新素材という場合、有機系を今後増やしていくということですが、無機材料の専門家の先生方がすでにいらっしゃって、その分野が厚い層になっているのでしょうか。それとも、バイオ系の方がすでに厚いのでしょうか。

楢井副校長：現状、バイオ系に対応できる教員がいないという状況です。工業材料系や環境系の教員はおりますが、環境系の中でバイオ系に関連する部分が少し含まれる程度で、十分な体制にはなっておりません。今後、人事計画の中で進めていかざるを得ないと考えております。

香山会長：バイオ系は、女子向けという今回の目的を考えると、特にターゲットになり得る分野かと思います。女子中学生へのアンケートについては、8ページに書かれているかと思いますが、至急アンケートを実施して方向性を固めたいということですね。地域ニーズの調査はこれから行われるという理解でよろしいでしょうか。

楢井副校長：はい。その通りです。中学生への調査はまだ実施できていませんので、今後、より幅広く情報を集めていく必要があると考えています。

香山会長：日本全国で工学系の人気が低下しており、私たちも危機感を持っています。特に若者の減少に伴い、高校レベルでも生徒の獲得競争が激しくなっており、より選ばれる学校になる必要があります。この点については、参与の皆様とも目的を共有しているかと思います。

倉島参与：バイオの話が出ましたが、私たちの地域では食品分野、特に発酵食品の産業が活発化しており、技術の伝承や人材不足が課題となっています。バイオという大きな枠組みの中で、発酵技術も含めて人材育成が進められると、産業界にとっても大変ありがたいです。その点について、プログラムにうまく組み込んでいただけると良いのではないかと思います。

小河原参与：女子生徒の増員が目的とのことですが、ここ10年ほどで女子学生の割合はどのよう

に変化しているのでしょうか。以前は2割から2割5分（25%）ほどだったと記憶しているのですが、現在は減少しているのでしょうか。また、新系設置構想について、大まかなスケジュールや具体的な計画があれば教えてください。

江崎校長：女子学生の割合は現在も20%前後で推移しています。年によって多少の増減はありますが、平均すると20%程度です。私は長野高専の前に鈴鹿高専や有明高専にいましたが、そこでは化学・バイオ系の学科がありました。例えば、鈴鹿高専の生物応用化学科では女子学生が70%～80%、材料工学科では50%ほどでした。

長野高専は設立当初、機械工学科2学科と電気工学科の3学科でスタートし、その後、土木工学科が追加されました。そのため、もともと女子学生が入りにくい学科構成になっています。化学系の学科があれば状況は変わっていたかもしれません。今後、女子学生の入学を増やしていかなければ、定員割れのリスクが高まると考えています。

また、長野高専は3年前に学科の改組を行いました。完成年度を迎えるまでは新たな学科変更が難しい状況です。あと2年で完成年度を迎えるため、その後に動き出すことができると考えています。

池田参与：中学生向けのアンケートや出口側（卒業生や企業向け）のアンケートについてですが、将来必要とされる技術を見据えた調査になっているのでしょうか。現在の延長線上での調査ではなく、10年後や20年後にどのような技術が必要とされるのか、長野県の産業界のニーズに合致した内容になっているか、少し疑問を感じています。その点については、どのようにお考えでしょうか。

楡井副校長：今年から調査を開始したところですので、ご指摘を踏まえて、今後1年ほどしっかり調査し、将来構想を立てていきたいと考えています。

萱津参与：現在、志願者の減少が課題となっています。どの大学も少子化の影響を受けていますが、高専の場合は特に、中学生の段階で進路を決める必要があるという難しさがあります。中学生が進路を決める際、幼さゆえに迷うのか、逆に成熟して早くから決めるのか、その判断は難しいところです。理系か文系を決めるだけでなく、高専に進むとなると工学系を選択することになります。しかし、多くの生徒はまだ明確に決められず、工学系を志望していても、まずは普通高校に進学してから考えたいと思う傾向があります。

私の大学は「グローバルマネジメント学部」のような幅広い分野を扱う学部があり、入学後も進路に迷う学生が多くいます。それを考えると、高専に入学する学生は、ある程度はつきりとした意思を持っていないと入学を決断できないのではないかと感じます。

女子学生を増やすために新しい分野を設置することは一定の効果があるかもしれません。しかし、中学生から見たときに、その学科で何を学ぶのかが明確でなければ、志願者は増えないのではないかと懸念しています。私自身が中学生だったとしたら、「高専」という大枠で捉え、新しい学科ができたからといってすぐに興味を持つとは限らないと感じます。

そのため、中学生へのアプローチが重要です。広報活動も大切ですし、現在の「入学時の入り口を一つにして、入学後に系統を分ける」という制度に関しても、理解を深める必要があると思います。昨年、こちらの場に参加した際、「希望する系に進めない可能性はほとんどない」と伺いましたが、そうした情報をもっと積極的に発信することで、中学生や保護者の不安を和らげ、志願者増加につなげることができるのではないかと感じました。

## （2）議題2「自己点検・評価項目」

楡井副校長：本校では自己点検の項目を定め、昨年度の指摘を踏まえ、四半期ごとに自己点検を実施する形で対応しております。

お手元の資料のうち、資料2、資料3、資料4が自己点検評価の資料になります。資料4は全体像を示したものです。本日はその中から「専攻科の教育活動及び研究活動」について、資料2と資料3を基にお話しし、その後、5年前に卒業した学生および受け入れ企業へのアンケート結果について、資料5で報告いたします。

まず、資料2をご覧ください。「専攻科課程の教育課程」に関する自己点検です。年度初めに点検項目を定め、四半期ごとに点検作業を進めております。昨年度の指摘を受け、点検項目自体の見直しも行いながら進めております。

- 点検項目28：カリキュラムが体系的に構成されているかの確認。専攻科は「電気情報」と「機械・制御・環境都市」の2つに分かれており、今年度、カリキュラムの体系を確認しました。
- 点検項目29：社会の変化に応じた科目の整備状況。適切な科目が配置され、シラバスに教授内容が明記されていることを確認しました。



- 点検項目 30：評価方法の周知状況。シラバスへの記載と、講義開始時の教員による説明を通じて、学生の理解を促進しています。
- 点検項目 31：シラバスの活用や研究指導が適切に行われているかを確認するため、全科目で授業評価アンケートを実施し、学生の意見を教員にフィードバックして改善を図っています。従来は一部の科目に限られていましたが、今年度から全科目に拡大しました。
- 点検項目 32：単位認定はシラバスで周知され、適切に実施されています。
- 点検項目 33：成績評価について、専攻科では前期に単位取得状況を確認し、後期に計画通り単位認定が進むかを確認しています。昨年度も適切に対応されており、今年度の成績評価や修了評価も今後実施予定です。
- 点検項目 34：修了認定の状況。単位認定の状況を確認しながら進めています。
- 点検項目 35：ディプロマ・ポリシーに基づく成果を確認するため、学習状況や単位取得を確認しながら進めています。さらに、今年度から卒業特別研究の発表会で英語プレゼンを一部導入し、先日実施しました。
- 点検項目 36：ディプロマ・ポリシーに沿った学習成果の評価として、学生の自己評価や修了生アンケートを実施しています。昨年度の結果では、達成度に応じた評価項目が設定され、学習成果が確認されています。
- 点検項目 38：進路状況の確認。希望する進路に進んでいるかを評価し、学位取得についても計画的に進めています。

次に、資料3「研究活動の状況」についてです。

- 点検項目 44：研究活動は計画に沿って進められており、外部資金の獲得も重視されています。科研費の採択は今年度14件、うち基盤Bが3件含まれています。これにより「頑張っている」と評価されており、共同研究なども計画の9割程度達成しています。今後も外部資金の確保に取り組んでいきます。オープンラボの活動については後ほど報告します。
- 点検項目 45：研究活動の一環として、地域向けに教員の研究内容を紹介するシーズ集を発行し、産業展などで広報しています。企業とのマッチングを進め、共同研究の促進を図っていますが、さらなる活性化が必要です。今後も広報を強化し、研究活動の発展を目指します。
- 点検項目 46：研究活動の状況は、研究主事を中心に研究推進委員会が確認し、提案やサポートを行っています。オープンラボもその取り組みの一環であり、後ほど報告予定です。

次に、資料5「卒業生・企業アンケートの結果」についてです。

本アンケートは5年に一度実施しており、本年度は卒業生250名（本科200名、専攻科50名）、就職・進学先の企業・大学255機関を対象に行いました。

- 回答率の課題:企業へのアンケート依頼方法に課題があり、伝達が十分でなかった点を反省。次回は企業の総務部等へ直接依頼する方針です。
- 学生の自己評価:語学力やコミュニケーション能力、プレゼン能力について「やや劣る」との評価が見られました。
- 企業・大学の評価:特に語学力（英語）の不足を指摘されました。前回（5年前）と同様の指摘があり、グローバル化教育の強化が求められています。
- 今後の取り組み:コミュニケーション能力の向上、数学的・物理的思考力の強化を専門教育の中で意識して取り組みます。

以上、自己点検及びアンケート結果の報告でした。よろしくお願いいたします。

香山会長：資料2の自己点検評価の専攻科課程についてですが、高い評価が多い中で、項目34と項目37がそれぞれ「3」と「2」という数値になっています。これらの算出根拠が分からないのですが、どのような理由でこの数値になったのか教えていただけますでしょうか。

楡井副校長：項目34については、修了認定の実施や基準の確認、点検状況が今後の議論の対象となっているためです。現在の状況としては、修了判定前の段階であり、単位取得状況の確認などが途中段階にあるため、評価項目の数値が低くなっています。

香山会長：項目37についても、3月に学位取得となるため、現時点では確定しておらず、年度末には「5」になる予定ということですね。

楡井副校長：はい。最終的には「5」にならなければなりません。

香山会長：資料5の卒業生へのアンケートについてですが、修了生の回収率が49人中8人、卒業生の回収率が200人中42人という結果に少し驚きました。これは既卒者に対して依頼したもので、当該年度の卒業時に行ったわけではないということですか。

楡井副校長：はい。これは令和2年、3年の卒業生を中心に、既に修了した方々をお願いしたものと

です。前回 5 年前のアンケートでも回答率は約 15% で、低いという指摘を受けていました。

何とか回収率を上げたいのですが、なかなか改善が難しい状況です。

香山会長：同窓会と連携しての実施ではなく、高専独自で実施されているのですね。

楡井副校長：はい。現在、同窓会から連絡先情報をいただき、回答が期待できそうな卒業生を選んで連絡を取るという方法で行っています。

平林参与：企業へのアンケートの回収がうまくいかなかった点についてですが、ぜひ企業の関係部署に直接送る形にしてください。現在、企業は人材を求めており、長野高専の卒業生を必要としている企業もあると思います。既に高専の卒業生が働いている企業なら、アンケートを無視することはないでしょう。ただし、卒業生を通じてアンケートを依頼すると、その人の負担になる可能性があり、企業側もあまり重視しないかもしれません。ですので、企業の窓口を通じてアンケートを実施していただきたいです。

もう一点、資料 3 についてですが、高専が諏訪工業メッセや佐久メッセなどのイベントでブースを設けているのは良い取り組みだと思います。一方で、経営者協会では定期的に役員会や常任監事会を開催していますので、その場で高専の取り組みをアピールするのも良いのではないのでしょうか。実際、信州大学はそのような場で積極的に発信しています。経営者の中には中学生の子どもを持つ方もいるため、高専への進学を考える機会にもなるかもしれません。ぜひ、アピールの場として活用してください。

楡井副校長：ぜひ、お願いしたいと思いますので、その際はどうぞよろしくお願いいたします。

### （3）議題 3 「本校での取り組み」

楡井副校長：それでは、先ほど少し触れましたが、最近の本校の取り組みについて、資料 6、資料 7、資料 8 に基づいてお話しします。よろしくお願いします。

まず、今年度から始まった「オープンラボ」についてです。オープンラボでは、地元企業からの課題やニーズをいただき、それを本校の研究者や教員とマッチングさせます。そして、学生も参加し、実践の場として教育に活用しています。具体的には、テクノセンターのコーディネーターが地元企業に訪問し、課題やニーズをヒアリングして、それを基に教員とのマッチングを行います。その後、共同研究に繋げていくという形です。

この活動は 2 年間で計画し、共同研究費として 700 万円を企業から提供していただいています。また、企業からは職員が派遣され、学生と共に研究に取り組んでいます。

この活動は、校長である江崎の前任高専での実績をもとに提案され、実現したもので、今後も企業や本校、地元金融機関と連携して進めていきます。

今年度は「オープンラボ」として、アピックヤマダさんと山洋電気さんの 2 件がスタートしました。アピックヤマダさんでは教員が 3 名、山洋電気さんでは教員が 2 名、学生も交えて活動を始めています。今後も活動を増やし、さらに充実させていきたいと考えています。

現在、専攻科棟の入り口には、オープンラボの銘板を掲示していますので、ぜひご覧ください。

これらの取り組みを通じて、外部資金の獲得にも繋げていきたいと思っています。

次に、資料 7 についてです。これは一昨年からスタートした「高速信号伝送評価センター」に関するもので、全国の高専の共同利用設備として本校に設置されています。この設備は高周波の測定などに応用されており、企業にも利用されています。実際に、非破壊評価や C T を使った評価、高速信号の電波暗室などの用途で利用されています。

今年度の上半期には、特に C T や高周波の VNA アナライザーが活発に使用されており、面白いところでは、サツマイモや生ハムの特性を評価するプロジェクトも進行中です。これらの活動もさらに充実させていきたいと考えています。

続いて、資料 8 です。こちらは一昨年度から始まった「ソーシャルイノベーション・サポートセンター」で、学生の起業家マインドを養成することを目的としています。学生がやりたいことをすぐに実現できる環境を提供し、自由に使えるスペースを整備しています。また、学生が参加するコンテストの支援も行っています。

専攻科棟 3 階には、リモート環境が整備されたメインスタジオや工房などのスペースがあり、学生は自由に利用できます。これまでは、3D プリンターを使って玉軸受けの試作を行うなど、さまざまな活動が進められています。

また、起業マインドの醸成やコンテスト支援などを通じて、学生にセミナーや学習の機会を提供しています。

簡単ではありますが、最近の本校の取り組みについてご紹介しました。よろしくお願いいたします。

香山会長：オープンラボの取り組みについてですが、素晴らしい活動ですね。まず、2社からの提案を受けて活動が開始されたと理解しました。この活動では、教員が2名以上関わり、学生も参加しているという構図が描かれています。そこで、関わる学生へのインセンティブについてお聞きしたいのですが、何か措置はありますか？単位に関わる活動とは思いますが、個人的な研究者の活動ではなく、企業と関わる共同研究に参加する学生へのエフォートに対する配慮について、どのようにお考えでしょうか？

田中副校長：学生にとっては、自分の将来を考える良い機会になります。自分の専門性を生かし、仕事としてどの分野を選ぶかを考えながら、自分の向き不向きも判断できるチャンスです。この取り組みが学生の将来にどうつながるかが重要だと思います。学生が自分の気持ちと重なる部分があれば、就職を考えても良いですし、逆に無理に関わりを持たせたくないのも、あくまで学生自身の意志を尊重します。オープンという形にこだわり、学生にとって社会を知る良い機会になると考えています。また、最前線でどのような困難があるかを学び、スキルを向上させるチャンスにもなると思います。

香山会長：貴重な機会を提供することができるのは素晴らしいですね。さて、共同研究は大学側にとってのメリットだけではなく、企業にもメリットがあると思います。そこで、率直にお聞きしたいのですが、関わった学生に対して、例えばRA経費や謝金、アルバイト代など、エフォートに対する報酬は提供されていないということですか？

田中副校長：はい、現時点ではそのような報酬はありません。

平林参与：少し全体的な話になりますが、実はいろいろな方法があります。例えば、今話に出たような共同の形で進める方法もありますし、信州大学では長野県経営者協会と連携し、約20年にわたり、県内の経営者が講座を持つ仕組みを続けています。年間8名から10名ほどの講師が単位制で講義を行い、聴講生の制度もあります。講義の内容は、社長に限らず、技術系や管理系のトップが担当し、事前にテーマを決めて進めます。学生は受講後、最終的にレポートで学びを確認する形になっています。この制度は毎年継続されており、必要であればこうしたやり方も参考にできるでしょう。

また、私が以前在籍していた会社では、15～16年以上前に人事部長として、高校生向けの技術系プログラムを実施していました。理系の高校生が企業を訪れ、技術者との交流の場を持ちたい、会社見学をしたいと希望するケースがありました。技術関係の内容は機密事項も多いですが、可能な範囲でオープンにし、受け入れを行っていました。現在の企業の受け入れ方針は不明ですが、高校側から申し入れがあれば、受け入れる可能性は十分あると思います。実際に、長野高校や松本深志高校などの進学校から要請があり、理系の1・2年生が企業訪問を行ったこともあります。もし必要であれば、積極的に申し入れをしていただければと思います。

また、先ほどの話にも関連しますが、中学生の段階で工学系の進路を決めるのは難しい問題です。ご存じのとおり、長野県内の工業高校の中には危機的な状況にある学校もあります。例えば、かつて名門と言われた岡谷工業や松本工業高校も含め、独立した工業高校が減少し、総合高校へと統合される流れが進んでいます。

こうした状況を踏まえると、専門性を前面に出しすぎず、より幅広い層の生徒を受け入れながら、徐々に専門性を深めていくような仕組みが重要ではないでしょうか。東京大学の「進路選択」のように、入学後に専門を決めるスタイルには一定の魅力があります。高校でもこの考え方を取り入れ、工学系に関心がある生徒をまず広く受け入れ、その中で専門性を深めていく形が望ましいと思います。工学科が設置されたこと自体は素晴らしいですが、さらに対象を広げてもよいのではないのでしょうか。

さらに、長野県の今後の発展を考えると、工業系と農学系を組み合わせた分野が重要になってくると思います。先ほど県庁の方からも発酵に関する話がありましたが、農学と化学、バイオ技術を融合させるような学びは、今後10年、20年、あるいは30年先の日本にとっても重要になります。特に、安全保障の観点からも「食」の分野は大きな課題であり、農学と工学を組み合わせた技術は今後ますます必要になってくるでしょう。高専においても、こうした分野を取り入れることが重要ではないかと思っています。

このように対象を広げていくことで、女性の進学者も増える可能性があります。現状、男女比を見ても女性の方が多いわけですから、いかに女性を工学系に引きつけるかが、学校の存続にも関わってくるのではないのでしょうか。ぜひ、より幅広い視点で検討していただければと思います。

楡井副校長：ぜひ参考にして、今後の取り組みに活かしていきたいと思います。

#### （４）議題４「いじめ対策について」

渡辺副校長：本校が取り組んでいるいじめ防止対策についてお話しします。どの高専でもいじめ対策に取り組んでいますが、外部の方から見た際に本校の取り組みがどう評価されるのか、ご意見をいただきたくて資料を作成しましたので、どうぞご確認ください。

現在、いじめ防止対策には「いじめ防止対策推進法」があり、この法律に基づき、本校では「長野工業高等専門学校いじめ防止等基本計画」を策定しています。この計画は、本校のホームページにも掲載しており、広く周知されています。

基本計画は主に8つの項目で構成されており、今回はその中から「いじめの未然防止」「いじめの早期発見」「いじめに対する対応」についてお話しさせていただきます。

まず、防止策についてですが、いじめ防止等基本計画にPDCAサイクルを組み込み、学校内に「いじめ対策委員会」を設けています。この委員会では、対策の計画を立て、実行に移すための具体的な策を講じています。例えば、アンケート調査などを実施して早期発見に努めています。もし何か問題が発覚した場合は、迅速に対応します。

個別の事案に対しては、2ヶ月に1度開催される「いじめ対策委員会」で情報共有を行い、その後、対応策を確認し実行しています。重大な事案が発生した場合は、国立高等専門学校機構本部にも報告し、アドバイスをもらいながら対応します。

また、計画の進捗については定期的に評価・検証を行い、次の対策に活かしています。本校は工業系の学校であり、いじめに関する情報が教職員に届きにくい場合があるため、定期的に研修を行い、担当者のスキルアップを図っています。

次に、いじめ防止プログラムについて簡単に説明します。本校では、5月と11月を「いじめ防止月間」として、特にいじめ防止に取り組んでいます。この期間中には、教職員や学生がいじめについて考えるための活動を行っています。

5月には、SNSを使ったトラブルが多いため、1・2年生に対してSNSのトラブルの問題を取り上げ、それがいじめにどうつながるかを考えさせます。上級生については、6月に「いじめ防止に関するワークショップ」を開催し、自分の意見をしっかりと書き表す活動を行いました。

また、保護者向けにはいじめ防止に関するパンフレットを配布し、理解を深めてもらうようにしています。早期発見を目指して、年4回のアンケート調査を実施しており、6月、8月、12月、2月に実施されています。

後期のいじめ防止月間には、研修会を行うなどして、教職員にもいじめ防止の重要性を再確認してもらいます。また、行事のタイミングで講話を実施し、学生と直接触れ合う機会も設けています。

10月には文化祭があり、保護者と面談を行う際に資料を配布し、相談窓口の案内もしています。

未然防止の取り組みとして、課外活動や学生同士の交流の場を設けていますが、最近では積極的に参加しない学生も増えており、すべての学生に行き渡っているかどうかが課題となっています。また、寮生が370人ほど在籍しているため、親元を離れて暮らす学生たちのいじめの存在には、なかなか気づきにくい部分もあります。

そのため、学生自らがいじめ問題を真剣に考える機会を増やす必要がありますが、現在のところ、用意されたプログラムに参加する形にとどまっている状況です。

早期発見と対処のため、教職員には「早期発見・事案対処マニュアル」を周知し、いじめが発覚した場合には24時間以内に報告し、適切な助言を受ける体制を整えています。アンケートを通じて早期発見が可能となり、情報共有のために定期的なミーティングや、グループウェアを使った情報提供を行っています。

これにより、迅速に対応できている事例もいくつかありますが、今後の課題としては、すべての学年で共通のいじめ防止対策プログラムを考え、実施していくことが挙げられます。そのためには、学級担任の先生たちへの研修を行う必要がありますが、少しハードルが高い部分もありますが、引き続き取り組んでいきたいと思っています。以上、いじめ防止対策についてのご報告でした。

金澤参与：今の説明の中で何件か事例があったということでしたが、今年度、または今年に入ってから、いじめに関する事例は何件把握されているのか教えてください。また、後援会も少し関わって、一緒に取り組む形で情報共有や連携を深めることが重要だと感じますので、その点についてもご検討いただければと思います。

板屋室長：いじめ対策委員会で議論された件数はおそらく数件程度だと思います。その中で、いじめ案件として高専機構に報告したのは、現在2件となっています。

渡辺副校長：後援会との連携についてのご意見、今まであまり考えていなかったもので、意見交換さ

せていただき、今後の協力方法について検討していきたいと思います。

香山会長：学校だけでなく、保護者の方々も一緒に見守り、正しい対応ができるようになることが重要ですね。

香山会長：いじめの定義に関して、今回の対象は「学生対学生」に限っているという理解でよろしいでしょうか。2ページ目のいじめの定義に、学生同士の出来事であると書かれていたのですが、その点について確認させていただけますか？

渡辺副校長：はい、その通りです。基本的には学生同士の問題として扱っています。ただし、学生生活の中で、例えば学生と教職員との間で発生するパワーハラスメントやアカデミックハラスメントなどについては、いじめという言葉を使うのではなく、別の形で対応しています。これらについては、ハラスメント防止のための対策を定めており、それに基づいて運用しています。

香山会長：いじめとは直接関係ないかもしれませんが、高専では途中で進路を変更、キャリアチェンジをする学生もいらっしゃるかと思います。その中で、もし不幸なことが原因となって進路変更がある場合、どのくらいの割合でそういったケースが発生しているのでしょうか。また、先ほど2件の事例が報告されたとのことでしたが、それらは解決し、安心して学生生活を送れているか、卒業まで支障なく進めているのかについても教えていただけますか。

渡辺副校長：具体的な退学理由はわかりにくいのが実情です。ただし、現状としては、退学の理由で最も多いのは成績不振です。また、進路変更については、例えば3年生終了後に大学を受験することができ、昨年度には国立大学に推薦で合格した学生もいます。前向きな進路変更の事例もあります。いじめを理由に退学した学生については把握しておりません。

#### （5）議題5「質疑応答・意見交換」

香山会長：それでは、ご用意いただいた4件の議題についてご説明いただきました。ここからは、全体的な質疑応答や意見交換の時間とさせていただきます。今回の議題に限らず、皆様にご意見をいただければと思います。

渡辺参与：普段なかなか聞けないお話を伺うことができ、大変勉強になりました。長野高専ではオープンラボやソーシャルイノベーション・サポート・センターなど、積極的にさまざまな取り組みをされていると伺いました。しかし、これらの活動が十分に周知されていないのではないかと感じます。先ほど長野県経営者協会の平林さんもおっしゃっていましたが、こうした取り組みをもっと広報に活用すれば、志願者の増加にもつながるのではないのでしょうか。

当社にもさまざまな組織や部署があり、デジタル分野にも力を入れています。取り組みが成功に結びつかないケースも多いです。評価書の作成も重要ですが、最終的なゴールは成果を上げることにあります。企業でも同様に、成果につながる取り組みを行うことが重要です。そのためには、ここにいらっしゃる幹部の皆様が、実現可能な指針を示し、具体的な形にしていくことが必要だと思います。

その点で、長野高専の皆様がさまざまなアクションをされていることは素晴らしいと感じました。今後は広報にも力を入れ、「こんな素晴らしいことをしている」ということをより積極的に発信していくべきだと思います。

江崎校長：私自身も、長野高専はこれまで入試広報などの活動にあまり積極的ではなかったのではないかと感じています。これまで3つの高専を経験してきましたが、他と比べてもやや控えめな印象があります。しかし、遠慮する必要はないと考えています。

そこで、私が着任後すぐに入試広報室を新設し、現在、広報活動を進めています。ただ、広報の内容をさらに検討しなければ、志願者増加にはなかなかつながらないというジレンマもあります。今回のご意見を参考にしながら、長野高専の取り組みを積極的に外部へ発信していくことを重視していきたいと思います。

香山会長：入試広報室では具体的にどのような活動をされていますか？

中山室長：現在、倍率の回復を目指し、特に中学生をターゲットに県内各地で説明会を開催するなど、昨年度以上に力を入れて取り組んでいます。また、後援会の方々にもご協力いただき、地域のネットワークを活用しながら中学生へのアプローチを進めています。

私自身、広報室長としての1年目ですが、地域によって長野高専に対する認知度に差があると感じています。近隣の学校では高専の存在は認識されているものの、その魅力を十分に伝えきれていないと感じます。一方、中信や南信の地域では、高専の存在自体を知らない方が多いのが現状です。そのため、ニュースの発信や地域での活動を通じて、まずは認知を広げることが重要だと考えています。現在進行形ではありますが、引き続き活動を進めていきます。

香山会長：信越放送様として、ご協力いただけることはありますでしょうか？

渡辺参与：はい。どんどん情報をください。長野県経営者協会のほうにも情報をどんどん提供して

ください。

平林参与：私の出身は松本ですが、中信や南信の地域では、長野高専の認知度が低くなっていると感じます。設立当初は「国立の工業高校ができる」と大きな話題になり、トップ校へ進学するよりも高専へ進むべきだという話もあったほどです。しかし、私が中学に入る頃にはそうした話題はほとんど聞かれなくなりました。おそらく、当時と比べて広報の力が弱まったのではないのでしょうか。

例えば、エプソンにも長野高専出身の役員クラスの技術者が以前はいましたが、最近はその話をあまり聞かなくなりました。それでも、高専出身の社員は毎年入社していますし、社内でOB会を開催すればかなりの人数が集まるのではないかと思います。こうしたネットワークを活用するのも一つの方法かもしれません。本日、代表取締役の方々も集まる機会があるので、長野高専をもっと大切にすべきだという話をしておきます。

香山会長：地域の人材育成は、長野県立大学なども含め、皆で協力して進めていくべきことだと思います。せっかくの機会ですので、最後に皆様から一言ずつお願いできますでしょうか？

丸山参与：義務教育を担当しています。以前も申し上げましたが、義務教育の中でも理系科目、特に理科や科学に興味を持たせることが重要だと考えています。その一環として、「長野スーパーサイエンスプロジェクト」を実施しています。信州大学や高専の協力を得て、学校外で展開しているこのプロジェクトは大変人気があり、申込みができないといった苦情の電話もあるほどです。つまり、理系に興味を持っている子どもは非常に多いのです。

そのため、彼らの関心をどう育てていくかが課題となります。将来の就職先を考える以前に、「新素材やバイオ技術を活用して地球環境問題を解決したい」といった高い志を持っている子どもたちが多くいます。SDGsについて学ぶ機会も増えており、そうした夢をサポートする取り組みが求められています。「就職に有利」といった視点よりも、より大きなビジョンを提示することが重要だと思います。

徳島の「神山まるごと高専」は、私も設立当初から注目していました。校長には経済産業省の五十棲氏が就任し、さらに素晴らしい学校へと発展していくことなのでしょう。全国的に注目されるこのような新しい取り組みが求められています。ただ単に「女子学生を増やそう」という動きではなく、「この道に進めばこんな未来が待っている」というビジョンを明確に示し、広報していくことが大切だと考えます。

私自身、市立長野高校を担当しているため、こうした課題に真剣に向き合っていきたいと思います。

倉島参与：理系、特に技術系の人材は産業界にとって必要不可欠ですが、私たちもまた企業をサポートする立場として、技術職の人材が不足していると感じています。工業技術総合センターには技術者が集まっていますが、さらに多くの人材が求められています。

特に化学や食品系、さらには電動化の進展に伴い電気系の人材も重要です。EV（電気自動車）は一時的に勢いが落ちているとはいえ、電動化の流れは止まりません。教育界全体で理系人材の底上げを図り、産業界とともに成長できるような体制を作りたいと考えています。

池田参与：私どもミマキエンジニアリングでも、高専卒の方は60人以上、エプソンさんには100人以上の方が入社されていると思います。しかし、昔に比べると高専生の存在感が薄れてきました。

私自身、「もう少し技術的に頑張ろう」と考え、技術者を集めようとしたのですが、全く人が集まりませんでした。そこで、長野高専さんに相談したところ、何人かが入社し、技術的なリーダーシップを取れるようになった、という経緯があります。

私はたまたま長野高専の電気工学科の2期生で、在学中に「電子計算機」の授業を少し受けました。その後、沖電気の子会社に入社し、当時はミニコンやオフコンに関わる仕事をしていました。あるとき、「この分野をやっていた」と話したところ、「じゃあ、お前が行ってこい」と任せられ、自然な流れで担当することになりました。

当時、設計はドラフターを使って行われていましたが、「将来的にはパソコン上で設計し、出力する機械が必要になる」と言われ、「じゃあ、それをやってみようか」と取り組んだのがプロッターでした。現在は、看板のカッティングやインクジェット技術へと発展しています。こうした流れを経て、技術はつながり、未来を見据えながら学ぶことが重要だと実感しています。

例えば、自動車業界はこれから大きく変化します。センサーが20個も搭載され、これまで5万円程度だった電子部品が30倍以上になるという話もあります。しかし、それらを動かすには結局ソフトウェアが不可欠です。バイオ技術も重要ですが、ソフトウェアはさらに重要であり、システムの機能性を高めるために欠かせません。

女性技術者の採用も積極的に進めています。バイオ分野も大切ですが、直近ではソフトウェ

ア技術がより求められると考えています。

長野高専の教授の皆さんが研究開発を進め、それに長野県の産業がついていく。そして、その流れの中に学生が入っていく。そんな未来の姿を描き、実現していければと願っています。

渡辺参与：今朝、テレビ番組で駒ヶ根工業高校のロボット部が全国優勝・準優勝したと報道されていました。家内も見ている「駒ヶ根工業ってすごいね」と感心していました。

こうした話題が広まることが非常に重要です。長野高専も素晴らしい活動を行っているのですから、もっと積極的にアピールすべきです。もったいないと思います。

平林参与：文部科学省には長野県出身の関係者がいます。うまく活用し、改革を進めてください。

萱津参与：私は県立大学の関係者として、さまざまな取り組みを学ばせていただく機会になったと感じています。

高専では非常勤講師を務めていますが、先ほども申し上げたとおり、高専には16歳から20歳の学生が在籍しています。高校では「生徒」といった呼び方をしますが、高専では「学生」となり、その違いを改めて考えさせられました。

また、先ほど先生方がご説明された「いじめ」という言葉についても印象に残りました。大学では「いじめ」という言葉をあまり聞きません。もちろん、ハラスメント対策は進めていますが、「いじめ」というキーワードが高専ならではのもののなのか、それとも大学でも対応が必要なのか、改めて考えさせられました。大学では、学生同士のトラブルにあまり介入しませんが、高専では担任の先生方がクラス単位で学生指導をしっかり行っていることを知り、大学としても見習うべき点が多いと感じました。

さらに、工学系だけでなく、現在、私たちの大学でも志願者の減少が深刻な課題となっています。そのため、学部の改組やカリキュラムの変更を検討している最中です。そうした背景から、会の最後に話題に上がった点についても非常に参考になりました。

小河原参与：今日のお話を伺い、改めてショックを受けたのは、やはり志願者数の減少についてです。この状況には非常に危機感を覚えています。

先ほど「高専のメリット」という話がありましたが、私自身が高専を選んだ最大の理由は「学費の安さ」です。ただ、近年、高等教育の無償化が進められようとしています。もしこれが実現すれば、高専の魅力が相対的に薄れ、志願者数がさらに減少するのではないかと危惧しています。

現在の志願倍率が1倍程度という話がありましたが、ほぼ全員が入学できる状況になれば、学力層がばらつき、特に下位層の学生にとっては厳しい環境になってしまうのではないかと懸念しています。私自身、学生時代は決して優秀ではなかったため、先生方にご負担をかけたと自覚しています。もし学力が追いつかず途中で脱落してしまう学生が増えるのであれば、入学前の段階で一定の基準を設けることも必要かもしれません。

もちろん、新しい学科やカリキュラムの導入によって志願者を増やしていく取り組みには大いに期待しています。しかし、学生のため、そして先生方のためにも、入学基準についても慎重に検討していただくべきではないかと思っています。

金澤参与：後援会では、学生の部活動や学生生活を支援する活動を行っています。また、県内には13の支部があり、それぞれの支部では親御さん同士の交流も行っています。

しかし、コロナ禍の影響で、しばらくの間、交流会を開くことができませんでした。現在は徐々に再開され、支部内での交流会や親御さん同士の意見交換ができるようになってきています。

高専生はあまり親に学校での様子を話さないことが多いですが、こうした交流を通じて、親同士のつながりを深めることができればと思っています。今後も後援会として、こうした活動を大切にしながら取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

香山会長：信州大学工学部では、高専生向けに3年次編入の枠を設けており、特に女子学生向けに20名の枠を設置しています。今年で2年目になりますが、定員40名のうち20名を高専女子枠としているのは、かなり大きな取り組みではないでしょうか。現在も絶賛募集中ですので、ぜひ来年も多くの学生を送り出していいただければと思います。

また、女子学生に限らず、工学全体が地域として発展していくことが重要です。特に長野県の北部は製造業が盛んな地域でもあります。先ほど県の方からお話がありましたが、地域のニーズに応え、地域を活性化させる形で連携していければと考えています。さらに、学びの面では、社会情勢やグローバルな視点を持つことも忘れてはならないと感じています。

## 7. 閉会

江崎校長から閉会として、本校の教育機関としての充実を図るため、参与の皆様からいただ

いた貴重な意見を今後の学校運営に活かしていきたい旨の挨拶があった。また、地域に根差した高等教育機関としてさらなる発展を目指し、引き続き支援と協力をお願いする旨の発言があった。



## 付録6 令和6年度教育改善委員会議事概要

### 令和6年度 第1回教育改善委員会 議事概要

日 時 令和6年6月5日（水） 15:00～15:35

場 所 第一会議室

出席者 松下英次，鈴木 宏，原 貴之，小林裕介，中島隆行，金田華実，学生課長の各委員

欠席者 遠藤典男，大西浩次

#### 議 題

##### 1. 2024（令和6）年度教育改善委員会の活動内容(案)について

資料 No. 1

・今年度の主な活動内容について説明があり，各項目について確認した。前年度の活動と大きな変更はないが，5年に一度行う卒業生・企業向けアンケートの実施年度のため，委員の協力について依頼があった。

・各委員の業務分担及び担当項目について説明があり，各自の担当を確認した。なお，担当項目の主担当について一部変更することとした。

##### 2. 各種点検・改善システムについて

資料 No. 2

・各種点検・改善システムの中で教育改善委員会として行う項目について確認すると共に，前年度と同様のスケジュール及び点検システムで行う旨の説明があった。

##### 3. エビデンス収集について

資料 No. 3

・エビデンスの収集作業手順，チェックシートの概略等について説明があった。エビデンスの収集依頼は成績確定後，事務から送付する。

・エビデンスのチェックシートの記載内容について意見交換を行ったが課題等が残り，再度検討することとした。

##### 4. 2022（令和5年度）年度報告書について

資料 No. 4

・報告書の概要について説明があった。

・各委員は報告書を一読していただきたい旨の依頼があった。

##### 5. 卒業生及び企業に対するアンケート

資料 No. 5

・今年度は5年に一度行う卒業生・企業向けアンケートの実施年度のため，資料に基づきアンケートを実施することを確認した。具体的な内容等は，メール審議等で検討していく。

次回開催予定 7月31日（水）15:00～第1会議室

## 令和6年度 第2回教育改善委員会 議事概要

日 時 令和6年7月31日（水） 15:00～15:40

場 所 第一会議室

出席者 松下英次, 鈴木 宏, 遠藤典男, 大西浩次, 小林裕介, 中島隆行, 金田華実,  
原 貴之, 学生課長の各委員

欠席者 なし

### 議 題

#### 1. FD 計画について

・委員長から現在までに予定しているFD研修会について説明があった。令和7年度に機関別認証評価受審のため、可能であれば年間4回の研修会開催を目指すこととした。

9/30（月）又は10/1（火）15:00～16:30「エンジニアリングデザイン入門メンター教員について」

開催時期（年度末頃を予定）「グローバルエンジニア育成センター」主催の研修会

・あと2回程度の研修会を計画したいため、今後検討していく。

#### 2. エビデンス収集について

資料 2-1-4

・令和6年度のエビデンス収集を行うに当たり、手順等について確認した。

・エビデンスの表紙のチェックリスト項目を増やすことについて審議し了承した。

・エビデンス収集期間を「成績入力期間+1週間程度とする」ことを確認した。

前期エビデンス収集期間 : 8/5（月）～10/8（火）

（参考）前期成績入力期間 : 8/5（月）～10/1（火）17:00

・エビデンスのチェックシートを各委員で作成・編集後、複数のファイルを一つに集約して管理していく。

・複数の系（学科）にわたる科目のエビデンスの運用等について確認した。

1年：ものづくり基礎工学・ものづくり基礎実験

2年：エンジニアリングデザイン

担当の評価（レポートや試験）エビデンス：担当教員、または各系（旧学科）が取りまとめる。

成績評価履歴+シラバス：成績入力者がまとめる。

ものづくり基礎工学・ものづくり基礎実験は、教務主事（具体的作業は事務が行うことを想定）エンジニアリングデザインは、環境都市工学科のまとめの教員

#### 3. 各委員会の年度重点項目について

資料 2-1-4

・委員長から各委員会からの提出状況等について説明があった。なお、高専機構本部との機関別認証評価および教育アセスメントに関する打ち合わせでの指摘事項に対する対応を検討するが、手順等が変更になる可能性があり、その際はメール審議又は対面での会議を開催して改めて審議する旨について併せて報告があった。

#### 4. 教育改善システムの実施と評価・点検について

資料 2-1-4

・グループウェアに掲載されているシステムの様式等について確認した。

・令和4度の報告書（学生課のキャビネットにある書類を各自で閲覧する）を参考に令和5年度の報告を作成するため、資料に基づき各種報告書の作成手順・方法等について確認した。

なお、高専機構本部との機関別認証評価および教育アセスメントに関する打ち合わせでの指摘事項に対する対応を検討するが、手順等が変更になる可能性があり、その際はメール審議又は対面での会議を開催して改めて審議する旨について併せて報告があった。

### 報 告

#### 1. 卒業生および企業に対するアンケート調査について

資料 No. 3\_1-3

・事務から卒業生および企業に対するアンケート調査の関係書類等について報告があった。また、アンケートの回答期限を9/30（月）とすることを確認した。

次回開催予定 10月2日（水）15:00～第1会議室

## 令和6年度 第3回教育改善委員会 議事概要

日 時 令和6年10月2日（水） 15:00～15:25

場 所 第一会議室

出席者 松下英次，鈴木 宏，小林裕介，中島隆行，原 貴之，金田華実の各委員

欠席者 大西浩次，遠藤典男，学生課長

### 議 題

#### 1. 令和6年度前期試験問題の保証確認について

資料1～2

- ・資料に基づき前期期末試験問題等のレベル保証確認の手順等について確認した。
- ・委員が確認シートを作成後，評価者に判定・押印サインをした書類を10月25日までに学生課へ提出する。後期は2月上旬に行う予定。

#### 2. 令和5年度授業改善システムチェック報告書の作成について

資料2

- ・令和5年度授業改善システムチェック報告書を作成するに当たり，作成の手順，原本の様式等について確認した。報告書は10月31日までに作成して学生課へ提出する。
- ・報告書を作成するための参考資料（令和4年度授業改善報告書等）は学生課で各委員が受け取ることにした。

### 報 告

#### 1. FD研修会について

資料3

- ・担当委員から9/30（月）に開催した第1回のFD研修会について報告があった。
- ・第2回の研修会の計画を，担当委員とグローバルエンジニア育成センター関係教員で準備を進めていくことを確認した。第3回の研修会は1月又は2月頃の開催を予定している。

#### 2. 卒業生および企業に対するアンケート調査について

- ・委員長から今年度を実施するアンケート調査の回答状況等について報告があった。  
8/7：対象者238名に関係書類発送（Google フォームでのアンケート締切：9/30）  
回答状況：卒業生・修了生（49件），所属企業・機関（14件）
- ・アンケート結果は担当委員で整理等を行っていく。

次回開催予定 11月27日（水）15:30～第1会議室

## 令和6年度 第4回教育改善委員会 議事概要

日 時 令和6年11月27日（水） 15:30～16:20

場 所 第一会議室

出席者 松下英次，大西浩次，遠藤典男，小林裕介，中島隆行，原 貴之，金田華実の各委員

欠席者 鈴木 宏，中嶋学生課長

### 議 題

#### 議事

##### 1. 授業改善システムの実施と評価・点検状況について

・各委員へ既に依頼している授業改善システムのチェック報告書の作成について、委員長から改めて依頼があった。作成した報告書は学生課へ提出する。

##### 2. 2024年エビデンスのチェック状況について

・委員長から本年度のチェックシートについて整理してほしい旨の依頼があった。工学科専門共通科目のチェックシートは、委員長が作成することとした。  
・作成したチェックシートは Teams へ保存することも併せて確認した。

##### 3. 卒業生および企業に対するアンケート調査結果等について

資料No.4-1

・委員長から今年度実施した卒業生および企業に対するアンケート調査結果報告書案について説明があった。内容等について意見等がある場合は、今週中に委員長まで連絡する。

#### 報告事項

##### 1. F D研修会について

資料No.4-2

・委員長から 11/13 に開催した第2回 F D研修会について報告があった。第3回以降の予定について意見交換を行い、1月にオープンラボに関すること、3月上旬にグローバル関係の F D研修会を計画していくことを確認した。

次回開催予定 1月21日（火）16:15～第1会議室

## 令和6年度 第5回教育改善委員会 議事概要

日 時 令和7年1月21日（火） 16:15～17:30

場 所 第二会議室

出席者 松下英次, 鈴木 宏, 大西浩次, 小林裕介, 中島隆行, 原 貴之, 金田華実の各委員

欠席者 遠藤典男, 中嶋学生課長

### 議 題

#### 議事

##### 1. FD 計画について

- ・第3回FD研修会の担当委員から1月29日（水）に開催予定のFD研修会の概要について説明があった。また、第4回FD研修会も担当委員を中心に準備を進めることを確認した。
- ・委員長から第三者評価の関係で5回目のFD研修会として自己点検システムに関する内容で計画していく旨の報告があった。

##### 2. 2024 年度エビデンスおよび試験問題レベルチェックについて

- ・令和6年度のエビデンス収集に関する手順等について再度確認した。
- ・後期・再試験のエビデンス収集期間を「成績入力期間＋1週間程度」を基に、以下の日程で行うことを確認した。
  - 後期エビデンス収集期間：2/12（水）～3/4（火）
  - 再試エビデンス収集期間：3/6（木）～3/18（火）
- ・複数の系（学科）にわたる科目のエビデンスの運用等について確認した。

##### 3. 試験問題類似度点検について

- ・委員長から今年度と前年度の試験問題類似度点検に関して説明があり、点検作業を行うことを確認した。点検するに当たり委員から以下の意見等があった。
  - 類似性の認識が教員により異なるため、類似性に関する申し合わせ等を作成してほしい
  - 類似性 50%の定義を示してほしい、どの範囲まで点検するのか？
  - 類似性が確認された場合の対応、点検量から教育改善委員会だけでは対応が難しい
- ・委員からの意見等を第三者評価対応委員会に連絡して検討いただくことを確認した。

##### 4. 3つのポリシーの見直しについて

資料No.1

- ・委員長から令和6年11月の執行会議で承認された3つのポリシーの見直しに関して説明があった。委員からアドミッションポリシー（入学者の受入れに関する方針）の入学選抜の基本方針に関して、推薦選抜において推薦書の作成者が明確でないこと、項目の記載順（項目3を一番初めに変更した方がよいのではないか）について意見があり、関係委員会へ報告することとした。

##### 5. 教育改善報告書目次（案）について

資料No.2

- ・令和6年度教育改善報告書を作成するに当たり、各項目の担当案について確認した。
- ・「令和6年度における各種点検報告」の担当の一部変更及び項目の追加（学生の満足度に関するアンケート調査、卒業生および企業に対するアンケート調査）について確認した。

### 報告事項

##### 1. 学生満足度調査について

- ・委員長から昨年度と同様に学生の満足度調査を行う旨の報告があった。回答はグーグルフォームで行う。回答率を上げるため、各委員から担任等へ連絡するよう依頼があった。
- 実施期間：本科・専攻科 1/20（月）～2/3（月）  
未回答者が多い場合 2/4（火）～2/10（月）

次回開催予定 3月17日（月）10:00～第1会議室

## 令和6年度 第6回教育改善委員会 議事概要

日 時 令和7年3月17日（月） 10:00～11:05

場 所 第一会議室

出席者 松下英次，鈴木 宏，遠藤典男，小林裕介，中島隆行，原 貴之，金田華実の各委員

欠席者 大西浩次，中嶋学生課長

### 議 題

#### 議事

##### 1. 教育改善報告書について

- ・ 前回の委員会で確認した分担に従い報告書を作成していくことを確認した。

##### 2. 試験問題類似性点検に係る申合せ（案）について

- ・ 委員長から試験問題類似性点検に係る申合せの作成状況及び課題（再試験，仮進級における試験の実施方法）等について報告があり，情報を共有した。
- ・ 今後，詳細等が決まり次第メール審議で対応していくこと，場合によっては来年度への継続課題になる旨の報告があった。

##### 3. 自己点検評価表について

- ・ 点検項目7の点検事項のについて原案のとおり修正することを確認した。修正後の点検事項：  
1. FD研修会を3回実施しているか。2. 実施FD研修会の効果を検討しているか。3. 点検事項を再検討しているか。

##### 4. 授業時間外の学習時間について

- ・ 執行会議で報告があった授業時間外の学習時間が減少している対策等については，教務委員会へ依頼することを確認した。

##### 5. 後期のエビデンスおよび試験問題レベルチェックについて

- ・ 令和6年度後期の試験問題レベルチェックの作成等について再度確認した

### 報告事項

##### 1. FD計画について

- ・ 委員長から第4回FD研修会を3月に実施するよう担当教員へ依頼済であること，認証評価に関するFD研修会は次年度に行う旨の報告があった。

##### 2. 学生満足度調査について

- ・ 1月下旬から実施した学生の満足度調査結果について報告があった。回答内容に個人名等が記載されているため，取扱いに注意するよう依頼があった。

##### 3. その他

- ・ 委員長から何件かメール審議を行う予定がある旨の報告があった。

次回開催予定 5月予定